



2023年 一般社団法人 心臓血管外科振興会年報 No. 4

Society for Promotion and Enhancement
of Cardiovascular Surgery (SPECS)
一般社団法人心臓血管外科振興会



2023年 一般社団法人 心臓血管外科振興会年報 No. 4

Society for Promotion and Enhancement
of Cardiovascular Surgery (SPECS)
一般社団法人心臓血管外科振興会

序 文

一般社団法人心臓血管外科振興会理事 北里大学医学部心臓血管外科主任教授 宮地 鑑



一般社団法人心臓血管外科振興会 Society for Promotion and Enhancement of Cardiovascular Surgery (SPECS) は、2019 年 12 月 3 日に旧北里大学心臓血管外科医局を母体として設立されました。法人設立から 4 年がたち、この度、年報 No.4 を発行することができました。当法人の 2023 年の活動報告をいたします。

2024 年 1 月現在、会員総数は 80 人（社）で、役員は代表理事として前北里大学医学部心臓血管外科教授の小原邦義先生、理事として、私、北里大学医学部心臓血管外科主任教授宮地鑑、ジャパンメディカルアライアンス理事長賛正基先生、北里大学医学教育研究開発センター地域医療学研究部門教授鳥井晋三先生、北里大学医学部心臓血管外科診療教授北村律先生、自治医科大学とちぎ子ども医療センター心臓血管外科教授岡徳彦先生が務めております。法人の社員には、北里大学病院心臓血管外科の各部門責任者と他関連施設の責任者が務めております。法人設立 4 年目である 2023 年は新型コロナウイルスの蔓延以前の状態に復帰し、一般社団法人心臓血管外科振興会の活動もほぼ回復した感があります。2023 年の当法人の活動をご報告したいと思います。

診療実績

関連施設は、2023 年 4 月に成田卓也先生が横浜労災病院心臓血管外科部長に就任され、横浜労災病院が関連施設となりました。10 月に藤岡俊一郎先生がたちばな台病院心臓血管外科部長に就任され、たちばな台病院が関連施設となりました。結果、関連施設は 2022 年より 2 施設増えて、北里大学病院を筆頭に全 14 施設となりました（図 1）。新型コロナウイルス蔓延の影響もなくなり、各施設ともにコロナ以前に復活している結果で、関連施設が増加したこともあり、法人全体で開心術が 878 例（14.9% 増、2022 年 764 例）で過去最高になりました。心大血管手術も、2022 年より 120 例増加して 1420 例（9.2% 増）となりました。開心術は北里大学が 268 例で最も多く、以下、国立静岡医療センター、海老名総合病院、自治医大とちぎ子ども医療センターの順となりました。心臓血管外科専門医制度上認められる手術件数（透析シャント造設・血管内治療含む）は 2941 例となり、10 人在籍している修練医（準会員）にとって十分な手術症例数を維持することができました。各施設の手術成績につきましては、後述の関連施設の項目をご参照ください。

研究実績・学術活動

英文論文では、井上崇道先生が International Journal of Artificial Organs に、北村律先生が General Thoracic and Cardiovascular Surgery に、松永慶廉先生が Journal of Thoracic and Cardiovascular

Surgery Open に、藤岡俊一郎先生が Annals of Vascular Disease に、松井謙太先生が Journal of Cardiology Cases に掲載されました。国際学会発表は、北村律先生が 1 月に The Society of Thoracic Surgeons (STS) Annual Meeting (San Diego) において、鹿田文昭先生が 5 月に The American Association of Thoracic Surgery (AATS) Annual Meeting (Los Angeles) において、北村律先生が 10 月に The European Association of Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting (Vienna) において発表しました。心臓血管外科領域での 3 大国際学会全てで発表することができました。一方、国内主要学会でも、多くの先生方が日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本小児循環器学会で発表しました。法人主催の学術集会である相模心臓血管外科懇話会は、第 23 回と第 24 回をともに The Okura Tokyo で開催しました。1 月には国際医療福祉大学医学部教授墨 誠先生と新百合ヶ丘総合病院血管外科部長金子健二郎先生を、7 月には埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科教授吉武明弘先生を招聘して特別講演をしていただきました。

関連施設・人事関係

関連施設は北里大学病院を含めて 14 施設となり、この 19 年間の関連施設数と会員数（医局員）の推移は図 2 の通りです。関連施設数および会員数は右肩上がりに増えており、今後、関連施設 20、会員数 100 を目指していききたいと思います。

人事では、2 月に成田卓也先生が千葉西総合病院から北里大学医学部講師として採用されました。また、井上信幸先生が北斗病院心臓血管外科部長から国立国際研究センターに移動となりました。3 月一杯で、宝来哲也先生が国立国際研究センター心臓血管外科部長を退任し、本法人の特別会員に推挙され、後任には井上信幸先生が就任しました。4 月には成田卓也先生が新たに関連施設となった横浜労災病院心臓血管外科部長として赴任、会員から社員に昇格しました。と同時に同院心臓血管外科の岡田拓先生が会員として当法人に入会しました。湘南厚木病院心臓血管外科部長の山本信行先生が井上信幸先生の後任として北斗病院心臓血管外科部長に赴任しました。湘南厚木病院の部長には海老名総合病院の榊健司朗先生が赴任、法人社員に昇格しました。かわりに海老名総合病院には相模原協同病院から笹原聡豊先生が移動となりました。後藤博志先生が国立国際研究センターから NTT 関東病院に移動、豊田真寿先生が群馬県立小児医療センターから湘南厚木病院に移動、代わりに畑岡努先生が竹田総合病院から群馬県立小児医療センターに移動となりました。松井謙太先生が北里大学病院から自治医科大学とちぎ子ども医療センターに、村井佑太先生が国立静岡医療センターから相模原協同病院に、中村優飛先生が NTT 関東病院から国立静岡医療センターに移動となりました。新規採用では、ニューヨーク大学病院心臓外科から内藤敬嗣先生が国立静岡医療センター心臓血管外科医長として採用されました。日本医科大学病院から泉二佑輔先生が助教（研究員として）北里大学病院に採用されました。石脇大喜先生（神戸大学卒）、金田咲良先生（熊本大学卒）、横塚洸先生（富山大学卒）、杉本明生先生（群馬大学卒）の 4 人が新入会員として加わりました。以上、中途採用の 3 名の先生を加えた 7 名の先生方が 4 月に入会しました。採用と同時に、金田咲良先生は国立国際研究センター心臓血管外科に、杉本明生先生は一般外科修練として会津竹田総合病院外科に出向となりました。

5月一杯で、荒記春奈先生がご主人の留学に伴い、スイスに留学となりました。

8月に松下弘先生がニューヨーク大学病院から留学を終えて、北里大学病院に戻りました。

10月より藤岡俊一郎先生が新たな関連施設であるたちばな台病院血管外科に部長として赴任、社員に昇格しました。シカゴ大学に研究留学中の林秀憲が Texas Children's Hospital のクリニカルフェローとして移動となりました。金田咲良先生が国立国際研究センターから北里大学病院に戻り、代わりに横塚洸先生が、国立国際研究センターに出向となりました。

2023年12月現在の賛助会員を除く、社員・会員・準会員の総数は大きく増えて55名となりました。今後も効率的かつ合理的に人事を行って多くの心臓血管外科医を育てていく所存であります。

個人的状況

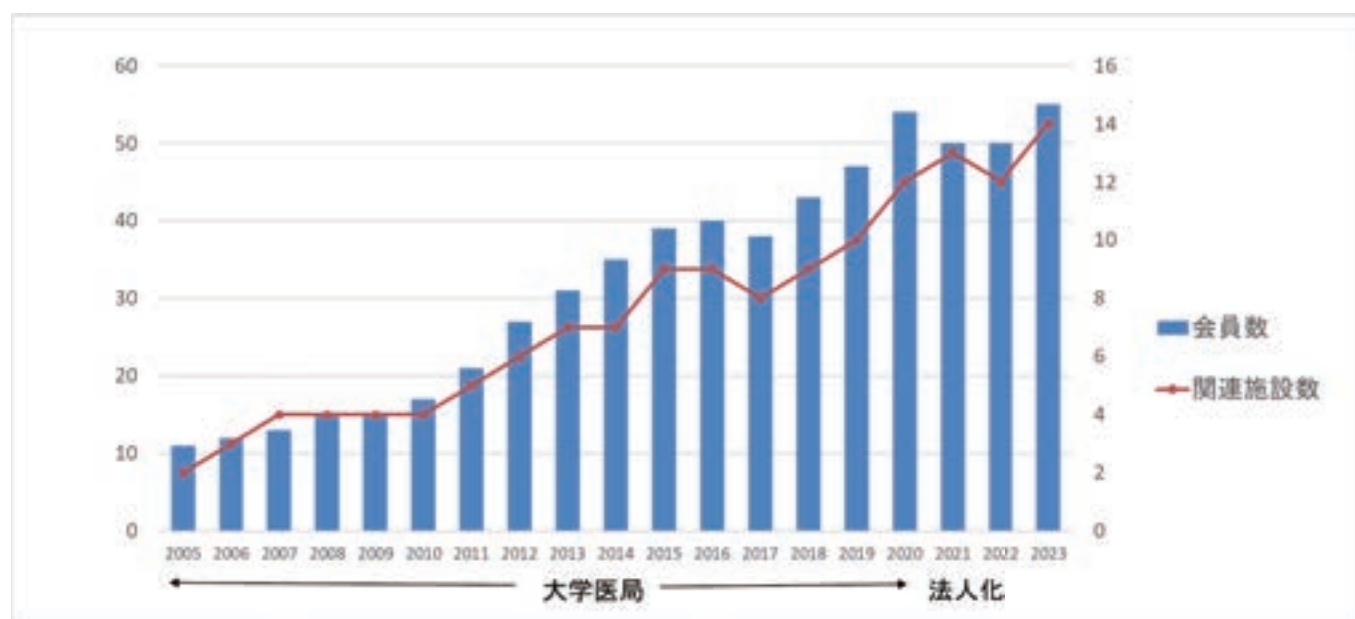
コロナ禍も収束し、ほぼ以前の生活に戻ってきました。学会も現地開催が当たり前となり、懇親会も開かれるようになりました。2023年は医局時代の恒例行事であった8月の屋形舟、12月のクリスマスパーティーを4年ぶりに行うことができました。年報の紙面も以前のような華やかなものになりましたので、ご供覧ください。また、国際学会にも発表を含めて参加することができました。私自身も1月のSTS (San Diego) と5月のAATS (Los Angeles) と10月のEACTS (Wien) に参加しましたが、3年ぶりの海外は円安による旅費・宿泊費の高騰に驚愕しました。新入会の先生方の同伴で3大主要学会は参加してきましたが、今後は年2回程度に控えて、同伴は発表のある他の先生にお願いするつもりです。

健康面では、相変わらず週1回、必ずジムに行き約90分、パーソナルトレーナーと筋トレとストレッチを受け、自宅で有酸素運動（エアロバイク）も週2-3回程度続けております。筋肉量や体脂肪率も変化なく、体重は昨年同様、何とか72kg前後を維持しております。この5年間ほぼ、トレーニングと有酸素運動の内容は変わっていませんが、加齢のことを考えるとむしろ若返っているものと自画自賛しております。

2023 年心臓血管外科振興会関連施設手術件数（図 1）

施設名	開心術 (OPCB含む)	心大血管手術 (TAVI, TEVAR, AAA, EVAR含む)	血管外科手術 (Shunt含む)	心臓血管外科 専門医制度上 合計
北里大学病院	268	442	195	676
国立静岡医療センター	88	179	8	187
海老名総合病院	76	151	94	249
自治医大とちぎ子ども医療センター	71	105	-	105
国立国際医療研究センター	66	99	115	214
群馬県立小児医療センター	65	91	-	91
NTT東日本関東病院	62	70	116	186
相模原協同病院	48	96	69	165
関東労災病院	43	63	24	87
湘南厚木病院	43	53	66	119
横浜労災病院	34	48	44	92
北斗病院	14	23	169	192
たちばな台病院	-	-	360	360
大和市立病院	-	-	218	218
	878	1420	1478	2941

過去 19 年間の会員（医局員）数と関連施設数の推移（図 2）



ご挨拶と近況報告

一般社団法人心臓血管外科振興会代表理事
北里大学客員教授 (前心臓血管外科学教授)
海老名総合病院心臓血管外科顧問 小原 邦義



【ご挨拶】

今年は元日の能登半島地震や翌2日の羽田空港航空機事故と大変な年明けとなりましたが、皆様方におかれましては、お変わりなくご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。また常日頃、当一般社団法人心臓血管外科振興会にご協力・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

当法人は宮地 鑑教授による発案と卓越した実行力により、2019年12月3日に設立されましたので、早4年が経過いたしました。この間、コロナ禍の影響を受け一時事業の停滞を見ましたが、本法人の設立趣旨にご賛同を得て、毎年新入会員を迎えることができ、また関連施設(2024年1月現在15施設)も会員数(特別会員、賛助会員を含め85名)も徐々に増えております。当法人では学術集会を年2回開催しておりますが、コロナ禍の収束に伴い通常通り現地開催できるようになり、その都度、関連領域の第一線でご活躍中の著名な先生方から貴重なご講演を賜るとともに、各関連施設からは珍しい症例の報告や1年間の成績発表をしていただいております。内容は小児心外、成人心外、血管外科とバランス良く網羅されており、会員にとって大変刺激になりかつ勉強にもなる会となっております。さらに会員相互間のコミュニケーションを深める意味でも有意義な会と考えております。

さて本法人の大きな目的は心臓血管外科専門医の教育・育成を通して専門領域において社会貢献することですが、今年度は新たに4名が心臓血管外科専門医の資格を得、さらに1名が修練指導者(attending surgeon)の資格を得ることができました。現時点で、本法人所属の心臓血管外科専門医有資格者は合計48名、修練指導者の有資格者は18名となり各所で活躍しております。また国内外における学会発表や学術論文の発表は以前にも増して活発に行われております。本法人としては今後も引き続き、若い先生方がより早く、また資格に見合った実力を有する心臓血管外科専門医ひいては修練指導者になり、社会に貢献できるよう多方面からサポートしていく所存であります。つきましては、皆様方におかれましては、本法人の事業と実績を温かく見守って頂くとともに、さらなるご支援・ご協力を賜れば幸いです。

【近況報告】

歳をとると予期せぬことがいろいろ起こるもので、前年度は家内の病気や転倒事故などで翻弄されましたが、今年度は私自身の病気で試練の年になりました。私は今年1月3日に数え80歳になりましたが、生来健康で高血圧以外特別の病気はありませんでした。しかし昨年5月頃から左下腿外側から足背にかけて痺れや時に痛みを感じ、長く立っていることがつらくなり、また非血管源性的の間欠性跛行が出てきました。当初は自分で腰部脊柱管狭窄症の神経根タイプと診断し、リリカやロキソニン

を服用して様子を見ておりました。しかし徐々に症状は強まり間欠性跛行も進行してきたので、ネットで調べ、脊柱管狭窄症に対する内視鏡手術で優れた実績を示す脊椎専門病院（都内）を昨年暮れに受診しました。MRI 検査などを受けた結果、L3-4 と L4-5 の 2 椎体間に黄色靱帯の肥厚による強い狭窄を認め、担当医師から手術適応があり手術の効果も十分期待できるとの説明を受けました。もちろん手術方法やリスクについての説明も受けましたが、何れも納得できる内容でした。私も心臓外科医なので器質的病変の強い弁膜症が薬で治らないのは十分承知しているので、時機を失することなく早く治したい一心から、その場で手術を受ける決断をしました。本年 1 月下旬に入院し、全身麻酔下に約 2 時間の内視鏡的除圧術（椎弓の一部を切除して視野を得、狭窄原因となっている肥厚黄色靱帯を切除する手術）を受けました。驚くことに術直後から以前の症状は殆ど無くなり、翌日から普通に歩けるようになりました。術後 4 日目に退院でき、その後の経過も順調で、今のところ無投薬で現在に至っております。遠隔地の学会や旅行にも不安なく出掛けられるようになり、また手術手伝いにもボチボチ参加できるようになったので、本当に手術を受けて良かったと実感しています。振り返ると少し冒険的なところはありませんでしたが、ベテランの執刀医に任せて受けた内視鏡手術の恩恵にあずかることができ幸いだったと思っています。

現在、私は週 2 日海老名総合病院に顧問として勤務し、たまに近くの湘南厚木病院（榑 健司朗部長）に手術のお手伝いに出掛けておりますが、恥ずかしながらあまり役に立つことはやっておりません。海老名では部長の賛 正基先生が一昨年理事長になられて以来多忙を極め、手術に入る時間も制約されるため、笹原 聡豊医長と大西 義彦先生が夜間の緊急手術を含め多くの手術を執刀し頑張っております。ただ若手二人の負担は大きく、働き方改革に引っかかっているのが気掛かりではあります。医長の柴田 講先生は定評のある大血管治療とくにステントグラフト治療を中心にご活躍ですが、MICS 僧帽弁形成術や sutureless AVR など先進的治療にも積極的に取り組んで安定した成績を出しております。

さて私にとって今年は専門医資格更新の年ですが、年齢を考え返納もありかと思っていましたが、まだ元気で働けるうちは更新すべきと考え直し、コロナ禍で不参加だった関連学会にせっせと参加して必要クレジットを集めています。幸い手術症例数と共著論文数は同僚諸兄の活躍のお陰で十分規準を満たしていますので、これが最後の更新になると思いますが、心臓血管外科専門医・修練指導者、外科専門医、循環器専門医の更新はできそうです。昔から“外科医の人生は助手に始まり助手に終わる”と言いますので、元気で働けるうちはそれを全うしたいと考えている今日この頃です。

文末になりますが、一般社団法人・心臓血管外科振興会ならびに北里大学医学部・心臓血管外科学教室の益々の発展を祈念するとともに、宮地 鑑主任教授をはじめ当振興会所属の諸兄姉並びに賛助会員各位の益々のご健勝・ご活躍を祈念いたします。

目 次

一般社団法人心臓血管外科振興会 2023 年事業報告	1
学術集会 第 23, 24 回相模心臓血管外科懇話会	7
海外留学報告.....	13
国際学会発表.....	19
行 事.....	31
関連施設実績報告.....	39
1. 北里大学病院	41
2. 大和市立病院	77
3. ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	81
4. 群馬県立小児医療センター	87
5. NTT 東日本関東病院	93
6. 独立行政法人労働者保険安全機構 関東労災病院	99
7. 特定医療法人沖縄徳洲会 湘南厚木病院	103
8. 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 (NCGM) ..	107
9. 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター	117
10. 社会医療法人北斗 北斗病院	133
11. JA 神奈川厚生連 相模原協同病院	139
12. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター	145
13. 独立行政法人労働者保険安全機構関 横浜労災病院	153
14. 医療法人社団 一成会 たちばな台病院	157
その他の施設.....	161
社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院.....	163
医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック.....	167
入澤クリニック.....	169
みらいハートクリニック.....	173
発刊によせて.....	175
一般社団法人心臓血管外科振興会会員紹介.....	177
広告.....	187

一般社団法人心臓血管外科振興会

2023 年事業報告

1. 庶務報告

2023 年 12 月 31 日 現在

会員総数 80 名（社）

新入会 8 名（社）

申出退会 0 名

会員内訳

社員 18 名

会員 27 名

準会員 10 名

特別会員 2 名

賛助会員 23 社

関連施設 14 施設

北里大学病院、海老名総合病院、大和市立病院、

群馬県立小児医療センター、NTT 東日本関東病院、

関東労災病院、湘南厚木病院、国立国際医療研究センター、

国立病院機構静岡医療センター、北斗病院、相模原協同病院、

自治医科大学とちぎ子ども医療センター、横浜労災病院、

たちばな台病院

2. 事業報告

(1) 正会員および準会員の募集・獲得

4名の初期研修修了の準会員と3名の正会員（専門医）を獲得した。結果、正会員（専門医以上）45名、準会員10名、特別会員2名となった。

(2) 賛助会員の募集・獲得ならびに寄付の募集

法人の理念に賛同する企業、賛助会員に新たに1社が加わり23社となった。医療法人社団一成会たちばな台病院から寄付をいただいた。

(3) 外科・心臓血管外科専門医研修・卒後教育プログラムの立案・遂行

外科専門医修練プログラム：北里大学外科専門医プログラム上で修練中の準会員7名の外科修練を行い、1名が外科専門医を取得した。

心臓血管外科専門医・振興会プログラム上で修練中の準会員8名のうち、4名が心臓血管外科専門医資格を取得した。2名が修練指導者資格を得た。

(4) 外科専門医及び心臓血管外科専門医指導施設・関連施設との相互協力・支援体制の構築

外科専門医関連施設：竹田綜合病院外科、国立静岡医療センター外科

心臓血管外科専門医修練施設：北里大学病院、海老名綜合病院、群馬県立小児医療センター、NTT東日本関東病院、関東労災病院、国立国際研究医療センター、国立医療センター静岡病院、北斗病院、湘南厚木病院、相模原協同病院、自治医大とちぎ子ども医療センター、横浜労災病院以上の関連施設と連携して外科専門医ならびに心臓血管専門医の育成に努め、それに必要とされる人的支援を法人として積極的に行った。心臓血管外科専門医取得のために必要な Off the Job Training (OJT) を2回開催した。

(5) 高度医療、先進医療技術の研究・開発促進への支援と臨床研究の推進

北里大学病院と国立病静岡医療センターでは、内視鏡補助下小切開心臓手術（MICS）を施行している。相模原協同病院、関東労災病院、NTT東日本関東病院では、北里大学病院から北村律先生を指導医として派遣して、MICSを施行した。北里大学病院では、手術支援ロボット（ダヴィンチ）補助による心臓手術を順調に行っている。補助人工心臓のDT（Destination Therapy）の施設認定を受け、実施した。寄贈された小児補助人工心臓駆動装置 EXCOR を1例に装着した。NTT東日本関東病院と相模原協同病院に加え、国立国際研究医療センターと国立静岡医療センターにハイブリッド手術室が設計・工事中である。これらの施設でもTAVIの実施を目指してゆきたい。

多施設共同臨床研究を成人心臓外科分野（北里大学病院・海老名綜合病院・国立国際医療センター・国立静岡医療センター）と小児心臓外科分野（北里大学病院・群馬小児・自治医大）で開始した。小児分野では、2024年のSTS（サンアントニオ）にて鹿田文昭先生が2演題、発表した。

(6) 有為な人材発掘のための情報発信

法人ホームページ (<https://www.specs.or.jp/>) にて法人の理念と活動内容を公開している。北里大学病院心臓血管外科として、2022 年 7 月に公開した YouTube 動画の現在の再生回数は 6374 回となっている。現在、国立病院機構静岡医療センターの YouTube 動画も同じアカウントで公開中である。

(7) 医師の労働環境・勤務条件の改善

北里大学病院では、臨床工学士による術後管理支援のために、2025 年度 4 名の臨床工学士増員が認められた。2024 年度の働き方改革にむけて、まずは北里大学病院勤務医師の労働環境改善を達成したい。関連施設についても順次、診療看護師によるタスクシフトを進めていく。

(8) 学術集会の開催

コロナ禍も落ち着いてきたため、関連施設ならびに正会員・準会員参加による学術集会「相模心臓血管外科懇話会」を 1 月と 7 月の 2 回、現地開催することができた。2024 年も 1, 7 月に学術集会を現地開催する予定である。

(9) 各種研究会、講演会の開催及び講師の派遣

「相模心臓血管外科懇話会」と同時に、1 月に新百合ヶ丘総合病院血管外科部長金子健二郎先生と国際医療福祉大学教授墨 誠先生を、7 月に埼玉医科大学国際医療センター教授吉武明弘先生を招聘して特別講演会を開催した。

(10) 正会員および準会員の海外留学支援および国際学会参加の支援

海外留学支援は申請者なし。国際学会参加支援については 1 月の STS（サンディエゴ）に北村律先生が発表、森久弥先生が新入会員として参加、5 月の AATS（ロスアンジェルス）に鹿田文昭先生が発表、横塚洸先生が新入会員として参加した。10 月の EACTS（ウィーン）には北村律先生が発表、金田咲良先生が新入会員として参加した。

3. 新入会員

- (1) 正会員 岡田 拓先生（2005 年三重大学医学部卒）
- (2) 正会員 内藤 敬嗣先生（2006 年東京大学医学部卒）
- (3) 正会員 泉二 佑輔先生（2012 年日本医科大卒）
- (4) 準会員 石脇 大喜先生（2021 年神戸大学医学部卒）

(5) 準会員 金田 咲良先生（2021 年熊本大学医学部卒）

(6) 準会員 杉本 明生先生（2021 年群馬大学医学部卒）

(7) 準会員 横塚 洸先生（2021 年富山大学医学部卒）

4. 新正会員（専門医会員）

(1) 土田 勇太先生（2014 年北里大学医学部卒）

関東労災病院心臓血管外科勤務

(2) 堀越 理仁先生（2015 年横浜市立大学医学部卒）

海老名総合病院心臓血管外科非常勤

(3) 豊田 真寿先生（2016 年横浜市立大学医学部卒）

湘南厚木病院心臓血管外科勤務

(4) 大西 義彦先生（2017 年浜松医科大学医学部卒）

海老名総合病院心臓血管外科勤務

5. 関連病院部長人事および社員選任

宝来哲也先生が 2023 年 3 月 31 日をもって国立国際医療研究センター心臓血管外科部長を退任、特別会員に就任されたことに伴い、関連病院部長の人事異動を行うこととなった。

転任

国立国際医療研究センター心臓血管外科部長

井上 信幸先生 前北斗病院心臓血管外科部長

北斗病院心臓血管外科部長

山本 信行先生 前湘南厚木病院心臓血管外科部長

昇任・社員

湘南厚木病院心臓血管外科部長

榎 健司朗先生 前海老名総合病院心臓血管外科医員

6. 新関連施設

横浜労災病院

2023 年 4 月 1 日より成田卓也先生が心臓血管外科部長として赴任、当法人の関連施設となった。
当院に勤務している岡田拓先生も法人に入会していただいた。

社員：成田 卓也先生（2000 年秋田大学医学部卒）
横浜労災病院心臓血管外科部長

たちばな台病院

たちばな台病院血管外科は心臓血管外科専門医上の協力施設として 2024 年に専門医 機構に申請した。2025 年以降に症例数の増加により、血管外科関連施設として申請する予定である。今後、血管外科修練のため、準会員を派遣してゆく方針である。

社員：藤岡 俊一郎先生（2008 年群馬大学医学部卒）前北里大学病院診療講師
たちばな台病院血管外科部長

学術集会

第 23, 24 回相模心臓血管外科懇話会

心臓血管外科振興会では、年2回「相模心臓血管外科懇話会」を開催し、理事会、社員総会、総会に続いて学術集会を催し、施設の手術成績報告や、難渋した症例の報告を行うことで、各施設の治療成績向上を図っています。

2023年1月開催の第23回懇話会では、富山大学医学部第二内科絹川弘一郎教授による「IMPELLAと外科的介入の組み合わせによる新たな心不全治療」と題したランチョンセミナーと、北里大学医学部循環器内科池田祐毅先生による「うっ血性心不全に対する静注利尿薬の使い分け」と題したコーヒープレイクセミナーの講演を賜りました。一般演題としては、大和市立病院、関東労災病院、NTT 東日本関東病院、北斗病院、湘南厚木病院、相模原協同病院、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、群馬県立小児医療センター、国立国際医療研究センター、国立病院機構静岡医療センター、海老名総合病院、北里大学の12施設14ユニットから前年の手術成績報告が行われました。それに引き続き、特別講演として、新百合ヶ丘総合病院血管外科金子健次郎先生の「unibody 型 AFX II の経験 ～ Active Seal の可能性～」と、国際医療福祉大学血管外科墨誠教授の「次世代型 EVAR Alto の経験 ～ Custom Seal の可能性～」の2講演を拝聴しました。



富山大学医学部第二内科 絹川弘一郎教授



北里大学医学部循環器内科 池田祐毅先生



新百合ヶ丘総合病院血管外科 金子健次郎先生



国際医療福祉大学血管外科 墨誠教授



代表理事 小原邦義先生



理事 鳥井 晋三先生



理事 賛 正基先生



新入会 岡田拓先生



第23回集合写真

7月開催の第24回懇話会では、東京医科歯科大学心臓血管外科藤田知之教授による「TAVI時代に期待されるAVRの役割」と題したランチョンセミナーと、東邦大学医療センター大橋病院臨床教授の志村信一郎先生による「私論・大動脈ハイブリッド治療」と題したコーヒープレイクセミナーの講演をして頂きました。一般演題としては、新たに加盟した横浜労災病院の紹介に続き、各施設での手術内容や難渋した症例、工夫した治療法などの発表がなされました。そして最後に埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科吉武明弘教授に、「オープンステントグラフトについて」と題した特別講演をして頂きました。



東京医科歯科大学心臓血管外科
藤田知之教授



東邦大学医療センター大橋病院臨床教授
志村信一郎先生



埼玉医科大学国際医療センター
心臓血管外科 吉武明弘教授



横浜労災病院部長 成田卓也先生



新入会 内藤 敬嗣先生



新入会 泉二 佑輔先生



新入会 金田咲良・杉本明生・宮地 鑑理事・石脇大喜・横塚 洸先生



新社員 榎 健司朗先生



理事会



懇親会



第24回集合写真

海外留学報告

留学報告

Children's Hospital OU Health

Oklahoma City, OK, USA

Attending Surgeon

中村 祐希

この原稿を書いている時点ではまだ契約書にサインをしていないのですが、以前勤務していたアイオワ大学心臓外科へ小児心臓外科のチーフとして戻ることになりました。チーフとしての job interview は普通の attending surgeon の job interview とは全く異なり、リーダーとしてビジョンを語ったり、面接をする人がそれぞれ各人にとって必要な要求を色々を出して来たり、病院の leadership にプログラムのための要求を理由をつけて提出したりと大変でした。以前アイオワで働いた経験があるということと、現時点でオクラホマの非常に良い成績の high volume center にいることが評価されたのかと思います。残念ながらオクラホマには心臓外科のレジデントプログラムがなくアメリカのボードは絶対に取れないのですが、アイオワに移動するとアメリカ胸部外科学会の専門医がとれる可能性が出てきて、さらに小児心臓外科のボードもその後とれる可能性があります。アイオワのプログラムは全く大きいプログラムではありませんが、心臓移植もあるプログラムであり、また現時点で色々な問題があることは認識しています。英語が母国語ではなく、現時点でアメリカの専門医を持っていない私がどこまで成功出来るか全く未知ですが、必死に頑張ろうと思います。

Texas Children's Hospital
Congenital Heart Surgery
Clinical Instructor
林 秀憲

2021 年 10 月より始まったシカゴ大学日比野成俊先生の元での研究留学が 2 年間で終了し、2023 年 10 月からヒューストンの Texas Children's Hospital で Clinical Instructor として臨床留学を開始しました。

シカゴ大学では、日比野先生が研究の経験がない私に丁寧に教えてくださり、さまざまなプロジェクトに携わらせていただき濃密な研究生活を送ることができました。その中でも主に動物手術を担当することで外科医としてのトレーニングを積み、さらに学会発表と論文執筆の機会にも恵まれ素晴らしい環境でした。これまでに他の医局の日本人を含め世界各国の医師がこちらのラボでの研究を志願したと聞いております。後任に決まった土田勇太先生も素晴らしい経験ができると確信しています。私の異動後土田先生が着任されるまでの間、動物を使用した研究が止まってしまうにも関わらず、日比野先生は私の都合を優先してくださいました。大変感謝しております。



左から私、日比野先生、土田先生



私の送別会（日比野先生とラボのシカゴ大学生たち）

臨床留学を開始するにあたり、宮地先生と岡先生にご相談させていただき、また中村先生には推薦状の執筆をしていただきました。この場をお借りして皆様のご厚意に心より御礼申し上げます。

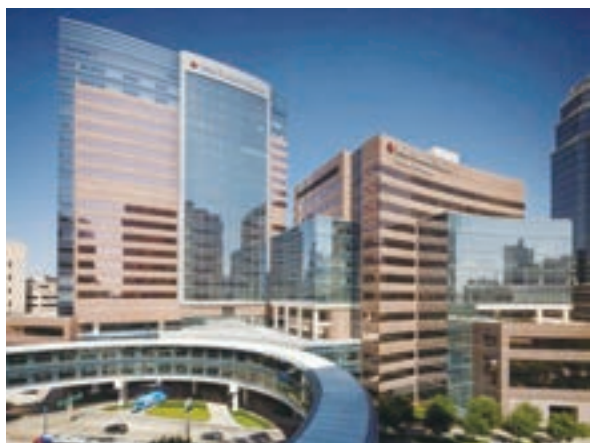
今回 8 つのプログラムに Clinical Fellow を募集していないかと問い合わせし、そのうち 5 つから好感触を得ることができました。実際にオファーをいただいた中でビザの種類、開始のタイミングを考慮し現在勤務している Texas Children's Hospital を選びました。こちらの病院はヒューストンの世界最大の医療複合施設である Texas Medical Center の中に位置し、他の 60 の施設、20 の病院（世界最大のがん拠点病院含む）と隣り合わせに立っております。Texas Children's Hospital の Congenital Heart Surgery プログラムは年間 1000 例以上の手術があり、U.S. News Best Children's Hospitals Ranking という全米で最も有名な格付けサイトの Pediatric Cardiology & Heart Surgery 部門で 7 年

連続全米 No.1 評価を受けています。Dr. Roger B. Mee の弟子である Dr. Charles D. Fraser Jr. がこれまでのプログラムに仕上げました。Dr. Charles D. Fraser Jr. は色々な事情で、現在は Dell Children's Medical Center へ移られましたが、Texas Children's Hospital はその後も良い成績を収め続けております。小児心臓外科専用の手術室が 4 部屋あり、月曜日から金曜日まで毎日並列で 3-4 例の手術が行われています。小児心臓外科専用 ICU が全て個室で 48 床あり、別に成人先天性心疾患専用の ICU が 12 床あります。手術に入るスタッフは Attending Surgeon が 7 名、Instructor (Fellow) が 4 名、RNFA (アシスタントとして手術に入る Ns) が 4 名です。VAD や心臓・肺移植の件数も多く、比較的稀な疾患・手術にもここでは多く触れることができ、非常に勉強になります。この特徴の一つはテキサス流と呼ばれるお作法です。これは毎回完全に同じ手順で一つ一つの手技を丁寧かつ確実に行ない、術野で血液をほとんど見ることなく手術を完遂するというものです。また、Attending Surgeon が多いということで手術方針についての活発な意見交換も持たれています。さらに術後管理をする ICU Doctor の存在により外科医が完全に手術のみに専念できるシステムがあります。High Volume Center ということで、心臓外科医だけでなく、ICU Doctor、麻酔科医、循環器科医、人工心肺技師、手術室看護師全員が周術期の一連の流れに慣れている印象で、術後の患者があっという間に退院していきます。

手術は基本的に Attending Surgeon が執刀し、Instructor (Fellow) が第一助手、RNFA が第二助手として入ります。話に聞く他のアメリカのプログラムと違い Instructor (Fellow) が執刀するチャンスはないですが、膨大な数の手術(年間 270 例ペース)に第一助手として入っており、見たものをどう自分の糧にしていくかが重要だと考えております。英語での意思の疎通は難しいところも多いですが、充実した日々を楽しく感じています。シカゴ大学の日比野先生が、研究から臨床に移った最初はドレーンを抜くのも楽しかったとご自分の体験談をお話してくださいましたが、まさに自分も久しぶりの臨床ではじめの頃は手術前に患者の体位を整えるだけでも楽しいと感じていました。

余談ですが、Texas Medical Center の中で Texas Children's Hospital から車で 4 分程のところに Children's Memorial Hermann Hospital という小児心臓外科手術を年間 300-400 件行なっている病院があり、そこに今回日本人の先生が Instructor として採用されることになりました。日本人はハズレが少なそうだということで日本人向けの SNS で求人募集をしていました。これまでに優秀な日本人の先人方が世界中で活躍されてきたことで、我々日本人に対して好印象を抱いている方が多いと感じます。

ヒューストンに来て、すでに 3 人の Attending surgeon が主催するホームパーティーに招待していただきました。どの先生の家もとてつもなく大きく高級感のある内装でした。月並みな表現ですが「これがアメリカンドリームか」と痛感しました。金銭面でも Attending Surgeon と Instructor (Fellow) の違いは歴然です。私も早く Attending Surgeon になれるよう精進しようと思います。



Texas Children's Hospital



Texas Medical Center



緊急手術の様子



Attending の子供の誕生日を祝うホームパーティー

Queensland Children's Hospital

Queensland Paediatric Cardiac Service, Paediatric Cardiac Surgery Fellow

井上 崇道

一昨年の11月からQCHのフェローとして働かせて頂いています。早いもので1年半が経過しました。最初は職務も病院のシステムもよくわかりませんでしたが、徐々に慣れ、各部署にも顔を覚えてもらえて市民権を得た感じがします。手術に関しては、young consultantを含めて3人の執刀医がおり、執刀はほとんど回ってきませんが、Ross手術やASO、大動脈弁形成術、Norwood手術の第1助手をさせて頂ける機会が増えてきました。手術の手順や手術前後のマネジメント、ストラテジーをしっかり学び、執刀出来るチャンスが奇跡的に巡って来た時に備えたいと思います。

ブリスベンは変わらず気候がよく、家族もとても気に入っています。ビザの期限等があり、残れないのが悔やまれます。子供達は現地校に通っていますが、あっという間に英語を学び、友達もたくさん出来て、とても楽しんでいます。彼女達の為にもまだ海外で経験を積みたいと思います。

今年度も皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



Queensland Children's Hospital

国際学会発表

国際学会発表

STS 2023 (59th Annual Meeting, San Diego, January 21-23)

林 秀憲

The Validity of 3D Printed Custom Designed Tissue Engineered Vascular Graft Created Using Flow Dynamics in Porcine Pulmonary Artery Reconstruction Model

2023 年 1 月に San Diego で行われた STS 59th Annual Meeting では、Flow Dynamics を用いて理想的な形態の Tissue Engineered Vascular Graft (TEVG) を作成し豚の肺動脈へ移植した場合と、PTFE 人工血管を移植した場合とを比べ、TEVG の有効性を示したという内容でオーラルの発表を行いました。2022 年 CHSS の時よりは質問に対しても応対でき安堵しました。このテーマで執筆した論文で UJA 論文賞をいただくこともでき、日比野先生のされている先進的な研究に携われて本当に幸運でした。

臨床も含め他の方の発表を聴講し、大規模な臨床研究や日本ではなかなか見ることができない手術に関するの討論などとても興味深かったです。

また、この STS では Hands-On に参加し、Konno 手術や僧帽弁形成術のトレーニングを受けました。参加費用はとても高額でしたが、非常に丁寧に教えてくださり十分その価値はあると思いました。臨床を始めてから休暇を取りにくくなりましたが、今後も積極的に学会へ参加したいと思います。



STS Presentation (2023 年 1 月)



STS Hands-On (2023 年 1 月)



演者 林 秀憲

2023 STS Annual Meeting (San Diego)

北村 律

コロナ禍が明けたので、久しぶりに国際学会に演題を出しました。海外では IMH: Intramural hematoma（偽腔閉塞した大動脈解離）に対して緊急手術を行うのが主流ですが、日本や韓国では、発症当日の手術は行わずに、少し経過を観察すること多いのが現状です。欧米で行われていない治療法なので、国際学会で採択される可能性も高いかと考え、STS（アメリカ胸部外科学会）に応募したところ、Oral で採択されました。招待ではなく Abstract 応募で採択された日本人はごくわずかでした。北里では、症例を丁寧に選べば、5年間で65%の患者さんが上行大動脈の手術をせずに済んでいて、生存率も手術療法と変わらないので、保存的治療も悪くないですよ、という内容です。質問も多数受け、感触が良かったので、学会誌の Annals of Thoracic Surgery にも掲載されるといいな、と思っていたのですが、こちらは Reject されました。せっかく論文にしたので、日本の胸部外科学会雑誌に投稿し、Accept されました。(Kitamura T et al. Watch-and-wait strategy for selected patients with type A intramural hematoma. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024;72:225-231.) サンディエゴは3回目だったのですが、気候もよく、街中は安全で、相変わらず魅力的なところでした。ただ円安のため懐には優しくなくなっています。コロンビア大学で頑張っている同級生の高山博夫にも会え、ちょっと高めのテキーラとメスカルも買い、ついでに少しだけ留学中の次女の顔も見ることができ、有意義な出張でした。ただ、去年の年報にも書いた通り、着いた当日からひどいめまいに悩まされました。同行した森先生が沢山スニーカー買っていたので、次にアメリカに行った際には僕もスニーカーを買おうと思いました。



演者 北村 律



国際学会（STS 2023）参加を終えて 森 久弥

2023年1月20～23日、サンディエゴで開催された国際学会 (STS 2023 59th Annual Meeting) に参加させていただきました。私自身、アメリカは初めての地でしたので、非常に楽しみでした。開催期間は1月でしたが、現地の気候は暖かく、昼間は半袖でも過ごせる時もありました。コンベンションセンターで国際学会会場、業者さんの展示会の規模に圧倒されました。開催初日、北村先生による『IMH 患者に対する経過観察の戦略』の発表を筆頭に、最終日には、林先生が『血管グラフトのデザインにおける 3D プリントの有用性』について発表されていました (Tadashi Kitamura, MD, PhD, Watch-and-wait strategy for selected patients with type A intramural hematoma / Hidenori Hayashi, MD, The Validity of 3D Printed Custom Designed Tissue Engineered Vascular Graft Using Flow Dynamics in Porcine Pulmonary Artery Reconstruction Model)。海外の先生方からの質問に対して屈することなく堂々たる姿勢で回答していらっしゃった姿が鮮明に残っています。自分もいつかあの舞台に立って発表出来たらと…日々精進して参ります。会場では宮地教授、北村先生をはじめ、世界の先生方と握手され気さくに交流されていた姿が印象的でした。また 2023 年度より、静岡医療センターでご勤務されています内藤先生にご挨拶することもできました。海外で活躍されている先生方と交流させていただき、非常にモチベーションアップになりました。

初めての国際学会を通して印象に残った症例報告がありました。オハイオ州のクリーブランドクリニックのハニ・ナジム先生の発表です。妊娠 26 週の胎児の巨大心膜内奇形腫に対する胎児手術の 1 例報告です。帝王切開のように子宮を露出させ、超音波で胎盤と胎児の位置を確認しつつ子宮を切開、胎児の手を体外へ出し、ルートを確保、輸液や薬剤の投与を行なうことで、胎児の心臓に位置する腫瘍を摘出し、術後、児の心機能は改善し、10 週後無事に出産することができたと言った内容でした (Hani K. Najm, MD, Cleveland Clinic, Innovative frontiers in cardiac surgery: succesful open fetal surgical resection of intrapericardial teratoma)。自分の勉強不足ではありますが、少なくとも自分が医師になって働き始めてから、聞いたことのない衝撃的な手術内容であり、世界の医療を知ることができ刺激になりました。雑談にはなりますが、ランチョンセミナーではポテトチップス、コーラ、サイダーなどジャンクな物が並べられており、国際学会ならではの新鮮な雰囲気を楽しむことができました。自由時間は街中を散歩し、US 製のスニーカーを探しに行ったり (4 足お土産に購入)、ローカル電車に乗りながらメキシコ国境近くのアウトレットモールに出かけたり、有意義な時間を過ごしま



Drink



Snack

した。また宮地教授とショッピングセンターに行きお酒を飲んだり、北村先生とテキーラ探し、巨大なハンバーガーを食べたことが印象に残っています。現地で食べた刺身やウニは新鮮でとても美味しかったです。

宮地教授・北村先生をはじめ、法人の先生方のご支援・ご協力により、このような貴重な機会を頂き、心より感謝いたします。今後ともご指導の程、何卒宜しくお願い致します。



コロンビア大学高山博夫先生・北村・宮地



ワイナリーにて
高山先生・宮地・北村



林・北村・東大呼吸器外科教授中島淳先生・宮地・森

103 回 AATS での発表

北里大学医学部心臓血管外科学 鹿田 文昭

Long-term Outcomes of Hypoplastic Left Heart Syndrome with Analysis of Norwood Procedure in an Infant after Bilateral Pulmonary Artery Banding

左心低形成症候群に対する Norwood 手術の三施設（北里，群馬県立小児医療センター，自治医科大学とちぎ子ども医療センター）の共同研究の成果が 103 回 AATS (The American Association for Thoracic Surgery, 2023/5/6-9) Congenital Poster Viewing Showcase で採択された。学会開催場所は Los Angeles Convention Center で、横塚 洸先生と出席しました。

発表内容は 3 施設で Norwood を施行された 46 例を対象とし、Norwood 施行時期を、新生児期群 (23 例) と乳児期群 (23 例) に群分けを行い、比較検討をした。結果は、両群とも早期生存率は 91.3% であり、10 年後の生存率は有意差を認めませんでした。(新生児期群: 76.3%, 乳児期群: 68.7%)。Fontan 到達率も両群間で同等であった。新生児期群では、PA index が高い傾向を認め Fontan 術後 5 年後までその傾向を認めました。さらに、新生児期群は Fontan 術後の蛋白喪失性腸症の発生率が有意に低値でした。結論は、Norwood 手術のタイミングに関わらず、Fontan 到達率および生存率は同等と期待でき、新生児期に手術を行うことで、PLE のような Fontan 関連合併症の発生率を低下させる可能性があることを示唆しました。なおこの研究成果は、JTCVS open で採択されました。

今回初めて AATS で accept されました。素晴らしい手術成績を維持され、このような研究機会を頂きました宮地教授、データ収集にご協力頂きました群馬県立小児医療センター，自治医科大学とちぎ子ども医療センターの先生方に感謝いたします。

北里大学医学部心臓血管外科学 横塚 洸

AATS 参加報告

2023 年 5 月に米国ロサンゼルスで行われた米国胸部外科学会に参加させて頂きました。初めての米国で空港到着から目当てのバスに乗るまで 1 時間、ホテルに着くまで 3 時間と洗礼を浴びました。現地では鹿田先生に案内して頂き、ハリウッドの観光から学会での歩き方、食事に至るまで大変お世話になりました。学会のメイン会場は数百人は入りそうな広さで、そこで日本の先生が発表されていました。これだけ広い会場で世界中からの聴衆がその発表に耳を傾ける。そんな舞台で自分も発表してみたいと強く感じました。そして英語力の強化は避けて通れないことを実感しました。知識を得るだけでなく、人脈を広げるという点で英語が出来ないというのは大きなハンデキャップであり、国際学会に参加する意味がほとんど無くなってしまうくらいだと実感しました。少しずつ英語の勉強をしていこうと思います。入局早々に大変貴重な経験をさせて頂きました（大谷翔平の試合を日程調整の都合で見ることが出来なかった事だけは心残りですが…）。このような機会を頂きました宮地教授はじめ心臓血管外科振興会の先生方に深く感謝申し上げます。



Poster 会場
鹿田・横塚



横塚 洸



宮地 鑑教授



Angels 大谷翔平選手



野球観戦 東海大学長教授と



Emory 大学心臓胸部外科で、大動物を使用した基礎研究をしている小野原先生とラボメンバー、臨床をしている日比野先生と食事会をしました

ASCVTS 2023 第 31 回アジア心臓・胸部外科学会へ参加して 国立国際医療研究センター病院 井上 信幸

2023 年 5 月 31 日から韓国の釜山（プサン）で開催された ASCVTS に、ポスター発表をしてきました。「Inhaled nitric oxide reduces duration of mechanical ventilation after cardiac surgery with perioperative pulmonary hypertension」という題名で、北斗病院で行った後ろ向きの比較研究です、肺高血圧を伴う開心術に対し、一酸化窒素吸入療法を用いなかった群と、（抜管後にはハイフローを使用し）用いた群間で、人工呼吸器管理の時間に有意な差がみられた、という内容での発表です。

韓国はソウルでのトランジット以外では初めてでしたので、とにかく郷土料理を食べまくってきました。何を食べてもとても美味しかったのですが、総菜の小皿もきれい食べきりたいと思うこちらの気持ちと、皿が空くと店オモニがすかさず総菜を足してくる慣習に、「も大丈夫です」と「いいのよ遠慮せず食べなさい」とのせめぎ合いが 3 ターンほどあり、満腹を超えた苦しみを味わいました。また娘たちに頼まれた韓国コスメの番号を持って、化粧品店をさまよっている自分の姿に、昔父が海外旅行の前に、姉たちに頼まれた化粧品の番号を細かくメモしていた影が重くなりました。お父さん大変でしたね。



EACTS 37th Annual Meeting (Vienna)

北村 律

EACTS（ヨーロッパ心臓胸部外科学会）にも2演題出したのですが、通ったのはやはりIMHのネタでした。ミニではなくフルサイズのOralで通りました。日本ではIMHの患者さんに対して頻繁にCTを撮るのですが、以前から発症早期に偽腔が小さくなることに気づいていました。発症からCT撮影までの時間と、偽腔の厚さの関係を詳細に解析して、それらが相関することを示し、撮影のタイミングを考慮しないまま初回CTの偽腔の厚さのみで治療方針を決めてもしょうがないのではないか、という趣旨の発表をしました。学会発表の現場ではやはり保存的治療に懐疑的な意見が出て、質問もCT所見というよりは治療方針に関するものが多かったのですが、今回の発表内容はこれまでに誰も語ったことがないものだったので、論文の査読者は好意的な印象で、学会誌のEuropean Journal of Cardio-Thoracic Surgeryに掲載されました。（Kitamura T, Shikata F et al. Initial thickness of the crescent may not be a reliable predictor of complications in type A intramural haematoma. Eur J Cardiothorac Surg. 2024;65:ezae006. doi: 10.1093/ejcts/ezae006.）グラフ作成をしてくれ、統計解析を手伝ってくれた鹿田先生に感謝です。ウィーンは4回目だったのですが、歴史、文化、建築、音楽、絵画、それにおいしい食事と安全があり、最も好きな、そして最もおススメできる街です。今回も絵を買って帰りました。これからも無い知恵を振り絞ってまた挑戦したいと思います。

海外学会参加報告

金田 咲良

昨年10月にウィーンで行われたEACTSに参加させていただきました。

初めて参加する国際学会は規模も桁違いでその雰囲気には圧倒されました。

北村先生はじめ、大きな舞台で堂々と発表される日本人の先生方の発表を拝聴いたしました。異国の地で英語で的確に質問に答えられている姿を見て、とてもカッコいいなと思いましたし、私もいつかここで発表したいというモチベーションにつながりました。

また、現地で参加したウェットラボでは、言語の壁に直面し会話についていけないさみしさも肌で感じつつも、愉快的イラン人女医に助けられ楽しく勉強させていただきました。

現地では現在スイスに留学中の荒記先生ともご一緒させていただき、会場で大きなチャンスを得られていらっしゃった姿を見て、私も現状に満足せずにどんどんチャレンジしていく姿勢を持ち続けようと感じました。ウィーンの街並みはとてもきれいで、ご飯もとてもおいしく見事に2kg太って日本に帰国しました。

今年度のEACTSはリスボンで開催されるようで、リスボンに行っておいしいお昼ごはんを食べたい一心で私もチャレンジしてみたいと思います。

勤務して早々にウィーンに行ってしまう、少ない人員の中大学病院の先生方には大変ご迷惑をおかけしました。このような機会をくださった振興会の皆様と大学病院の先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



演者 北村 律



北村・千葉西総合病院
中村喜次先生



今回、購入した絵画



宮地杏子・荒記・宮地・北村・金田

行 事

OJT: Off-the-job Training (5 月、9 月)

心臓血管外科の修練においては、手術室外でのトレーニング (OJT: Off-the-job Training) も重要で、専門医申請にも 30 時間以上の OJT の経験が必要です。また、専門医取得後の外科医にとっても、OJT は新たな術式を学ぶために重要な機会です。

5 月の OJT では、人工心肺に関する理解を深めてもらう目的で、若手外科医を対象にした人工心肺回路のプライミング、人工心肺シミュレーター操作のトレーニングを行い、中堅医に対してはブタ心臓シミュレーターを用いた OPCAB のトレーニングを行いました。また、9 月の OJT では、若手外科医を対象に大動脈弁置換を、中堅医を対象に大動脈弁輪拡大、人工弁周囲逆流の対処法のウェットラボを行いました。

(北村 律)



5 月 OJT



9 月 OJT



納涼会（8月）

毎年恒例の夏の屋形船が、コロナ禍のために 2019 年を最後に中止となっていました。2023 年は 4 年ぶりに開催されました。いつも通り品川を出港しお台場で停泊、料理に舌鼓を打ち、その後隅田川からスカイツリーを巡るクルーズでした。久しぶりに 100 名近い人数が集まり楽しい時間を過ごしました。

（北村 律）



女将さんと宮地教授



北里大学病院総合手術センターのスタッフ



田村佳美・新入会の石川先生





2次会 静岡チーム



小児チーム



美しい夜景・・・

クリスマス・パーティー（12月）

コロナ禍の影響でここ4年間は開催しておりませんでしたが、北里大学病院で1年間ともに働いていただいた先生方のご家族をお招きするクリスマス・パーティーを開催しました。2023年12月16日土曜日に、今回で2回目となるマーヴェラス パラディ白金で開催しました。ひろびろとしたレストランを貸し切り、店長はじめスタッフの方々の気遣いに感激しました。久しぶりの開催で、初めてご参加の先生方のご家族にお会いすることができて、感激でした。また、久しぶりに私の長女の杏子も参加し、例年どおり参加人数も40人を超え、かなりの盛会となりました。先生方のご家族のご理解・ご支援があってこそこの北里大学心臓血管外科です。奥様をはじめ、ご家族の皆様、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

（宮地 鑑）



忘年会（12月）

忘年会も4年ぶりの開催となりました。以前と同じく南町田の日帰り温泉に多くの関連部署、関連施設、賛助会員から多数の方々にお集まり頂き、夜遅くまで歓談を楽しみました。ポストコロナとは思えない昔ながらの出し物もありました。我々の診療が、いかに多くの方々の御支援、御協力を頂いて成り立っているかを再認識した会でした。

（北村 律）



福隅・宮地教授



松下・北村・中島・福隅



幹事 金田・石脇





循環器内科 阿古教授



みんな楽しそう～！！



田村佳美・松下弘

関連施設実績報告

1. 北里大学病院



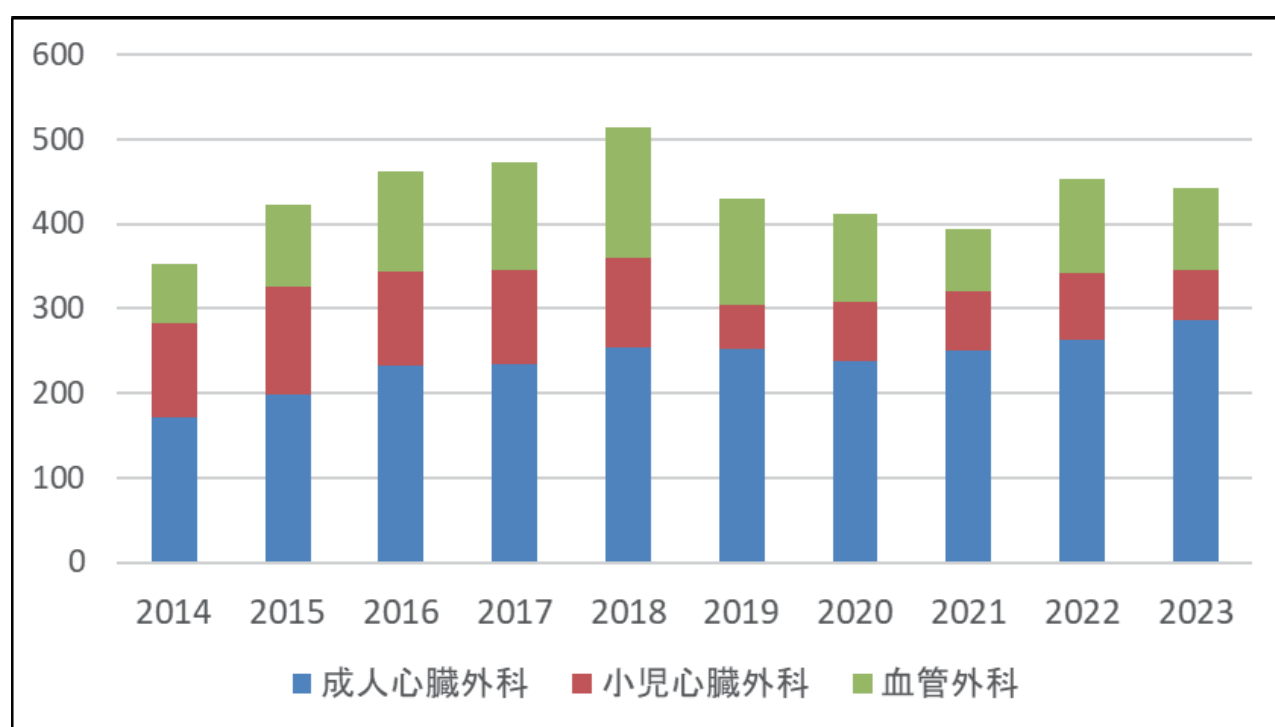
北里大学病院心臓血管外科 2023 年臨床成績

手術症例数（2023/1/1 - 12/31）

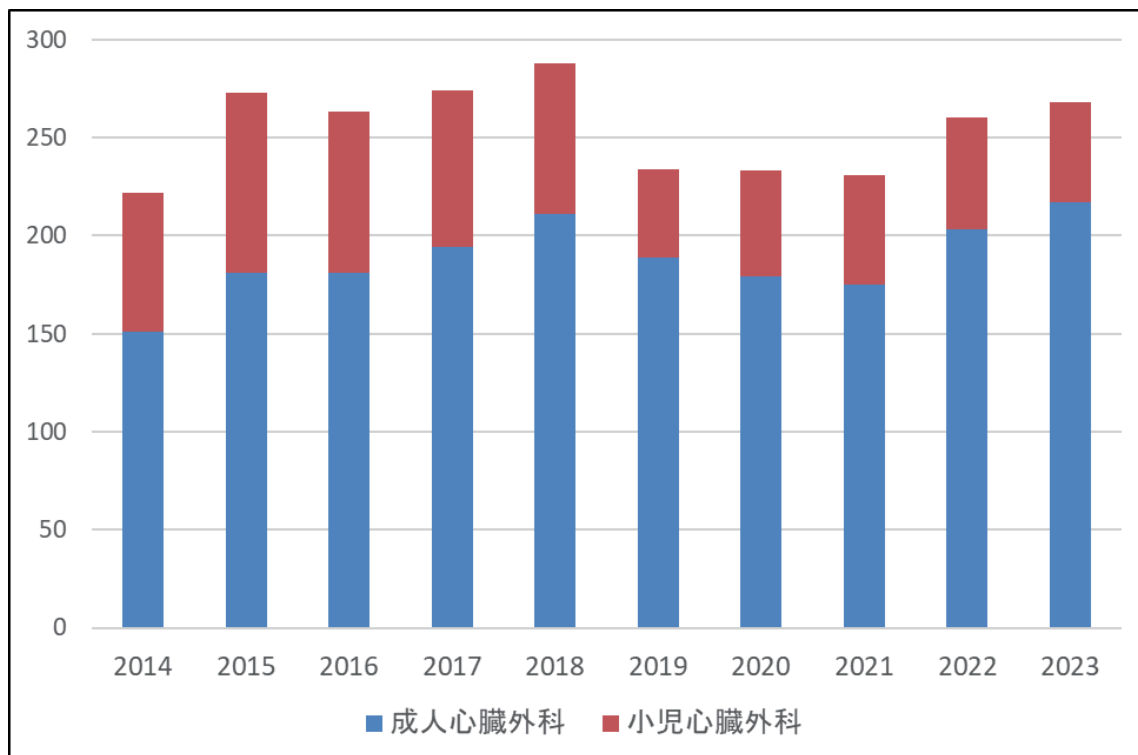
	成人	小児	血管	合計
開心術 (OPCAB含む)	217 (11)	51 (0)	—	268 (11)
心大血管手術 (TEVAR TAVI EVAR AAA含む)	286 (11)	60 (0)	96 (0)	442 (11)
専門医制度上 心臓血管外科手術 (シャント・カテーテル治療)	325 (11)	60 (0)	291 (0)	676 (11)

手術死亡：11 例（括弧内）、1.6%

過去 10 年間の心大血管外科手術症例数の推移



過去 10 年間の人工心肺症例数の推移（OPCAB 含む）



今年のまとめ

- ① コロナ禍による影響はほぼなくなり、緊急症例もほぼ全て受けて手術を行うことができた。その結果、人工心肺症例数は 268 例で（前年 260 例）より若干増加した。成人開心術は過去最高を記録したが、小児開心術症例が減少した。血管外科症例も若干減少し、結果的に心大血管手術および専門医制度上心臓血管外科手術症例数は微減した。
- ② 手術死亡は 11 例で、全体の死亡率は 1.6% で前年（0.9%）より悪化、開心術死亡率も 4.1% で前年（1.9%）よりかなり上昇した。
- ③ 昨年末に掲げた 2022 年の目標：
 - 1) 人工心肺症例 250 例、心臓大血管手術 450 例、専門医制度心臓血管外科手術 700 例
 - 2) 全手術死亡率 1.0% 以下、開心術死亡率 2.0% 以下
 人工心肺症例（268 例）以外はすべて未達であった。

来年の目標

- ① 人工心肺症例 280 例、心臓大血管手術 500 例、専門医制度上心臓血管外科手術 700 例
- ② 全手術死亡率 1.0% 以下、開心術死亡率 2.0% 以下

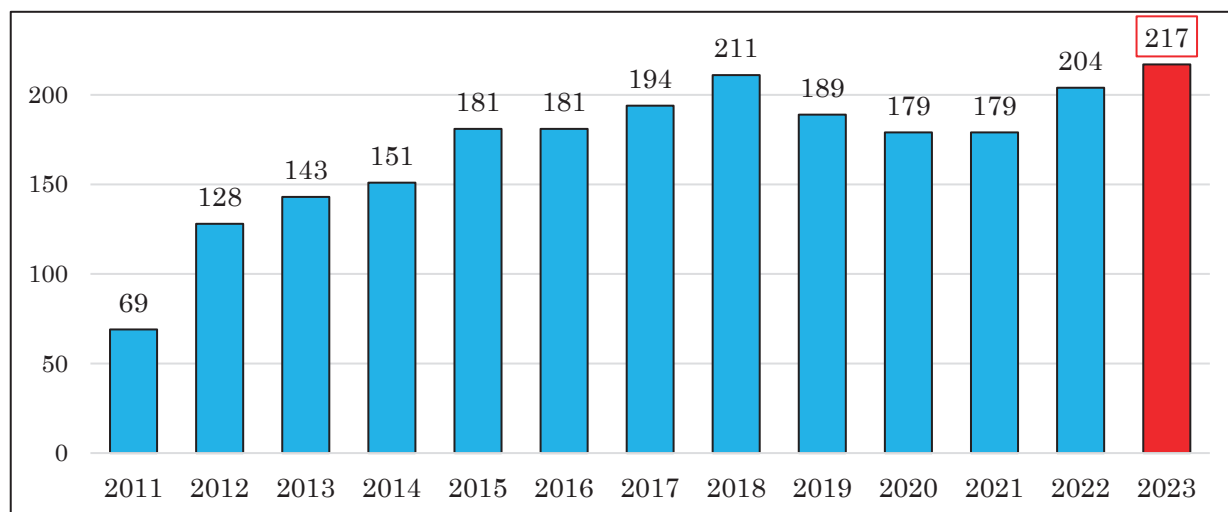
以下に、各部門の 2023 年の業績を報告する。

北里大学病院 2023 年手術実績（成人心臓チーム）

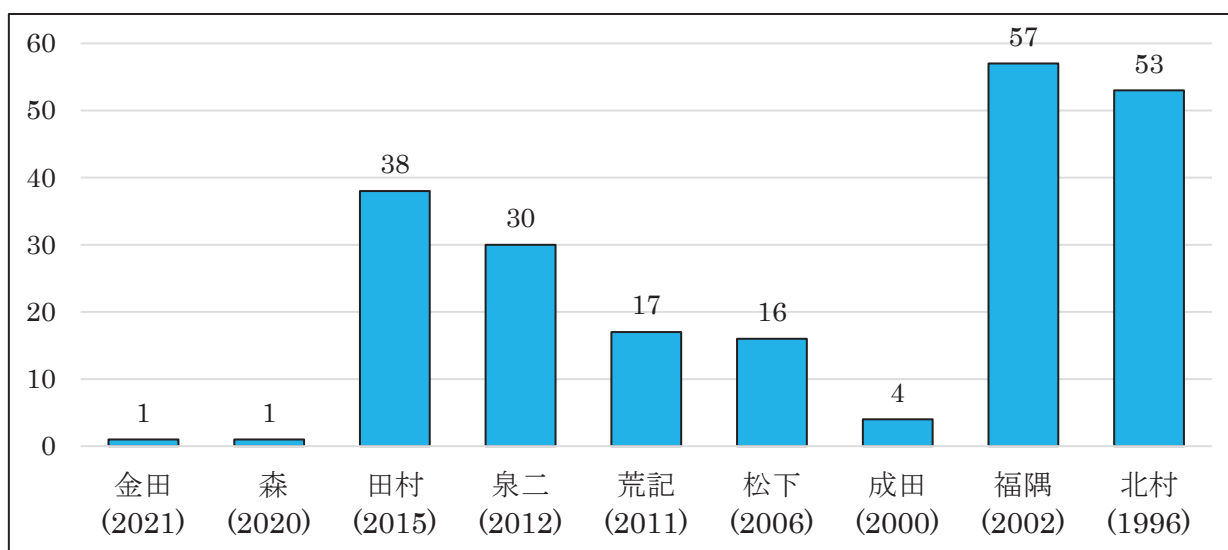
1. 手術数

心臓血管外科手術（専門医認定機構手術術式）	329 例
人工心肺＋ OPCAB	217 例
非開心術（TAVI など）	112 例
ロボット支援下手術（ダヴィンチ）	21 例
ロボット非使用胸腔鏡下心臓手術（MICS）	7 例

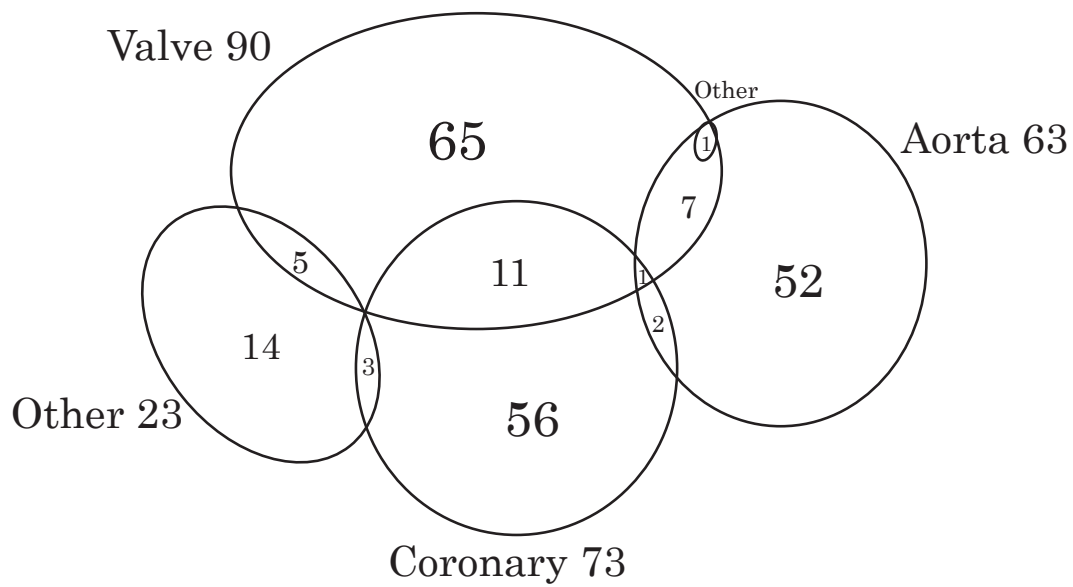
2. 人工心肺＋ OPCAB 手術件数の推移



3. 術者（N = 217）

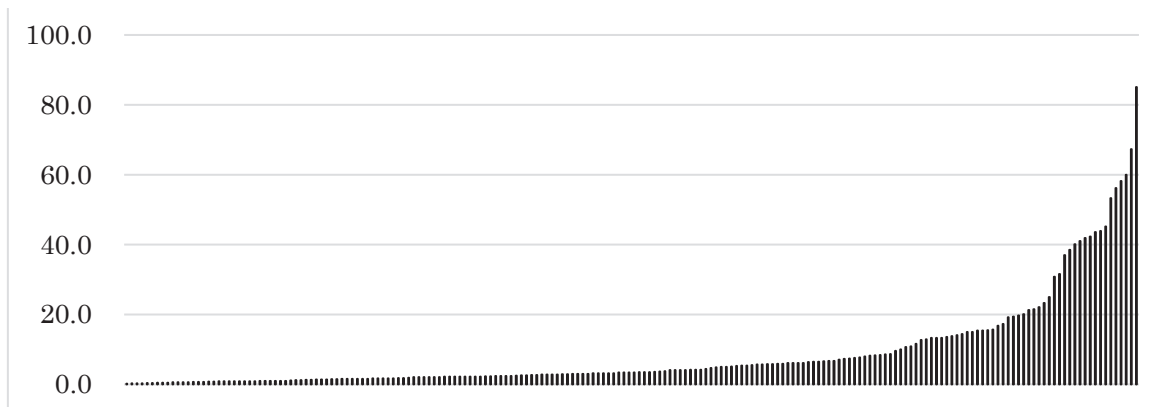


4. 内訳 (N = 217)



5. 術前リスクスコアと実際の死亡率

Japan SCORE (Range 0.2 — 85.1, Mean 8.9, Median 3.4)



緊急手術	51 例 (24%)
再手術 (心臓大動脈手術の既往)	19 例 (9%)

入院／30 日死亡

全症例	12 例 (5.5%)
定時症例	4 例 (2.4%)
緊急症例	8 例 (16%)

6. 冠動脈バイパス術 (CABG)

総数	73 例
CABG を主とする手術	59 例 (死亡 5)
単独 CABG	51 例 (死亡 3)
OPCAB	9 例 (18%)
緊急手術	10 例 (20%)
透析症例	8 例 (16%)
グラフト開存率	98.6%

例年同様 CABG は多くの症例が Trainee により執刀されました。20% が緊急手術で、定時手術でも透析症例やびまん性病変が多いものの、グラフト開存率は目標の 97% を上回る 98.6% でした。急性心筋梗塞や、左室破裂、術前に Impella を挿入された緊急手術、透析症例など 5 例を失いました。

7. 弁膜症手術 (TAVI を除く)

総数	90 例
弁膜症を主とする手術	85 例 (死亡 3)
単弁手術 (左心耳閉鎖含む)	41 例
複合手術 (メイズ含む)	44 例
ダヴィンチ	21 例
ロボット非使用 MICS	4 例
大動脈弁を主とする手術	42 例
僧帽弁を主とする手術	42 例
三尖弁を主とする手術	1 例

大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術においては、Lifetime management を考慮し、弁輪の小さな症例に対しては積極的に弁輪拡大を行いました。大動脈弁狭窄および大動脈弁位人工弁機能不全の 25 例中、6 例 (24%) に弁輪拡大を行いました。僧帽弁、三尖弁の同時手術もロボット (ダヴィンチ) で行うようになった結果、通常の胸腔鏡下手術は減少しました。大動脈弁置換術中特発性後腹膜出血を来した 1 例と、MitraClip Failure に対する緊急手術後 2 か月で誤嚥を生じた 80 代患者、術前敗血症性ショックに陥っていた僧帽弁置換の症例を失いました。

8. 大動脈手術（ステントグラフトを除く）

総数	63 例
大動脈を主とする手術	56 例（死亡 3）
緊急	25 例
基部（+ α ）	8 例（死亡 1）
Remodelling	1 例
上行（+ α ）	11 例（死亡 1）
弓部（+ α ）	22 例
下行	8 例
（超低体温循環停止	5 例）
胸腹部	7 例（死亡 1）
急性解離	21 例
基部	1 例
上行	8 例
Arch + Frozen elephant	12 例

急性 A 型解離は 6 割の症例で弓部置換となりました。基部置換術後の再基部置換の症例、急性解離術後脳梗塞、肺炎を合併した症例、他院腹部大動脈手術後遠隔期に大動脈十二指腸瘻を生じ、救急搬送されてきた慢性解離症例を失いました。

9. その他の手術（人工心肺使用）

総数	17 例（死亡 1）
ロボット非使用 MICS	3 例
心房中隔欠損症（+ α ）	1 例
補助人工心臓（+ α ）	3 例
心腔内血栓（+ α ）	4 例（死亡 1）
腫瘍（+ α ）	5 例
左室形成	1 例
冠動脈瘻	1 例
収縮性心膜炎	1 例
急性肺塞栓	1 例

3 例の補助人工心臓手術はすべて Destination therapy での適応でした。拡張型心筋症でショックに陥った左室内血栓合併症例を失いました。

10. その他の手術（人工心肺非使用）	70 例（死亡 1）
TAVI	56 例（死亡 1）
腋窩動脈インペラ（ポンプカテーテル）	10 例
心損傷修復	2 例
胸腔鏡下メイズ (Wolf-Ohtsuka I)	2 例
胸腔鏡下心嚢ドレナージ	1 例
縦隔腫瘍上大静脈再建	1 例

鎖骨下アプローチのインペラ（ポンプカテーテル）挿入 10 例のうち 3 例が、その後補助人工心臓植込みとなりました。TAVI 後の冠動脈閉塞を来した症例を 1 例失いました。

11. 総括

2023 年は症例数が増加し、開心術数としては過去最高となりました。急性大動脈解離などの緊急手術に関しては、海老名総合病院、相模原協同病院と協力しながら、1 施設が手術中であってもどこかで受け入れることで、患者さんの不利益にならないよう努めています。

日常の診療では、田村先生（2015 卒）が年間を通してチーフとして采配を行い、皆極めて多忙な中で他のスタッフと協力しながら多数の症例をこなしてくれました。

論文執筆では、松井先生（2016 卒）のコロナ関連左室血栓症の症例報告が Journal of Cardiology Cases 誌に、藤岡先生（2008 卒）の左鎖骨下動脈の塞栓手技に関する原著論文が Annals of Vascular Diseases 誌に、福隅先生の僧帽弁位感染性心内膜炎に関する原著論文が雑誌胸部外科に、北村の A 型 Intramural hematoma に関する原著論文が General Thoracic and Cardiovascular Surgery 誌に、それぞれ発表されました。

今後も、「世界で治療可能な心臓大動脈疾患はすべて北里大学で治療可能である」ことを目標に、高いレベルの外科治療を提供していこうと考えています。新しい技術や術式を取り入れながら、一般的な手術も継続し、より多くの Attending Surgeon を育てることで、地域の医療に貢献し、臨床・教育・研究をそれぞれ進めていきたいと思ひます。

（北村 律）

北里小児チーム・年間業績報告 (2023 年 1 - 12 月)

・ 総手術数	71 例
・ 心臓血管手術	60 例 (前年 79 例、24.0% 減)
手術死亡	0、0% (前年 1.3%)
CPB(+)	51 例 (手術死亡なし、0%)
CPB(-)	9 例 (手術死亡なし、0%)

総 括

昨年 2022 年はコロナの影響を受けながらも、2021 年に比して症例数は若干、増加しました。しかしながら、出生率の低下や胎児診断・遺伝子診断の普及による先天性心疾患の減少により、長期的には新生児・乳児心臓手術の減少は避けられない状況に変わりありません。心臓血管手術症例数は 60 例で、前年 (79 例) より 24.0% 減少しました。人工心肺症例は 51 例で前年 (57 例) より 10.5% 減少、新生児開心術も 4 例 (前年:9 例) で半減しました。非開心術の症例が例年に比べ、少なかったです (前年:22 例)。この 2 年間は徐々に症例数は回復傾向にありましたが、本年は後退する結果となりました。かつての水準 (開心術:70-90 例、新生児開心術 10-15 例) にはもう少し時間がかかると思われます。

手術死亡はなく、2018 年、2019 年以来の良好な成績であした。補助人工心臓 (EXCOR) を 1 例におこない、成人先天性心疾患は 8 例で例年と同様でした。

2023 年の小児班は私と鹿田文昭講師の 2 人術者体制でしたが、3 月一杯で松井謙太志先生が、自治医科大学とちぎ子ども医療センターに移動となり、4 月からはチーフなしで、病棟医 1 名の 3 人体制となりました。6 月までの 3 か月間は横塚洸先生、8 月から 11 月までの 5 か月間は石脇大喜先生、11 月からは金田咲良先生が病棟医として働いてくれました。宮地教授、鹿田講師を除く若手医師の執刀症例が、2023 年は小児班全体の 11 例 (18%) (2022 年 25%) で、昨年より減少しました。症例数が大きく減少したことと、チーフが不在で、若手医師の執刀機会を多くは与えることができなかったことは誠に残念でした。2024 年は症例数を回復して、多くの症例を若手医師に執刀してもらいたいと思います。

来年の目標

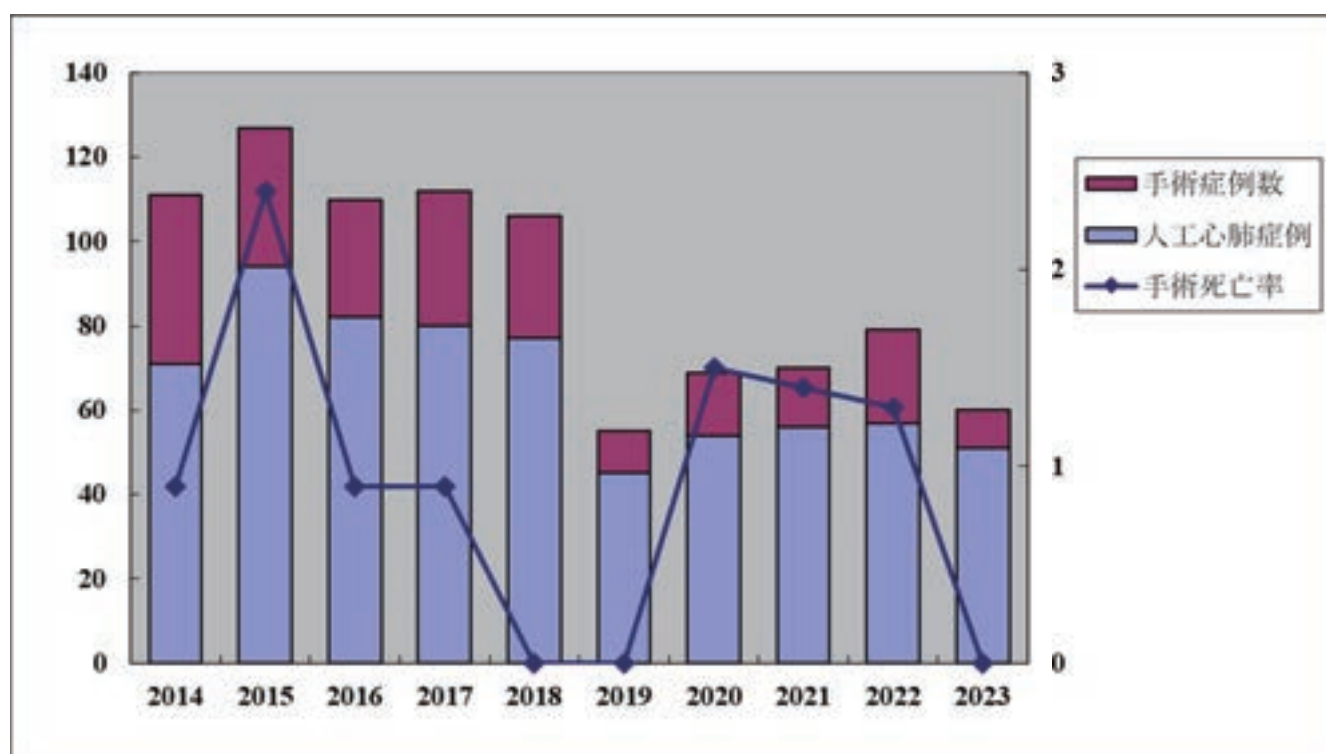
- ①手術症例数は 70 例、人工心肺症例 60 例以上。
- ②手術死亡率ゼロ。

(宮地 鑑)

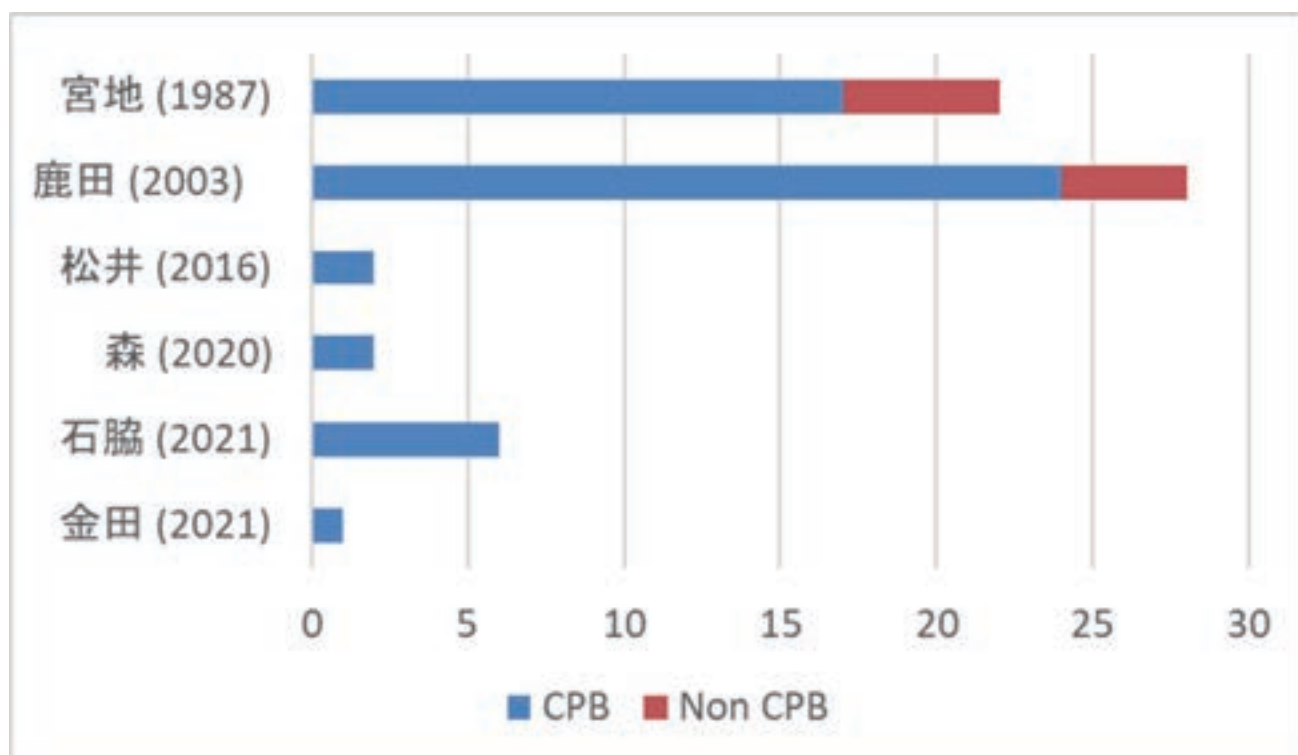
手術症例の内訳

2023年 北里大学心臓血管外科・小児心臓外科手術症例 2023.01.1～2023.1										
	新生児	早期 死亡	乳児	早期 死亡	幼児学童	早期 死亡	16歳以上	早期 死亡	計	早期 死亡
総数	9		29		23		10		71	
心臓血管手術	8		24		20		8		60	
人工心肺使用	4		22		17		8		51	
心房中隔欠損（PAPVC含）					7				7	
心室中隔欠損			11						11	
Fallot四徴症			3						3	
総動脈幹症			1						1	
大動脈再建			1						1	
Rastelli型手術			1						1	
Norwood型手術	1								1	
両方向性Glenn手術			3						3	
Fontan型手術					4				4	
肺動脈弁置換							3		3	
大動脈弁置換							1		1	
僧帽弁置換					1		1		2	
三尖弁置換							1		1	
房室弁形成					3				3	
体肺短絡手術+/-肺動脈形成	1								1	
肺動脈形成・右室流出路形成	1		1		1				3	
Ross手術							1		1	
冠動脈形成					1				1	
CPS/LVAD	1		1						2	
人工心肺下止血							1		1	
人工心肺非使用	4		2		3				9	0
体肺短絡手術	1								1	
VATS-PDA			2						2	
肺動脈絞扼術	2				1				3	
横隔膜縫縮					2				2	
ECMO導入・離脱	1								1	

小児心臓血管手術数の推移



術者別執刀数



末梢血管外科チーム・年間業績報告（2023 年 1 月～ 12 月）

1. 手術総数（経皮的血管内治療、シャント含む）：306 例（前年 350 例）
 心臓血管外科手術総数（経皮的血管内治療、シャント含む）：286 例（前年 330 例）

2. 手術症例、血管内治療症例の推移と内訳（心臓血管外科手術数）

【手術症例】

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
動脈									
腹部大動脈- 腸骨動脈瘤 (EVAR) (OPEN) (瘤縫縮他含む)	98 (71) (27)	86 (74) (12)	100 (93) (7)	120 (108) (12)	93 (85) (8)	75 (66) (9)	52 (45) (7)	85 (76) (9)	80 (73) (7)
閉塞性動脈硬化 症・慢性閉塞症	29	38	28	44	26	29	35	32	25
急性動脈閉塞症	9	21	19	22	20	11	18	12	9
内臓動脈疾患	1	0	2	1	0	1	1	1	0
末梢動脈瘤	3	2	2	5	2	5	5	5	9
その他	4	6	5	2	5	13	6	4	0
TEVAR		34	27	35	31	29	21	14	15
静脈									
下大静脈腸骨静脈	2	0	1	0	2	1	0	0	1
下肢静脈瘤	12	1	3	0	2	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	1	0	0	0
総数	159	188	187	229	181	165	138	153	139

【血管内治療・シャント症例（ハイブリッド治療除く）】

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
動脈	56	78	71	84	97	69	78	90	86
静脈	6	0	0	9	1	5	2	5	6
シャント造設、他	11	24	12	21	33	51	55	39	24
シャント PTA、他		8	2	6	42	82	35	43	31
総数	73	110	85	120	173	207	170	177	147

緊急 EVAR 症例（破裂・切迫破裂）の術式

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
OPEN 切迫破裂	2	0	0	1	0	1	0	0	0
OPEN 破裂	6	1	0	2	0	0	0	1	1
EVAR 切迫破裂	1	4	3	1	3	2	1	2	3
EVAR 破裂	7	6	10	15	9	7	6	10	5
総数	16	11	13	19	12	10	7	13	9

末梢動脈バイパス症例の術式（腹部腸骨動脈含む）

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
Ao-F Ax-F I-F	2	4	2	3	0	1	1	2	0
Ax-Ax	0	0	0	0	0	2	0	0	0
F-F	0	2	1	5	0	0	2	4	0
F-P	16	18	11	21	5	8	18	9	3
AK	(7)	(13)	(5)	(10)	(5)	(8)	(14)	(6)	(0)
BK	(9)	(5)	(6)	(11)	(0)	(0)	(4)	(3)	(3)
distal	3	5	8	7	10	6	5	8	5
ATA-DPA	(1)	(1)	(1)	(0)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
PTA	(2)	(2)	(5)	(6)	(4)	(5)	(2)	(7)	(3)
PeA	(0)	(2)	(2)	(1)	(4)	(0)	(1)	(0)	(0)
総数	21	29	22	36	15	17	26	23	8

術後 30 日死亡

0 例

3. 総括

末梢血管は、2015 年から腹部ステントグラフト、2016 年から胸部ステントグラフトに必要なデバイスを院内に常備して、積極的にカテーテル治療を取り入れております。2021 年から止血デバイスの保険適応に伴い、胸部・腹部ステントグラフト手術を経皮穿刺で行っております。ハイブリット室以外でも新たに移動式透視装置を導入し安全に低侵襲治療を行っております。それぞれのデバイス特性を理解した上での適切な治療法の選択を心がけています。2023 年の腹部大動脈・腸骨動脈瘤手術症例数は 80 例で胸部ステントグラフト症例数は 15 例でした。閉塞性動脈疾患に対しては、保存的治療および血管形成術やバイパス術を行っております。経皮的動脈カテーテル治療数は 86 例で、下腿動脈への distal bypass 症例数は 5 例でした。現在、腹部ステントグラフト手術時に積極的に分枝血管の塞栓を行い術後成績の向上を目指しております。

(美島利昭)

学術業績

原著

1. Shikata F, Miyaji K, Kohira S, Goto H, Shinzo T, Kitamura T, Mishima T, Fukuzumi M, Fujioka S, Sasahara A, Araki H : Acute Kidney Injury after High-Flow Regional Cerebral Perfusion in Neonatal and Infant Aortic Arch Repair. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 2023 Feb ;36(2):ivac247.
2. Sugimoto K, Levman J, Baig F, Berger D, Oshima Y, Kurosawa H, Aoki K, Seino Y, Ueda T, Liu H, Miyaji K: Machine learning predicts blood lactate levels in children after cardiac surgery in paediatric ICU. *Cardiol Young*. 2023 Mar;33(3):388-395.
3. 福隅 正臣, 北村 律, 宮地 鑑 : 【活動期感染性心内膜炎の外科治療】 活動期感染性心内膜炎に対する僧帽弁手術 自己弁温存のテクニック . 胸部外科 2023 年 ,76 巻 4 号 Page272-277.
4. Fujioka S, Kitamura T, Mishima T, Mori H, Fukuzumi M, Shikata F, Miyaji K : Coil-in-Plug Method for Left Subclavian Artery Embolization in Thoracic Endovascular Aortic Repair with Arch Vessel Debranching. *Ann Vasc Dis*. 2023 Sep 25;16(3):189-194.
5. Mishima T, Hosono K, Tanabe M, Ito Y, Majima M, Narumiya S, Miyaji K, Amano H.: Thromboxane prostanoid signaling in macrophages attenuates lymphedema and facilitates lymphangiogenesis in mice : TP signaling and lymphangiogenesis. *Mol Biol Rep*. 2023 Oct;50(10):7981-7993.
6. Hamazaki N, Kamiya K, Nozaki K, Koike T, Miida K, Yamashita M, Uchida S, Noda T, Maekawa E, Yamaoka-Tojo M, Matsunaga A, Arai M, Kitamura T, Ako J, Miyaji K: Trends and Outcomes of Early Rehabilitation in the Intensive Care Unit for Patients With Cardiovascular Disease: A Cohort Study With Propensity Score-Matched Analysis. *Heart Lung Circ*. 2023 Oct;32(10):1240-1249.
7. Matsunaga Y, Shikata F, Oka N, Okamura T, Tomoyasu T, Kaneko M, Inoue T, Matsui K, Miyaji K: Long-term outcomes of hypoplastic left heart syndrome with analysis of the Norwood procedure in infants following bilateral pulmonary artery banding. *JTCVS Open*. 2023 Dec;16:675-688.

症例、臨床治験報告

1. Nakamura M, Kitagawa A, Tamura Y, Mineo E, Takanashi M, Honda T, Shikata F, Hirata Y, Miyaji K, Ishikura K : Successful treatment of fulminant myocarditis due to COVID-19 in a 5-year-old girl. *J Cardiol Cases*. 2023 Aug 26;28(6):233-235.

2. 土田 勇太, 下河原 達也, 大竹 裕志, 渋谷 慎太郎: 感染性遺残坐骨動脈瘤に対してステントグラフトを用いた集学的治療にて根治し得た一例日本血管外科学会雑誌 2023 年 32 巻 2 号 p. 121-124

国際学会発表

1. Kitamura T, Torii S, Mishima T, Shikata F, Fukuzumi M, Fujioka S, Araki H, Horikoshi R, Tamura Y, Matsui K, Mori H, Miyaji K : Watch-and-wait strategy for selected patients with type A intramural hematoma. The 59th Annual Meeting of Society of Thoracic Surgeons (STS).2023. (San Diego)
2. Shikata F, Matsunaga Y, Oka N, Okamura T, Inoue T, Tomoyasu T, Matsui K, Miyaji K : Long-Term Outcomes of Hypoplastic Left Heart Syndrome with Analysis of Norwood Procedure in An Infant After Bilateral Pulmonary Artery Banding. The 103th Annual Meeting of American Association for Thoracic Surgery (AATS) 2023. Los Angeles, USA.
3. Kitamura T ; Shikata F ; Fukuzumi M ; Araki H ; Motoji Y; Ishiwaki D; Kaneda S; Miyaji K : Initial thickness of the crescent is not a reliable predictor of complication in medically treated patients with type A intramural haematoma. The37th Annual Meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS).2023, Vienna, Austria.

学会発表

1. 鹿田 文昭、堀越 理仁、鳥井 晋三、北村 律、美島 利昭、福岡 正臣、藤岡 俊一郎、荒記 春奈、松井 謙太、森 久弥、宮地 鑑、小板橋 俊美、郡山 恵子、藤田 鉄平：TPVIと外科手術の Life-Long Strategy SHD インターベンションと外科手術の協調～肺動脈弁治療の歴史が変わる～ファロー四徴症術後の肺動脈弁置換における至適手術時期．第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 .2023 年、松山（日本成人先天性心疾患学会雑誌 12 巻 1 号 Page104）
2. 飯倉 早映子、藤田 鉄平、加古川 美保、前川 恵美、郡山 恵子、深谷 英平、小板橋 俊美、宮地 鑑、阿古 潤哉：疣腫除去術により良好な経過を辿った心室中隔欠損症合併の PR3-ANCA 陽性感染性心内膜炎関連性腎炎の一例．第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 .2023 年、松山（日本成人先天性心疾患学会雑誌 12 巻 1 号 Page 198）
3. 本田 崇、高梨 学、北川 篤史、木村 純人、平田 陽一郎、鹿田 文昭、宮地 鑑、石倉 健司：Stroke work index からみた右室流出路再建術後の遠隔期予後．第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・

学術集会 .2023 年、松山（日本成人先天性心疾患学会雑誌 12 巻 1 号 Page 150）

4. 藤田 鉄平, 加古川 美保, 飯倉 早映子, 前川 恵美, 郡山 恵子, 深谷 英平, 小板橋 俊美, 宮地 鑑, 阿古 潤哉: Treat and Repair が可能となった高度拘束性換気障害を有する肺高血圧合併心房中隔欠損症の 1 例. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 .2023 年、松山（日本成人先天性心疾患学会雑誌 12 巻 1 号 Page 143）
5. 北川 篤史, 平田 陽一郎, 高梨 学, 本田 崇, 宮地 鑑, 石倉 健司: フォンタン術後遠隔期における肺血管拡張薬の使用状況と意義. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 .2023 年、松山（日本成人先天性心疾患学会雑誌 12 巻 1 号 Page 130）
6. 平本 裕礎, 鹿田 文昭, 田村 佳美, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 堀越 理仁, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: 重度の肺高血圧を合併した心房中隔欠損・肺動脈瘤・拘束性 肺障害を伴った成人の一手術例. 第 191 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2023 年、横浜（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 191 回 Page8）
7. 相磯 光紀, 荒記 春奈, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 堀越 理仁, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: 大網充填後遠隔期に生じた上行大動脈人工血管感染、仮性瘤 破裂の一例. 第 191 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2023 年、横浜（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 191 回 Page31）
8. 荒記 春奈, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: 開心術術後の非閉塞性腸管虚血についての検討. 第 59 回日本腹部救急医学会総会、2023 年、沖縄（日本腹部救急医学会雑誌 43（2）Page 545）
9. 峰尾 恵梨, 安藤 寿, 奥田 雄介, 平田 陽一郎, 石倉 健司, 宮地 鑑: 小児心臓術後における腹膜透析と PICU アウトカムの関連 単施設後ろ向き研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023 年、京都（日本集中治療医学会雑誌 29 巻 Suppl.1 Page595）
10. 小倉 健, 濱崎 伸明, 神谷 健太郎, 市川 貴文, 前川 恵美, 小池 朋孝, 新井 正康, 松永 篤彦, 北村 律, 宮地 鑑: 心臓血管術後 ICU 入室早期における包括的運動機能評価は身体機能回復を鋭敏に予測する. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023 年、京都（日本集中治療医学会雑誌 29 巻 Suppl.1 Page 415）
11. 澁谷 真香, 山下 真司, 濱崎 伸明, 小林 主献, 市川 貴文, 内田 翔太, 野田 匠, 上野 兼輔, 前川 恵美, 目黒 健太郎, 神谷 健太郎, 東條 美奈子, 松永 篤彦, 北村 律, 阿古 潤哉, 宮地 鑑: 急性大動脈解離患者における病型の違いによる骨格筋形態変化の差異. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023 年、

福岡（日本循環器学会学術集会抄録集 87 回 Page CP01-4）

12. 北川 篤史, 平田 陽一郎, 高梨 学, 本田 崇, 鹿田 文昭, 宮地 鑑, 石倉 健司: Successful Treatment of Fulminant Myocarditis Due to COVID-19 in 5-year-old Girl. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023 年、福岡（日本循環器学会学術集会抄録集 87 回 Page CROJ14-5）
13. 田村 佳美, 森 久弥, 福岡 正臣, 松井 謙太, 荒記 春奈, 藤岡 俊一郎, 鹿田 文昭, 美島 利昭, 北村 律, 鳥井 晋三, 宮地 鑑: 左室流出路狭窄を伴う大動脈縮窄・大動脈弓離断症に対する段階的 Yasui 手術の遠隔成績. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 53）
14. 福岡 正臣, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: 僧帽弁位感染性心内膜炎に対する弁尖剥皮と自己心膜再建による積極的手術. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 64）
15. 藤岡 俊一郎, 美島 利昭, 森 久弥, 松井 謙太, 田村 佳美, 荒記 春奈, 福岡 正臣, 鹿田 文昭, 北村 律, 鳥井 晋三, 宮地 鑑: 重症心疾患と閉塞性動脈硬化症の重複症例に対する治療戦略. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 79）
16. 荒記 春奈, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福岡 正臣, 藤岡 俊一郎, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: 染色体異常を有する患者における Norwood 手術. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 81）
17. 鹿田 文昭, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福岡 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: ファロー四徴症術後の肺動脈弁置換における至適人工弁サイズ. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 86）
18. 松井 謙太, 藤岡 俊一郎, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福岡 正臣, 荒記 春奈, 田村 佳美, 森 久弥, 宮地 鑑: 肺高血圧を合併する成人先天性心疾患患者の周術期 NO 吸入療法. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川（日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 102）
19. 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福岡 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 田村 佳美, 松井 謙太, 森 久弥, 宮地 鑑: SAM を伴う後尖逸脱症例に対する、ロボット支援下経僧帽弁中隔心筋切除、

僧帽弁 形成 . 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 112)

20. 森 久弥, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 田村 佳美, 松井 謙太, 宮地 鑑: IBE を用いたステントグラフト内挿術と臀筋性跛行の術後成績の検討 . 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会、2023 年、旭川 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 53 回 Page 118)
21. 北川 篤史, 平川 陽一郎, 高梨 学, 本田 崇, 宮地 鑑, 石倉 健司: 単心室治療戦略における肺血管拡張薬の意義 グレン手術からフォンタン術後遠隔期まで . 第 126 回日本小児科学会学術集会, 2023 年、東京 (日本小児科学会雑誌 127 巻 2 号 Page 237)
22. 藤岡 俊一郎, 美島 利昭, 福隅 正臣, 鹿田 文昭, 北村 律, 鳥井 晋三, 宮地 鑑: complex EVAR の適応と成績: 置換術への回帰はあり得るか Hostile neck AAA に対する治療戦略 . 第 51 回日本血管外科学会学術総会、2023 年、東京 (日本血管外科学会雑誌 32 巻 Suppl. Page SY1-7)
23. 北川 篤史, 平川 陽一郎, 高梨 学, 本田 崇, 宮地 鑑, 石倉 健司: 先天性心疾患を伴う 21 トリソミーの周術期における肺高血圧治療 . 第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会、2023 年、神戸 (日本肺高血圧・肺循環学会学術集会抄録集 8 回 Page 144)
24. 千原 孟, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 堀越 理仁, 横塚 洸, 石脇 大喜, 宮地 鑑: MitraClip 後の Single leaflet detachment の 1 例 . 第 192 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 . 2023 年、東京 (日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 192 回 Page 8)
25. 石脇 大喜, 鹿田 文昭, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 泉二 佑輔, 堀越 理仁, 田村 佳美, 横塚 洸, 宮地 鑑: CPA を契機に発見された先天性左冠動脈孔閉鎖の一手術例 . 第 192 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 . 2023 年、東京 (日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 192 回 Page 32)
26. 谷口 綾香, 本田 崇, 渡邊 瑠美, 高梨 学, 橘田 一輝, 北川 篤史, 木村 純人, 平川 陽一郎, 鹿田 文昭, 宮地 鑑, 石倉 健司: 蛋白漏出性胃腸症を合併した Fontan 患者に対する成長ホルモン療法のリスクと意義 . 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会、2023 年、横浜 (日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 59 回 Page [III-P12-3-08])
27. 松井 謙太, 鹿田 文昭, 高梨 学, 本田 崇, 北川 篤史, 平川 陽一郎, 宮地 鑑: ファロー四徴症術後の肺動脈弁置換術後の人工弁機能不全および心機能から考慮した手術戦略 . 第 59 回日本小児循環

器学会総会・学術集会、2023 年、横浜（日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 59 回 Page [III-P10-3-04]）

28. 北川 篤史, 平田 陽一郎, 高梨 学, 本田 崇, 宮地 鑑, 石倉 健司: フォンタン術後遠隔期における肺血管拡張薬の要否に関わる因子の検討. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会、2023 年、横浜（日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 59 回 Page [III-P06-1-02]）
29. 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 宮地 鑑: HLHS に対する外科的治療戦略 より良い遠隔成績を目指した戦略 TCPC 術後遠隔期成績から見た左心低形成症候群に対する手術戦略. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会、2023 年、横浜（日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 59 回 Page [I-SY01-01]）
30. 石脇 大喜, 鹿田 文昭, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 金田 咲良, 宮地 鑑: CPA を契機に発見された先天性左冠動脈口閉鎖の一手術例. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
31. 岡 徳彦, 友保 貴博, 金子 政弘, 松井 謙太, 鹿田 文昭, 岡村 達, 宮地 鑑: 左心低形成症候群に対する外科治療 肺動脈発育からみた右室肺動脈導管と体肺動脈短絡の比較検討. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
32. 田村 佳美, 北村 律, 美島 利昭, 鹿田 文昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 泉二 祐輔, 横塚 洸, 石脇 大喜, 宮地 鑑: MAZE 手術後の洞不全症候群に対する恒久的ペースメーカー植込みについての検討. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
33. 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 畑岡 努, 石脇 大喜, 宮地 鑑: Norwood 手術後の Fontan 手術非到達症例の検討. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
34. 石脇 大喜, 鹿田 文昭, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 藤岡 俊一郎, 荒記 春奈, 泉二 佑輔, 堀越 理仁, 田村 佳美, 横塚 洸, 宮地 鑑: Extracardiac TCPC 術後 10 年の心外導管と下大静脈の形態的变化. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
35. 大島 弘之, 東條 圭一, 田中 優美, 伊東 祥太, 武市 護, 宮地 鑑: 吸引回路の流量特性に関する実験的検討. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）

- 36.北村 律、鳥井 晋三、美島 利昭、鹿田 文昭、福隅 正臣、泉二 祐輔、堀越 理仁、田村 佳美、石脇 大喜、横塚 洸、金田 咲良、宮地 鑑：上行大動脈径、ULP の有無、痛みスケールをもとにした、急性 A 型 IMH に対する発症当日積極的経過 観察 . 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
- 37.横塚 洸、北村 律、荒記 春奈、鳥井 晋三、美島 利昭、鹿田 文昭、福隅 正臣、藤岡 俊一郎、泉二 祐輔、田村 佳美、石脇 大喜、宮地 鑑：待機的全弓部置換術における術前好中球 - リンパ球比は出血傾向の予測因子となりうる . 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2023 年、仙台（日本胸部外科学会雑誌 : suppl ）
- 38.大島 弘之、東條 圭一、田中 優美、伊東 祥太、武市 護、宮地 鑑：吸引回路の流量特性に関する実験的検討 . 第 48 回日本体外循環技術医学会大会、2023 年、仙台（体外循環技術 50 巻 3 号 Page361）
- 39.土田 勇太、田中 佑貴、宮地 鑑：コロナ感染症後に急性心筋梗塞及び多発塞栓症を発症した症例 . 第 64 回日本脈管学会学術総会 ,2023 年、横浜（脈管学 63 巻 suppl Page S216）
- 40.横塚 洸、鹿田 文昭、鳥井 晋三、北村 律、美島 利昭、福隅 正臣、藤岡 俊一郎、泉二 祐輔、田村 佳美、石脇 大喜、宮地 鑑：気管狭窄を伴う肺動脈弁欠損、ファロー四徴症に対し肺動脈縫縮術と心内修復術を施行した一例 . 第 193 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2023 年、千葉（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 193 回 Page10）
- 41.相磯 光紀、北村 律、鳥井 晋三、美島 利昭、鹿田 文昭、福隅 正臣、泉二 祐輔、田村 佳美、石脇 大喜、金田 咲良、宮地 鑑：IVC フィルター挿入患者の僧帽弁位広範感染性心内膜炎に対し MICS MVP を行った 1 例 . 第 193 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2023 年、千葉（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 193 回 Page29）

研究費の取得状況

1. 〈研究代表者〉

美島 利昭：科学研究費助成事業（基盤研究（C））

リンパ浮腫における新生リンパ管形成を制御する脂質メディエーターの役割解明

429 万円（直接経費 330 万円 間接経費 99 万円）、2021 年度～ 2023 年度

2. 〈研究代表者〉

田中 佑貴：科学研究費助成事業（若手研究）

非侵襲的赤外線分光法を用いた局所酸素飽和度測定による心臓血管外科手術リスク予測法

455 万円（直接経費 350 万円 間接経費 105 万円）、2023 年度～ 2027 年度

3. 〈研究代表者〉

泉二 佑輔：SRL 若手医師および医療従事者研究助成金

成人川崎病既往者の早期動脈硬化発症及び血管リモデリングリスクの解明

40 万円（直接経費 20 万円 間接経費 20 万円以下）、2023 ～ 2024 年度

北里大学医学部医学教育研究開発センター地域医療学教育研究部門
北里大学相模原市寄付講座「地域総合医療学」
教授 鳥井 晋三

緑区診療所 4 年目

2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行になりましたが、流行が終息したわけではなく、相模原市立の緑区診療所支援も with コロナのまま 4 年目となりました。今年はコロナ禍では息を潜めていたインフルエンザが早い時期から流行し、with インフルエンザの状況も加わりました。そのような状況下で相模原市奨学生出身者から総合診療専門医と総合内科専門医が生まれました。コロナ禍での困難な診療所勤務の中で資格を取得できたことは、サポートした我々指導医にとって、とても励みになりました。人材育成が進みましたが、一方でマンパワーはまだ不十分で、三診療所（青野原・千木良・藤野）の診療担当医の急病（コロナやインフルエンザ）に際して、診療を維持できなかったことが反省点となりました。私自身も代診を 5 回務めましたが、急な休診をすべてカバーすることは不可能でした。今年も診療支援および教育のために藤野診療所で週 1 日（水曜日）の外来を担当しながら、千木良・青野原診療所を巡回しました。

急変対応のシミュレーションを重ねて臨んだ新型コロナワクチン接種は、1 例の事故もなく 1 年間継続できました。発熱外来は、原則診療所駐車場に止めた自家用車内で防護具を装着して診察しましたが、ウィルスの侵入を水際で完全に食い止めることはできず、少数ではありますが院内感染を疑う職員や患者がでてしまいました。発熱外来以外で困ったことは、薬不足でした。PL 顆粒や PA 錠などの総合感冒薬、メジコンやフスコデなどの鎮咳薬、ムコダインやムコソルバンなどの去痰薬などは次々と品薄になり、症状に合わせて処方すると言うより、薬の在庫に応じて処方する状態が数ヶ月続きました。

診療所で手に負えないと判断すると病院に紹介するのですが、前頭部腫瘍の精査で相模原日赤皮膚科に紹介した患者さんが、日赤皮膚科→北里大学病院皮膚科→同院脳神経外科へと次々紹介され、最終的に非常に珍しい髄膜腫の頭蓋外進展と診断されました。その診断結果は診療所までは返信されず、痙攣発作で来院した際に頭部腫瘍が原因とは思っても寄らず、非常に苦労しました。病診連携の課題を感じた一件でした。

昨年も年報で書いた 101 歳のお年寄りは無事 102 歳を迎えました。2023 年で 90 周年を迎える藤野駅は地域住民が嘆願し、自己負担の条件で造られたそうですが、その時の裏話などを昭和一ケタ生まれの 90 代の患者さんから聞かせてもらいました。元気なお年寄りを増やせるように後 1 年頑張ります。

北里大学医学部心臓血管外科学 診療教授 北村 律

50歳を過ぎましたが、聴いている音楽は30年以上あまり変わっていません。ピアノはミシェルカミロを一番聴きますが、ミシェルペトルチアーニ、テテモントリュー、オスカーピーターソン、ジョーイカルデラッツォ、ハービーハンコック、セロニアスモンク、シダーウォルトン、ビルエバンスなど、30年聴き続けている人たちもいれば、最近聴くようになったアロルドロペスヌッサなんていう人もいます。テナーサックスもやはりボブバーグ、ソニーロリンズ、ジョンコルトレーン、デクスターゴードン、マイケルブレッカーなど、ほとんど30年不変ですが、最近レオリチャードソンという人も好きです。アルトサックスはパキートデリベラを一番よく聴きます。もちろんチャーリーパーカーはバイブルですし、ソニースティットは教科書です。エリックマリエンサルは元イケメンで、今は初老の紳士です。マイルスデイビスの影響でケニーギャレットも好きです。トランペットは、マイルスは別格として、アルトゥーロサンドバルが大好きです。リーモーガンやジョンファディスも聴きます。ちなみに三女の受験勉強中は家でステレオを鳴らすのを遠慮していましたが、こないだ一段落ついたので、二女がアメリカで買ってきてくれた、マイルスデイビスが亡くなる2か月前の録音の“Live at Vienne”のレコードを聴きました。エモかったです。学生時代は女性ボーカルをほとんど聴かなかったのですが、年を取るにつれて聴くようになりました。僕の学生時代にピアニストとしてよくジャズフェスに来日していたイリアーヌイリアスのボーカルが好きです。ボサノバも好きで、アストラッドジゼルベルト、エリスレジーナは、オーストラリアにいた時の家族旅行の車の中でよくかかっていた。ブラジリアンポップスも好きで、おもにマリアヒタ、ホベルタサーを聴きます。好んで聴くようになってから、マリアヒタがエリスレジーナの娘だと知ったときは驚きました。ポップスも女性ボーカルは好きで、アリアナグランデやビヨンセ、クリスティーナアギレラなどパワフル系が好きです。男性はブルーノマーズやエドシーランなど、叙情的なのが好きです。

話は変わりますが、若いころはジェットコースターが大好きで、バンジージャンプをやったこともあるのですが、最近高所恐怖症になってきました。昨年妻と三島のスカイウォークに行ったときにジップラインをやったのですが、やる前に少し躊躇してしまいました。これまでにない態度だったので妻も驚いていました。高所恐怖症は特に完徹明けの時に重症で、北里から羽田に向かう高速道路でベイブリッジを渡るとき、時速80kmくらいでも怖く感じます。

同様にここ数年の変化としては、ビールがあまりおいしく感じなくなってきました。代わりにスパークリングワインをよく飲むようになりました。特別な日はシャンパンです。

その他の加齢による変化として、温泉が好きになってきました。子供の頃は濁ったお湯がちょっと嫌だったのですが、最近是有難みを感じるようになってきました。出張のホテルも大浴場があるところを選ぶ傾向にあります。老いといえば、先日「仮面の男」を読んで、年老いていくダルタニャンと三銃士に共感を覚えました。テレビを見ても、若者が頑張る姿を見ると涙腺が緩みます。自分の好き嫌いも少しずつ分かるようになってきて、国内学会に参加したり、「～委員会」などの仕事をしたりするのが億劫になってきました。澤先生はすごかったなとつくづく思います。ただし、嫌いだからといってそういう仕事なくなるわけでもなく、常に何かの締切りに追われています。締切り地獄はこの1,2年ますます顕著になってきています。ずっと手術だけしていればいいのであれば楽なのですが、

そうもいかないようです。

体は相変わらず硬く、近頃は靴下を履くのはおろか、靴紐を結ぶのも難儀になってきました。あと、肌のうるおいが少なくなってきた、手術着や手袋で湿疹ができやすくなりました。イソプレンゴムの手袋で湿疹ができるのですが、国立国際医療研究センターにはイソプレンの手袋しかなく、先日えらい目にあいました。以来国立国際に行く際は手袋持参です。北里の手術着も刺激が強く痒いものに変わってしまい、唯一痒くないのは麻酔科の手術着なので、麻酔科に入局しました。今後麻酔科の手術着も痒くなる予定とのことで、病院を代わろうかと真剣に考えるようになりました。

三女が高校を卒業し、医学部に行くことになりました。これから年をとっていろんな病気にかかるかもしれませんが、たいていの病気にかかっても、自分のコネと娘のコネを合わせれば、平均以上の医者には診てもらえるかな、と妻と二人ホッとしています。

最前線で手術できるのもあと10年程度だと思いますが、心と体にムチ打って、困難な症例にも、これまで通り逃げることなく立ち向かっていこうと思います。



北里大学医学部心臓血管外科
診療准教授 美島 利昭

自由にさせてもらいます。

コーヒーを淹れてます。

以前からコーヒーはよく飲みます。レトロ感あるクラシックタイプの手挽きミルを持っていますので時々ですが、マンデリンやイタリアンロースト系の豆を買って自宅で飲んでいました。苦味があるコーヒーに何か甘いものをつまむのが好きでした。豆を買う時は、豆の詳細が書かれた説明をよく読んで選びます。“ローストアーモンドを思わせるナッツ感”“ミルクチョコレートのような香り”“ヨーグルトのようなまろやかな酸味”“ドライフルーツのような余韻のある甘さ”って、なんのこっちゃ。よくわかりません。時に背伸びして“ブルーベリーのような上品な酸味”を選びますが、そんな味はしません。結局、色濃く焙煎された豆を選んでいました。その頃はそれが男らしいと思ったからです。でもそれは継続しません。最近は、豆ではなく粉で買ったりコンビニやインスタントで済ませていました。

そんな寂しい中、フェアトレードを一步進めたような、農園を守り生産環境を整備して高品質なコーヒーを提供できるまでの道筋を管理しようとする“From Seed To Cup”という言葉があることを遅ればせながら知りました。スペシャルティコーヒー。なんだか心を動かされる言葉。なんでも浅煎りのスペシャルティコーヒーは、花のような香りとフルーツの酸味が透明感とともに味わえるとのこと。これは飲むしかない。手挽きミルを最新のステンレス性白刃のものに変え、ドリッパーも変え、浅煎り豆を買いました。淹れてみると、浅煎り豆って硬くて挽く時に手に伝わる感触が違う、粉になった時の香りが違う、ペーパードリップしている時のお湯の抜けが違うのがわかります。豆によるとは思いますが、なんだか爽やかな果実感、柔らかく抜ける香り、きめ細やかな質感が私でもわかります。コーヒーって苦いか酸っぱいかだけじゃないのが、カフェに行かなくても自宅でこれだけの違いが楽しめるなんて。一度体験しただけで沼にドボン。コーヒー農家、精製者、焙煎するロースター、抽出レシピを考案するバリスタなど多くの人達のおかげです。

その上で、Infused coffee というものを知りました。肯定・否定、賛否あるようですが、私のような素人は楽しんでます。もう後戻りできないんですよ。自由に和らぎます。

追記

抹茶もいただきます。千里同風。



北里大学医学部心臓血管外科学

講師 鹿田 文昭

ベース

最近 YouTube で bass player を見る人が多いです。

元々音楽好きで、古いロック（60－70年代）、パンク、EDMなどを聞いていました。ギターを主に弾いていましたがベースも持っていて、たまに弾いておりました。ギター奏者が、ベースの弾き方を習わずに弾くとありがちな、弦を斜めにアタックする pick 弾きの癖が付いていたので、あまりいい音は出せませんでした。スラップ奏法（昔はチョッパーと言っていました）に憧れて練習していましたが、あまり上達せずに辞めてしまいました。スラップ奏法で好きな player は Red Hot Chili Peppers の Flea です。アメリカ留学中に野外ライブを見に行きましたが、寒さが吹っ飛ぶほどの存在感とプレイは半端なかったです。

で、最近ベースをもう一回やってみようかなと思い、YouTube を見ています。マキシマム ザ ホルモンの上ちゃんのスラップは圧巻ですね。映画ドラゴンボールのバトルソングになった「F」は名曲です。ぴによというベース弾きの YouTuber がいますが、「F」のカバーはよく出来ています。それを見たりしてベースを買おうか迷っています。アコースティックギターはオーストラリア留学中に買い直したけど、埃をかぶっているからなあ、どうしようと悩み中です。多分また埃をかぶるかな。

あとは真面目な話に移ります。

北里大学に来て3年過ぎ、臨床研究に関わる機会が多くなったので、ここを借りて思っていることをお話しさせていただきます。

1. よく論文を読みましょう。先行研究で何が明らかになっていて、自分は何を明らかにしたいのか研究計画を立てましょう。何も考えずに、いきなり電子カルテからデータを拾い始める脳筋系は嫌いではありませんが、時間の無駄です。かつて自分はそうでした。よい研究計画を立てていたら、そのまま論文に使えます。
2. 研究を始めるに当たって医療統計や統計ソフトの使い方の勉強に時間を使い過ぎないでください。大事なのは統計より論理展開です。統計ソフトについて聞かれることがありますが、JMP を大学提供のライセンスで利用できるのも十分です。ただ解析の途中過程をすっ飛ばした結果しか出ないので、いろいろやってみたい方は SPSS, Prism, R 言語を理解する必要がありますが R (EZR は R の入門ソフト、無料で簡単でおすすめ)。私は、R (Python も可能) の拡張モジュールを付け分析を追加できるので、SPSS を愛用しています。本心をいいますと、海外のように統計で飯を食べている専門家に解析をやって欲しいと思っています。
3. 英文で論文を書くときは、コピペは絶対に辞めてください。北里大学は iThenticate と契約していますので、さっと剽窃率を調べられます。剽窃率は 20% が基準といわれており、この基準を越えた論文はどの雑誌でも review にすら回してくれません。Self-plagiarism といわれており、自分が以前に書いた論文でさえもコピペは不可です。日本語で文章を書いてみて、その文章を DeepL や ChatGPT に英訳してもらっても良いので、自分の言葉で書いて下さい。
4. よく言われていることですが、目に付くことがあります。purpose と conclusion の内容が一致し

ているか、上司に abstract を送る前によく見てください。繋がりが無い abstract は、どんなにいい結果が出て、よいものとは評価されません。

5. 研究は有意差を出す物ではないです。P < 0.05 は、根拠なく決められた基準です。

自分は、最初はまともな抄録や論文は書けませんでした。最初は症例報告で良いので書く習慣と論理的思考を身につけてください。上司に出してもなかなか返ってこない場合は、どちらかです。1. 内容に修正箇所が多すぎて時間がかかっている 2. 上司が忙しい（眠くて）あとまわしにされている です。私は、2 は可能な限り避けていますので、時間が掛かっているときは、1 だと思って優しく待ってください。

北里大学医学部心臓血管外科学

講師 福岡 正臣

北里大学に来て2年半が経過しました。講師として大学病院に勤務するようになり、今までと一番変わったのは若手外科医育成に対する姿勢です。これまでも若手に手術を経験させてはきましたが、まだ自分が教わる立場であったこともあり、現在ほどの気持ちではなかったように思います。Basic な手術はもちろん、複合手術も彼らにやらせてもらっており、自分が執刀する手術は再手術や胸腹部大動脈瘤のような高侵襲手術、重篤な術前状態の症例等が多くなりました。その中で自分自身がまだまだ学んで成長しなければいけないと感じているのが、低侵襲手術の分野です。

2023 年度はその分野で、少しずつ成長を感じるとともに、実績も得ることができました。具体的には、まずロボット支援下心臓手術の「暫定コンソール術者」となり、執刀するようになりました。まだ6例程度ですが、1例ごとに反省点がたくさんで、北村先生の執刀された手術動画を繰り返し見て予習、復習しています。手術を担当させてもらうごとに、一つひとつの手技の針の角度や鑷子の使い方を、何度もシミュレーションしていた若い頃を思い出してなかなか新鮮です。

また、まだ承認はされていないものの「MICS 認定医」の申請をしました。北里大ではロボット手術の方が多く、いわゆる MICS の経験数はまだ少ないのですが、2024 年度は認定医としての実績も作りたいと思います。弁膜症はもちろんですが、MICS CABG を導入してトラブルなく安定した術式にしていきたいことをひとつの目標とします。来年の年報では、その成果が何とか報告できるように励んで参ります。

北里大学医学部心臓血管外科学 診療講師

松下 弘

近況報告

2024年7月中旬に5年6か月間の留学生活を終えて帰国しました。ニューヨークでは部屋は狭かったですが都会の真ん中で生活することができました。娘達は友達もでき生活を楽しんでいました。臨床におきましてもロボット手術や心移植、VADなどアメリカならではの修練を受けることができました。1年間4週間休暇をもらえる契約であったため3月には初めてアメリカで生活を始めたボルチモアに旅行に行きました。景色はほとんど変わっていませんでしたが子供たちは大きくなり写真を見比べると感慨深いものがありました。

日本に帰国後は北里大学病院で12月末まで勤務させていただきました。大学病院で勤務したことが殆どなかったため戸惑うこともありましたが皆さんに支えて頂き、急性大動脈解離の手術やVSP、左室形成などこれまで経験したことのなかった症例を勉強できました。北村先生、福住先生ありがとうございました。

1月からはN T T東日本関東病院に赴任しました。留学前にご指導いただいていた華山先生と再度一緒にさせて頂く機会を頂き非常にうれしく思っております。前任者の田村智己先生が非常に丁寧に申し送りをしてくれたので仕事がしやすい環境です。東大すらおかわりしてしまう後藤先生が留学前で止まってしまった様々な情報を（仕事のみならず五反田のラーメン屋を含む）常にアップデートしてくれるので大変心強いです。

色々ありましたが留学生活を終えて、日本での生活を始めることができました。宮地先生、法人の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今後も若い先生が海外留学される際に微力ではありますがその協力ができればと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

北里大学医学部心臓血管外科学

助教（研究員） 荒記 春奈

留学帯同報告

2023年5月末に北里大学病院を退職し、8月よりスイスのベルンという場所に夫の研究留学の帯同で来ております。渡航前から夫より、私も研究留学の仕事があると言われていたのですが、来てみるとなかなか私の仕事の話は進まず、また夫の仕事や子供の学校のことなど考えると、私が働くことは簡単ではなさそうで落ち込んでいます。ただ日本で、仕事と子育てをしていた時には出来なかったことをやる時間があるので、有意義に時間を過ごせば良いと思います。

北里大学医学部心臓血管外科学
助教（研究員） 泉二 佑輔

はじめまして。藤岡先生からご縁を頂き、2023 年 4 月から北里大学病院に勤務させて頂いております。近況報告を書いている今や早くも北里で 1 年が経とうとしており、現在は血管外科と心臓外科成人チームを軸に臨床に携わっております。北里大学病院では、諸先生方に多岐に渡る疾患を経験・ご指導頂き、日々成長を実感しております。また、これまで未経験であった LVAD、da Vinci の経験は刺激と共に勉強になっております。現在医師 12 年目が終わろうとしておりいい歳になってきたのですが、自分の癖を直し日々成長をしていけるように苦心する毎日です。

2024 年度は、日々の臨床業務を安全かつ適切にこなすことに加え、北里で経験させていただいたことを下地に学会発表と論文作成を行うことを目標としております。臨床面以外でも何らかの形で貢献していければ思っております。

今後ともさまざまな場面でご厄介になることと思われそうですが、ご指導・ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いします。

北里大学医学部心臓血管外科学
助教（病棟医） 堀越 理仁

ついこの間年報の原稿を提出したばかりの気がしておりましたが、本当に一年が経つのは早いものです。至らない点を挙げれば切りがなく、大した進歩もしていないように思いがちですが、細やかながら成長しているところにも目を向けようと思いながら日々を過ごしています。

今年度は、無事に心臓血管外科専門医認定試験に合格することができました。これも、偏にこれまでご指導いただきました先生方のお陰と存じます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。試験勉強をしながら、今まで手術室や病棟でかけていただいたお言葉、担当した患者さんのことなどを思い起こし、教科書からだけでは得られない多くの学びをいただいたことを実感しておりました。多くの症例を経験させていただき、学術的にもご指導いただけるこの恵まれた環境を当たり前と思わず、ありがたく享受すると共に今後は自分も貢献できるよう、これからは研鑽を積んで参りたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

北里大学医学部心臓血管外科学
助教（病棟医） 田村 佳美

気づいたら 3 月 31 日になってしまいました。

この 1 年とはいうと、長らく大学にいてくださった荒記先生が柿崎先生の留学に帯同され、藤岡先生も退職されました。お 2 人に相当に甘えていたことを実感しました（笑）

泉二先生も横塚先生も石脇先生も金田先生も、北里の外から来ていただいたので勝手が違いやりに

くさもあったと思いますが、ありがとうございました。

北村先生が赴任されてから最も手術症例が多かった1年でしたが、mortalityも高くなってしまったので手放しに喜べずにいます。どうすれば良いかなあ、と考えているさなか、働き方改革がいよいよ無視できなくなり、2024年度からは大学でも当直をなくしオンコール制にする方針になりました。症例や診療水準を維持しながら労働時間を短縮するのはなかなか難しいよなあ、と思っています。労働時間はそのままいいからその分給料を増やしてくれ、とは思っているのですが、それはしてくれないようなので、コメディカルとうまく連携をとりながら、事故のないように1年過ごしたいです。

あとはこの度一般外科専門医をやっと取得しました。久々の試験勉強はツラかった。循環器内科を2年やっていたので遅れをとりましたが、無事受かって一安心です。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 金田 咲良

2023年度より入会いたしました、金田咲良と申します。

4月から9月までは国立国際医療研究センターで井上先生、松代先生のもと、勤務させていただきました。とても明るい雰囲気です。3人で本当によくお話ししました。今思えば仕事の話よりプライベートの話の方が多かったような気がします。人生の大先輩方に日々ご指導いただき無事明るい？人生の新たな第一歩を踏み出すことができました。業務の面でも何もわからないポンコツな私に根気よく教えてくださったお二人には感謝してもしきれません。ありがとうございました。またお二人の下で働かせていただくことがありましたら、その時は何卒よろしくお願い申し上げます。

10月からは大学病院で勤務させていただきました。10-11月の2カ月間は成人チームのローテーションでした。大学病院の患者と手術件数の多さに圧倒され、日々ついていくのに必死でした。実際はついていけないことも多く、先生方には大変ご迷惑をおかけしたと思いますが、皆様本当に優しく丁寧にご教授いただき感謝でいっぱいです。ローテーション最後には初めて開心術を執刀させていただき、ここ掘れわんわん状態でしたがとても楽しく心臓血管外科医としてもっと成長したいというモチベーションにつながりました。

12-3月は小児チームのローテーションでした。宮地教授、鹿田先生に手取り足取りご教授いただきながらASD,VSDと執刀させていただき、術後管理も含め小児分野の難しさと楽しさを実感することができました。日々の業務に関しましても大変楽しい雰囲気の中働かせていただき、鹿田先生の下ネタに対する反射神経もめきめきとあがっていきました。改めて小児に進みたいと思える充実した4カ月間でした。

1年間振興会の素敵な先生方のもと大変充実した日々を送ることができました。北里に縁もゆかりもありませんでしたが、何も考えずふらりと研修医2年のころに大学病院へ見学に来たことを今ではとても良かったと実感しております。

来年度は海老名総合病院で一般外科研修の予定です。将来につながるような充実した1年にしたいと思います。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 石脇 大喜

2023年4月に入会させていただきました。小児チームで5ヶ月間（4月～5月・9月～11月）、成人チームで7ヶ月間（6月～8月・12月～3月）お世話になりました。

小児チームでは、入職初日に乳児のLVADの手術から始まり、Norwood等の様々な高難度手術に入らせていただきました。5月にはPAPVC/ASD repairで開心術の初執刀をさせていただきました。技術・知識ともに未熟な私に機会を与えていただき感謝しております。

成人チームでは、TAVIでの鼠径cut downやECMO/Impella抜去等で基本手技を学びつつ、バリエーション豊かな手術に入らせていただきました。特にロボット手術は初めて目にするものであり、術後患者の回復の早さに驚きました。

学術面では、胸部外科学会地方会に始まり、胸部外科学会総会および心臓血管外科学会で発表する機会をいただきました。いつも抄録作成や予演会で親身にご指導いただき感謝しております。

また2024年1月にはテキサス州サンアントニオで開催されたSTS参加およびフィラデルフィア小児病院見学の機会をいただきました。今回は入会特典での参加でしたが、次回は演題を通して参加したいと強く思いました。

来年度は国立国際医療研究センター病院の外科レジデントとして出向させていただきます。外科医としての基本技術・知識をしっかり身につけるべく修練を積む所存です。今後ともご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

竹田総合病院外科報告 北里大学医学部 心臓血管外科学 助教（病棟医） 杉本 明生

2023年4月に入会させていただきました。この1年間は福島県会津若松市の竹田総合病院へ外科出向して参りました。

昨年、畑岡先生が書かれていたように、竹田総合病院はレジデントの執刀機会が豊富にある病院です。レジデントの数が前年比で増えたこともあり当初はどうなることかと思いましたが、上司のご配慮もあり、初期研修上がりで右も左も分からないような状況でのスタートから、この1年間で外科専門医受験に必要な執刀数を経験することができました。このような機会を頂いた宮地教授、症例数に配慮頂くとともに粘り強くご指導頂いた竹田総合病院の先生方、誠にありがとうございました。

一方、当初この期間で資格取得や学術活動をと考えていたにも関わらず、上手く時間を使うことが出来ず、思ったような結果を出せなかった点、反省しております。今後に生かして行きたいと思えます。

2024年4月からは北里大学病院勤務となります。入会後初めての心臓血管外科であり、高まる気持ちと不安が入り混じった状況ですが、ここからが本番でもあり、身の引き締まる思いです。ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ME (Medical Engineering) 部 報告

北里大学病院 ME 部

大島弘之、木下春奈、藤井正実、立野聡、武田章数、白井敦史、東條圭一

はじめに

北里大学病院 ME 部は、臨床工学技士 49 名が在籍し、2023 年 4 月 1 日現在のスタッフの平均年齢 33.3 歳、平均経験年数 11 年、女性技士は 19 名（38%）である。大学の附属病院では珍しいジョブローテーションを行っており、ローテーターは 15 名で、機器管理部門、集中治療部門、IVR・デバイス部門、手術室部門、人工心肺部門、血液浄化部門の 6 部門を 1 ヶ月ごとにローテーションする。体外循環技術認定士が 13 名在籍しており、人工心臓管理技術認定士も 8 名が取得している。2023 年は学会発表 2 演題、論文 5 編の投稿を行い、2 編の書籍を執筆した。

人工心肺部門

2023 年の人工心肺症例数は成人 209 例（前年比 107.2%）、小児 53 例（同 94.6%）の計 262 例（同 104.4%）であった。過去 3 年間との比較では、成人は 2020 年 174 例、2021 年 171 例、2022 年 195 例であり、成人症例は 200 例を超え、過去最高の症例数となった。小児は 2020 年 54 例、2021 年 56 例、2022 年 56 例であり、過去 3 年間とほぼ同じ症例数となった。合計では 2020 年 228 例、2021 年 227 例、2022 年 251 例で過去 3 年間では最も多い症例数となり、それ以前の年と比較しても 2018 年の 270 例に迫る勢いであった。緊急手術は 94 例行い、2020 年 71 例、2021 年 70 例、2022 年 86 例と年々増加傾向である。並列手術は 17 例に対応し、内 1 例は人工心肺並列症例となった。右小開胸 MICS は 28 例で内 daVinci は 21 例（75.0%）であり、2020 年 22 例（内 daVinci 50%）、2021 年 31 例（同 61.3%）、2022 年 32 例（同 71.9%）であり、右小開胸 MICS 症例はやや減少したものの daVinci 使用の割合は年々増加している。

植込み型補助人工心臓移植については、HeartMate III を使用した導入を 3 例行い、全例 DT 症例であり、DT 実施施設となったことで DT 症例は今後も増加が予想される。体外式補助人工心臓移植術については、EXCORE を使用した導入を 1 例、ポンプ交換を 1 例行った。

植込型ペースメーカー、植込型除細動器、両室ペーシング機能付き埋込型除細動器などのデバイス移植・交換業務については、176 例に対応し、2020 年 143 例、2021 年 168 例、2022 年 161 例に比較し、過去 3 年間では最も多い症例数となった。また植込型デバイスを使用した患者の手術立会については、68 例に対応を行い、昨年の 88 例よりは減少した。

人工心肺スタンバイについては、OPCAB は 9 例に対応し、内 1 件は ECMO を導入した。リード抜去術は 7 例に対応し、緊急で ECMO や CPB 導入となる症例は無かった。経カテーテル大動脈弁置換術は 58 例に対応し、昨年の 43 例よりも 134.9% 増加し、同じく緊急で ECMO や CPB 導入となる症例は無かった。

その他の SHD については、経皮的僧房弁クリップ術は 21 例に対応し、昨年の 16 例より 131.3% 増加した。内 1 例はクリップが抜けなくなり CPB へ conversion し、クリップ抜去および弁形成術、CABG を施行した。経皮的心房中隔欠損閉鎖術・経皮的卵円孔開存閉鎖術は 9 例に対応し、昨年の 5 例より 180.0% 増加した。経皮的左心耳閉鎖術については、昨年は症例は無かったが、本年は 1 例対応した。

2023 年は本格的な脱コロナとなり、人工心肺症例数はコロナ禍に比較し年々増加している。また TAVI を含む SHD についても同様に、昨年よりも増加し、増加する症例数に対して人員配置を検討しながら、柔軟に対応できたと思われる。しかし、人工心肺関連のトラブルも散見され、大きなインシデントには繋がっていないものの、スタッフ一人一人の「気付き」などで防げた事例もあった。来年はスタッフ一人一人の精度を上げられるよう努力していき、増加する症例数に対して高度かつ安全な対応が出来るよう努力していきたい。さらに 2024 年は医師の働き方改革に伴い、ME 部として心臓血管外科に対する手術介助や術後管理を行っていく予定であり、この新規業務でも安全・円滑に対応できるよう教育、体制を整えていきたい。

(大島弘之)

集中治療部門

ECMO 症例数は 2021 年 67 例、2022 年 92 例、2023 年 87 例であった。このうち心臓血管外科での導入は成人 6 例、小児 3 例の全 9 例と同伴数であった。小児 V-VECMO 症例ではダブルルーメンカニューレ AVALON Elite を当院で始めて使用した。

補助循環用ポンプカテーテル (IMPELLA) は 2021 年 41 例 (心外症例 2 例)、2022 年 57 例 (心外症例 4 例)、2023 年 57 例 (心外症例 10 例) であった。ただし、2023 年は Impella5.5 の使用が 12 例と 2022 年の 5 例より増加した。

補助人工心臓関連業務としては、小児体外設置型補助人工心臓 (EXCOR Ikus) の運用を 2021 年より開始し、患者管理を行っていたが、昨年、装置の寄贈を受け受入可能患者数が 2 名に増加し、新規患者 1 名を加えた 2 名の患者管理を行った。そのうち 1 名については移植手術目的での転院が決まり、搬送方法や移動経路など医師・看護師と協議の上決定し無事に患者搬送を行う事ができた。

特殊人工呼吸療法である一酸化窒素吸入療法の導入件数は 2021 年 55 例、2022 年 57 例、2023 年 68 例、であった。そのうち心臓血管外科での導入件数は成人 25 例、小児 22 例の全 47 例であった。

(木下春奈)

集中治療・小児部門

ECMO (うち心外症例 成人 6 例 小児 3 例)	87 例
Impella	57 例
体外設置型 VAD (EXCOR)	2 例
NO 療法	68 例

病棟部門

新たに植込みを行った植込型補助人工心臓患者 4 名に対し、患者および介助者への教育を行った。今年 5 月以降はコロナ明けでの教育となったため、従来通りに患者と介助者同時にカリキュラムを組み教育を進めた。その結果、患者と介助者お互いの理解度を共有でき、認識のずれはその場で修正することで、機器の相互理解が図りやすく、患者と介助者の意識の違いが生じることはなかった。一方、以前と同様、介助者のスケジュールや進捗度に患者が合わせることで患者教育の進捗状況遅れが懸念されたが、自主学習項目を具体的に指示することで、修得遅れを少なくし対応できた。

2023 年は、植込型補助人工心臓患者 7 名に対し、導入時または退院後の検査などでの再入院時などの点検業務 504 回行った。その中で、昨年と同様にドライブライン感染での再入院があり、約 3

か月以上の長期となった症例があった。今後も、植込み型補助心臓患者の機器の安全な管理を維持しつつ、療養環境向上となるような取り組みを行っていききたい。

(立野聡)

病棟部門

体外式補助人工心臓病棟管理	0 例	年間合計診療報酬
日常点検	0 回	
リハビリ時介助	0 回	
植込型補助人工心臓	7 例	
日常点検	504 回	
シャワー浴時介助	8 回	

外来部門

植込型補助人工心臓は、植込型補助人工心臓 DT 実施施設の認定を受けて以降、DT 目的に 3 名の患者に HeartMate3 を導入した。また、施設認定を受ける前に他施設において DT 目的に 1 名が HeartMate3 を導入しており、合計で 4 名の増加となった。昨年は心臓移植目的での導入はなかったが、DT 目的に導入した 1 名が外来管理中に心臓移植適応へ移行した。

機種別に分けると、HeartMate3 患者 9 名が最多で、HeartMate II 患者 2 名、HVAD 患者 2 名、Jarvik2000 患者 1 名、EVAHEART2 患者 1 名で合計 15 名であった。目的別では、心臓移植待機患者 12 名、DT 患者 3 名である。この患者のうち、コロナ禍の影響で心臓移植件数が減少する中、HeartMate II 患者 2 名、Jarvik2000 患者 1 名、HVAD 患者 1 名の合計 4 名が心臓移植に到達できた。移植待機期間は、最長で 2094 日 (5.7 年)、最短 1837 日 (5.0 年)、平均 1936 日 (5.3 年) であった。現在の外来管理患者は、11 名である。

外来対応は、定期受診 117 件、緊急対応 3 件に対応した。緊急対応は、EVAHEART2 患者において、CSU の循環水不足アラームが発生したため緊急来院となった。CSU の循環水補充により対応できたが、CSU アラームは、新コントローラーを導入することで未然に対応することが可能なため、早期の導入が望まれる。また、HeartMate3 患者において、コントローラーへの電源接続忘れによる電源遮断が発生した。コントローラー内に緊急バックアップバッテリーが内蔵されているため、血液ポンプの停止は発生しなかったが、高齢な DT 患者に対する院内教育の見直しや手技・知識の持続を確保できる外来体制を整えていきたい。

ペースメーカー外来、ICD 外来、CRT 外来では、のべ 1852 名へ対応した。遠隔モニタリング確認件数は、のべ送信数 6300 件の確認を行った。条件付き MRI 撮影デバイス撮影介助は、20 件に対応した。リードレスペースメーカーは、IVR センターで 40 件に対応した。

(武田章数)

外来部門

VAD 外来 11 名	117 件
デバイス外来(PM,ICD,CRT)	1852 件
遠隔モニタリング	6300 件
リードレスペースメーカー留置	20 件
MRI 撮影デバイス対応	40 件

血液浄化部門

当施設の2023年の透析治療件数は4,467件（前年比128%）で、そのうち心臓血管外科件数は295件（前年比80%）であった。内訳は血液透析（HD）107件（前年比53%）、血液濾過透析（HDF）180件（前年比111%）、限外濾過（ECUM）8件（前年比100%）となっている。また、血液濾過透析（HDF）のうち on-line HDF が163件、off-line HDF が17件となっており、近年増加している on-line HDF の割合が90.6%となった。実施場所は血液浄化センターが272件（前年比78%）、集中治療室が23件（前年比105%）であった。2023年の当施設の透析患者の平均年齢は69.6歳で前年とほぼ同じであった。

（白井敦史）

年間合計診療報酬

血液浄化部門

血液透析（HD・HDF・O-HDF・ECUM）	295 件	614,780
-------------------------	-------	---------

* 診療報酬は加算を除く 2023 年実請求点数

おわりに

2023 年度は人工心肺や MCS の件数が多く、ME 部としても充実した一年となった。今後も知識と技術を磨いて、心臓血管外科の診療に貢献していきたいと考える。2024 年度は医師の働き方改革に向けて ME としては珍しい、集中治療領域でのタスクシフトを行う予定である。本邦での参考となる事例も皆無であり、手探りの状態であるが、心臓血管外科医師のご指導を仰ぎながら対応していきたい。



2. 大和市立病院



2023 年大和市立病院 心臓血管外科 年間手術報告

2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日

手術総数 210 件

	2023 年：210 件	2022 年：197 件	2021 年：197 件
末梢血管	3 件	4 件	1 件
バイパス術	1	1	0
ハイブリッド手術	1	1	0
TEA	0	0	1
その他 (PCPS 抜去 動脈形成)	1	2	0
静脈（硬化療法含めず）	6 件	7 件	8 件
高位結紮＋ストリッピング	0	0	1
血管内焼灼術	6	6	5
その他	0	1	2
バスキュラーアクセス	197 件	163 件	172 件
自家動静脈	62	41	47
人工血管	4	8	6
Transposition	1	3	2
PTA(VAIVT)	110	82	89
ステントグラフト	2	5	0
その他（表在化・血栓除去・長期留置カテーテル挿入など）	18	24	28
血管内治療	2 件	20 件	12 件
PTA（末梢血管）	2	18	11
TAE	0	0	0
その他	0	2	1
ペースメーカー	2 件	3 件	3 件
新規	0	0	0
交換	2	3	3
その他（足趾切断など）	0 件	0 件	1 件

大和市立病院心臓血管外科 担当部長 町井 正人

2023年の総手術件数は、210件と前年を上回り200件を超えることができました。内容を見てみると、バスキュラーアクセス関連の手術が、例年の約1.2倍に増加した一方、末梢血管に対する血管内治療の件数が激減してしまいました。バスキュラーアクセス関連手術に関しては、自分で作成して自分で拵げるという『マッチ-ポンプ』操業であるため、フォローにかかる手間さえ怠らなければ、今後も患者さん数の増加は期待できるかもしれません。末梢血管の血管内治療に関しては、近隣の病院のプロモーション活動拡大の影響、当院循環器内科が治療を開始したこと、当科に紹介となる患者さんは基礎疾患を多く抱えており、すでに壊疽を合併し外科的治療が困難な方がほとんどであることが、手術件数の減少に影響しているかと思います。外科的治療が困難な場合には、何か一つでもいいことができないかと考え、疼痛緩和や吸着療法など外科治療以外も他科の協力を得ながら当科で行っています。今後ますます外科治療が困難なPAD/CLTIの患者さんが増加してくることが予想されます。そのような患者さんが、様々な診療科間の宙に浮かないようにできればと考える今日この頃です。

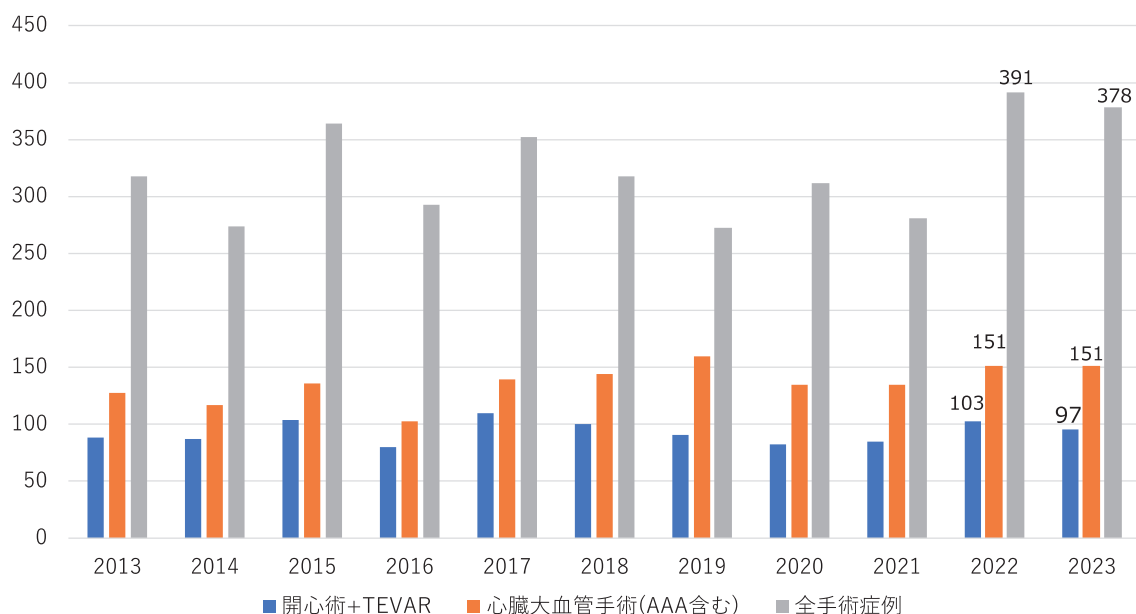
今年も安全運転、安全走行を心がけていく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

3. ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院

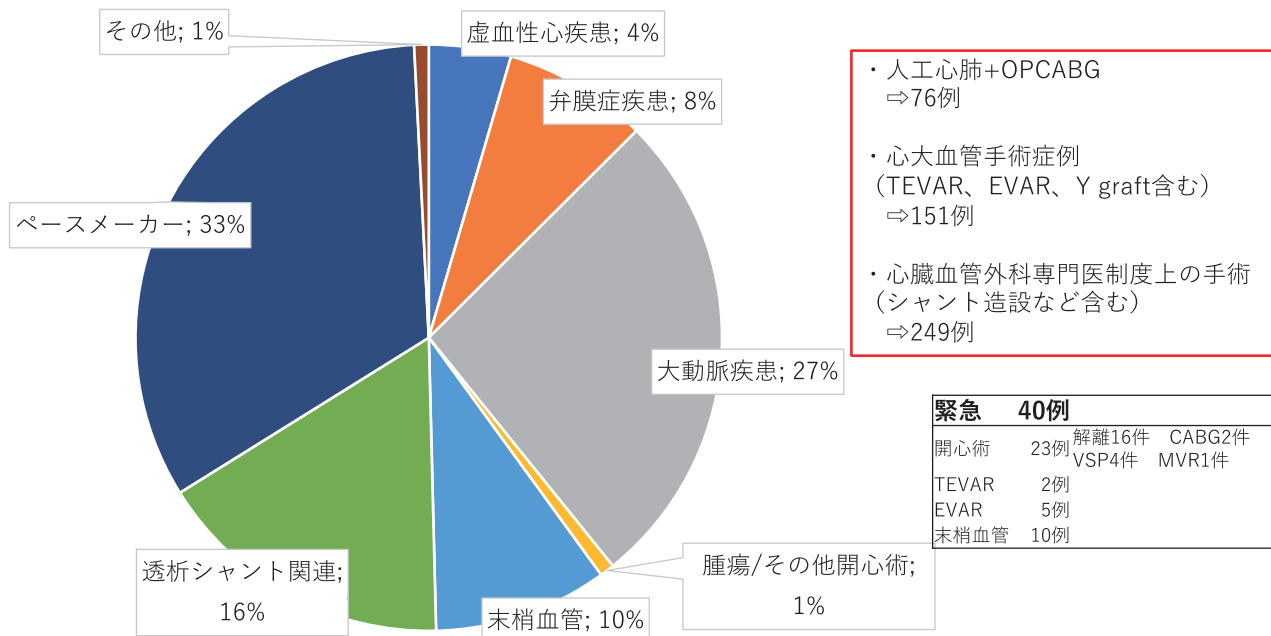


海老名総合病院心臓血管外科 2023 年 手術実績

手術症例の年次推移



手術症例 総計378例



症例内訳

虚血性心疾患	OPCAB	11
	心破裂	2
	心室中隔穿孔	4
	大動脈弁置換（MICS1例）	12
弁膜症疾患	大動脈弁＋CABG	2
	大動脈弁＋上行置換	2
	Bentall	2
	僧帽弁置換	2
	僧帽弁置換＋CABG	1
	僧帽弁形成（MICS）	7 (6)
	僧帽弁形成＋三尖弁形成	1
大動脈疾患(2)	僧帽弁形成＋三尖弁形成＋MAZE（MICS）	1
	胸部瘤（解離・破裂・仮性瘤含む）	46
	腹部大動脈瘤	54
腫瘍/その他開心術	腫瘍	2
	左室形成術	1
末梢血管	急性動脈閉塞・仮性動脈瘤等	36
透析シャント関連		62
ペースメーカー		124
その他	止血術	3

業績

- 榊健司朗，大西義彦，豊田真寿，山本信行，柴田 講，贅 正基，小原邦義
腸管虚血を合併した Stanford A 型急性大動脈解離に上腸間膜動脈バイパスを先行した 1 例
胸部外科 76 巻 5 号：375～378,2023
- 大西義彦，榊健司朗，豊田真寿，山本信行，柴田 講，贅 正基，小原邦義
腎細胞癌の転移性右房腫瘍の 1 例
胸部外科 76 巻 8 号：652～655,2023
- 石川沙弥，大西義彦，笹原聡豊，柴田 講，贅 正基，小原邦義
心膜腫瘍との鑑別を要した心膜血腫の 1 例
日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2023 年 11 月

総括

海老名総合病院の新棟は 2023 年 5 月に竣工し、同月 27 日、28 日の二日間で新棟への引越しが滞りなく行えました。新棟への引っ越しが控えていましたので、4 月と 5 月は手術件数を制限していた影響で、2022 年と比較し全体の手術件数は若干減少しました。また、開心術（人工心肺＋OPCABG）の件数も 2022 年と比較し減少しましたが、代わりにステントグラフト手術が増えて、心大血管手術（TEVAR、EVAR、Y graft 含む）の件数は同数でした。新棟の稼働に伴い救命救急センターが活発化し、救急搬送件数が増えましたので、緊急手術件数は 2022 年と比較し 28 → 40 件へ増加しました。例年、心臓血管外科を選択する研修医は 0～1 人でしたが、2023 年は 4 人も選択していただきました。そのうちの一人、石川沙弥先生が心臓血管外科振興会に入会されました。2024 年も救命救急センターの活躍と共に病院の長期ビジョン《地域密着高度急性期病院になる》を目指して緊急手術にも対応してまいります。

社会医療法人 ジャパンメディカルライアンス 理事長 賛 正基

近況報告（2023 年度）

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症も感染症法上の「5 類」となり、世界的なパンデミックから日常を取り戻す年となりました。

我々の法人においては海老名総合病院西館への新築移転というイベントの年でもありましたが、おかげさまで西館を無事に開院することができ順調に運用開始しています。事業に携わっていただいた皆さん、法人全ての職員の皆さんに感謝しております。

また、9 月には私の拠点である法人本部が海老名の小田急オフィスビルに移転しました。カラダテラス海老名（クリニック併設型健診施設）の向かい側にあるビルです。窓からは厚木基地を発着する航空機がよく見えます。

令和 6 年 4 月からは新しい中期事業計画がスタートします。

次期中期事業計画の名前は『SHINKA 2027』です。

SHINKA という言葉は厚生労働省の推進する『地域包括ケアシステムの更なる深化』＝深いに化けるという字からとったものです。次期中期事業計画の作成に当たって多くの方にさまざまな漢字の SHINKA（深化、進化、真価、新価、）をご提案いただきました。そこで一つの漢字の意味にとらわれないようにローマ字表記の SHINKA とし、次期中期事業計画の最終年である 2027 年に向かう、という意味でこの名前としました。

理念は『仁愛の心で地域の皆さまとともに』で変わることはありません。

次なるビジョンは『良質かつ適切なサービスを、エリアで一体的に提供し、地域包括ケアの更なる深化を果たす。』としました。次の三年間はこの『SHINKA 2027』を合言葉として運用していきます。

昨年もお話ししました、質の向上、サービス提供量の増加、適正利益の確保、還元の 4 つの要素からなる JMA 社会貢献スパイラルですが、最近ではこれらの言葉を法人内のいろいろな場面で耳にするようになっていきます。私もとても嬉しく思っています。次期中期事業計画ではこの JMA 社会貢献スパイラルをバリューと位置付けてさらに推進してまいります。



海老名総合病院 心臓血管外科
柴田 講

近況報告

海老名でもう4回目の春を迎えようとしています。今年も引き続き低侵襲心臓血管治療を自分の課題としており、施設として、また個人としての新しい手術も少しずつ取り入れました。

これらの試みが将来実を結ぶことを目標としてこれからも精進していくつもりですし、常に応援し必要な助言とあらゆる面でのサポートを頂ける海老名総合病院に深く感謝いたします。

海老名総合病院 心臓血管外科医長
笹原 聡豊

近況報告

2023年4月から約10年ぶりに3度目となる海老名総合病院に勤務することになりました。1度目は2011年4月の1か月です。実は2011年4月から会津若松市の竹田総合病院へ外科出向する予定でしたが、3月11日に東日本大震災が発生したため、当時竹田総合病院に出向されていた入澤先生との引き継ぎが困難となり、入澤先生が4月から出向予定であった海老名総合病院に1ヶ月だけ勤めました。その後、私の竹田総合病院の外科出向の2年後に2度目の海老名総合病院で2年間勤めました。その後も色々な病院へ出向し、2023年3月まで相模原協同病院で中島先生の元で1年間勤務しました。

3度目の海老名総合病院勤務では、6月の新棟への引っ越しまでは病棟やICU、手術室などで懐かしさを感じながら勤務していましたが、新棟に移ってからは病院の規模が大きくなり、特に病院が急性期・救急医療に力を入れているため、緊急入院や手術が増え、昔の海老名総合病院のイメージとは変わって新しい病院に勤務しているような気分です。そのため、海老名総合病院では小原先生と賛先生と久しぶりに勤務をご一緒する懐かしさと共に、大西先生や研修医の先生たちと一緒に緊急対応する新鮮さを実感しながら勤務しています。

最後に、2023年は月に1回ぐらいのペースで風邪をひいていたので、2024年は心身ともに元気でいられるよう勤めたいと思います。

海老名総合病院 心臓血管外科 大西 義彦

年間報告

医師としてこの1年間での大きなイベントは心臓血管外科専門医となれたことです。症例報告の執筆指導をしていただいた榊先生や、多くの執刀の機会を与えてくださった贅先生、小原先生をはじめとした先生方のご指導のおかげと思っています。

海老名総合病院での生活が2年目となり、4月からは笹原先生が赴任されました。それまでよりも更にステントグラフト手術の執刀の機会もいただけるようになり、資格に必要な症例の経験を積むことができています。開心術に関しても執刀の機会をいただけており、自分の至らなさを痛感する日々が続いています。

専門医試験も落ち着き、病院にも慣れてきたこともあり執筆しようとしていた症例報告に手をつけ始めようと考えています。来年は業績の報告ができると嬉しいです。臨床に関してもまだまだ未熟であるので、症例1つ1つを大事にして、今後も精進してまいります。

また、私事ではありますが、5月に第2子が誕生しました。切迫早産で妻は1ヶ月近くの入院となったり、34週の早産で低出生体重児であったため第2子は約1ヶ月の入院となったり、第1子の入院と比べて大変なことが多かった出産でした。準緊急の帝王切開ではありましたが、結果として母子ともに健康に出産が終了し、現在も家族みんな元気に生活を送ることができています。急な休みなどにも快く対応いただいた笹原先生には家族一同心から感謝しております。

忙しい日々を送りながらも、妻や子どもたちに愛想をつかされないように今後も臨床も論文も、家族との時間も大事にしていきたいと思います。

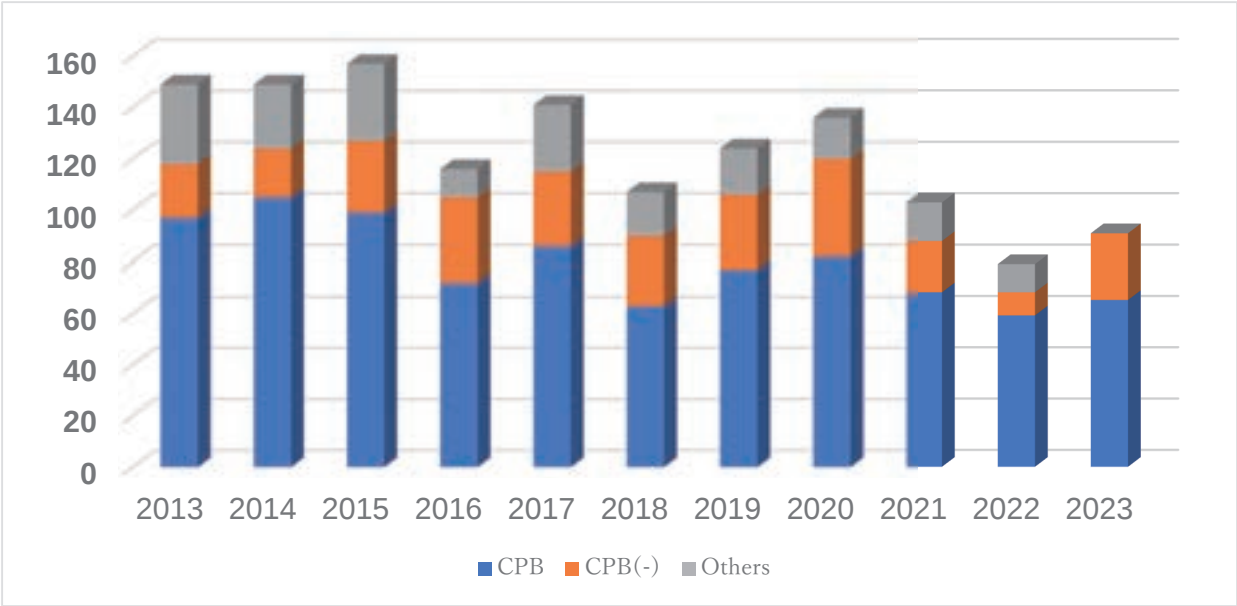
4. 群馬県立小児医療センター



群馬県立小児医療センター 手術実績 2023 年



① 手術実績 2023 年及び手術件数の推移



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
CPB	97(4)	105(2)	99(1)	72(0)	86(1)	63(0)	77(1)	82(0)	68(0)	59(0)	65(0)
CPB(-)	21(0)	19(0)	28(0)	33(0)	29(0)	27(0)	29(0)	38(0)	20(0)	9(0)	26(0)
others	31(0)	25(0)	30(0)	11(0)	26(0)	17(0)	18(0)	16(0)	15(0)	11(0)	0(0)
Total	149(4)	149(2)	157(1)	116(0)	141(1)	107(0)	124(1)	136(0)	103(0)	79(0)	91(0)

※ ()手術死亡例

手術症例内訳

人工心肺使用	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	合計
心室中隔欠損症	0	0	15	0	11	0	26
心房中隔欠損症	0	0	0	0	12	0	12
部分肺静脈還流異常症	0	0	0	0	2	0	2
房室中隔欠損症	0	0	1	0	0	0	1
ファロー四徴症手術	0	0	2	0	0	0	2
ラステリ手術	0	0	0	0	1	0	1
血管輪	0	0	0	0	1	0	1
グレン手術	0	0	0	0	5	0	5
フォンタン手術	0	0		0	1	0	1
大動脈縮窄症・複合, 大動脈離断症	1	0	2	0	1	0	4
右室流出路狭窄	0	0	0	0	1	0	1
両大血管右室起始症	0	0	0	0	1	0	1
肺動脈形成術	0	0	1	0	2	0	3
大動脈基部置換 (David 手術)	0	0	0	0	1	0	1
右肺動脈上行大動脈起始症	1	0	0	0	0	0	1
僧帽弁形成術	0	0	0	0	2	0	2
大動脈弁狭窄解除 (弁下、弁上狭窄を含む)	0	0	0	0	1	0	1
						total	65
人工心肺非使用	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	合計
開胸下動脈管閉鎖術	7	0	1	0	0	0	8
主肺動脈絞扼術	1	0	8	0	0	0	9
両側肺動脈絞扼術	0	0	2	0	0	0	2
体肺動脈短絡術	0	0	4	0	0	0	4
心嚢ドレナージ	0	0	2	0	0	0	2
血管輪	0	0	1	0	0	0	1
						total	26

群馬小児医療センター 心臓血管外科

岡村 達

近況報告

群馬に赴任し、3年が過ぎようとしています。本年度一緒に働かせていただいた松永先生、豊田先生、畑岡先生に感謝申し上げます。また、手術支援をいただいた宮地教授に改めて感謝いたします。

今年は、病院数多くのスタッフ方々のご協力を得ることで手術死亡0例を達成することができました。これもひとえに皆様のご尽力の賜物と思っております。昨年より手術数は微増しましたが、新生児手術件数の減少が少し心配な点です。昨年末から引き続き右肺動脈上行大動脈起始症など、非常にまれな疾患の治療を経験することができ、また、成人先天性手術なども院内のご協力をいただき始める計画を立ております。今年は大変落ち着いた1年を過ごすことができました。病院の移転建替えが決定され早期に実現することを期待しております。

最後になりますが、来年も引き続き皆様のご支援いただき、さらに発展させていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科

松永 慶廉

近状報告

群馬での生活も3年経ちました。同時に小児心臓外科としても3年が経過しました。この1年間通して、大きなトラブルなく無事に終えられた事に少しホッとしています。

私生活において大きく変化があったのは、単身赴任となった事です。詳細はふせませんが、一人での生活になった分、仕事で帰れない事で家族を心配する事はなくなりました。しかしながら身の回りの事は全部自分でやらないといけないので、帰宅後の家事でかなり時間が取られます。今更ながら家族がいる事のありがたみを日々感じながら生きております。余裕はありません。可能なら家族と過ごす方が精神安定上は良いのかもしれません。代わりに自分の自炊能力の日々向上しており、手際もだいぶ良くなってきています。職業柄かもしれませんが、料理はなんとなく手術に似ています。事前に何を作るか、家にある食材と調味料を確認し、料理の手順を計画、どういう順番でやれば効率よく美味しい料理完成するかなど考えてやります。失敗した時の修正なども含めると、まさに手術計画みたいだなと思います。どちらにせよくだらない話です。

実際の自分手術については、成長の実感は何もありません。やればやるほど独りで手術をやるレベルが気の遠くなるぐらい先の事のように感じます。毎年感じている事ですが、小児心臓外科をやる人間は相当優秀な人でないといけないのでしょうか。個人的にはそこまでのレベルではないので、数年で自分の感覚的に難しければ、別の道を探す事を検討しています。ですが、やっている間は安全に手術

が遂行でき、無事に家に帰る所まで見届けなければいけません。来年も無事一年過ごせるよう日々頑張りたいと思います。

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科
畑岡 努

近況報告

2 回目の群馬生活が始まって 1 年が経とうとしています。私に似ていると評判（？）の大谷翔平が結婚を発表した今日この頃ですが、個人的なニュースとしては、妻が第一子を授かりました。予定日が 2024 年 4 月なので、順調に経過すればこの年報が出版される頃には生後 1、2 ヶ月程度でしょうか。父親としての実感は全くなく、子育てに貢献できる気もしていませんが（努力はします）、とりあえず生命保険には入っておこうと思います。

今年も多くの執刀機会をいただきました。岡村先生、松永先生の御指導の下、周術期管理を含めて貴重な経験をさせていただいています。臨床業務をしながら、学術活動、英語の勉強などにも取り組むことの大変さを痛感している日々ではありますが、一日一日生き抜いていきたいと思っています。

妻の出産後の生活も御配慮いただき、来年度も群馬で働かせていただく予定です。宮地教授の御高配に感謝申し上げます。恵まれた環境を無駄にしないように努力していきたいと思っています。

5. NTT 東日本関東病院



NTT 東日本関東病院 手術実績 2023

開心術	70 例
虚血性心疾患	28 例
単独冠動脈バイパス手術	26 例
心停止下バイパス手術	19 例
On pump beating bypass	2 例
OPCAB	2 例
MICS CABG	3 例
胸部大動脈瘤	27 例
上行置換	8 例
全弓部置換	8 例
基部置換	1 例
左開胸	2 例
TEVAR	8 例
弁膜症手術	18 例
大動脈弁	10 例
僧帽弁	11 例
三尖弁	3 例
Maze	5 例
その他開心術	3 例
ASD	1 例
腕頭静脈瘤	1 例
肺動脈血栓除去術	1 例
MICS	
CABG	1 例
ASD	1 例
MVP	1 例
末梢血管手術	116 例
腹部大動脈瘤に対する Y-graft	8 例
腹部大動脈瘤に対する EVAR	13 例
ASO に対する F-F F-P bypass	4 例

TEA	2 例
Distal bypass	4 例
シャント手術	82 例
AAVF	59 例
VAIVT	13 例
その他 (AVG, 表在化, permanent)	10 例
その他	7 例

NTT 東日本関東病院心臓血管外科部長 華山 直二 近況報告

手術を「させていただく」とは言いません

NTT 東日本関東病院の 2023 年度は、人事面で大きな激動が起きた 1 年でした。まずでは中村が 3 月いっぱい当院での勤務を終え、国立病院機構静岡衣料センターに異動しました。彼は明るい性格で周りの空気を和ませる、特殊な能力を持っています。仕事面では実にピンポイントで、上司が一番困る事をするという特殊能力も併せ持っています。しかし彼の特殊能力のせいでどういうわけか、怒る気になれないのです。この長所に驕ることなく、精進してくれることを祈っています。そして、中村の交代として後藤が赴任してくれました。彼は東大を 2 度も卒業しているという変わった経歴を持っています。一度で満足できない、これも特殊能力の一つなのでしょう。私は特殊能力を持った部下に恵まれています。非常に穏やかな性格でスタッフからの評判も良く、助かっています。田村、後藤、私という安定したメンバーで安心しておりましたところ、新宿方面で大きな事件があり、田村が 12 月いっぱい新宿に異動することになりました。田村は手術が何より好き、という特殊能力を持っています。もちろん好きなだけでなく、極めて的確で正確な手術をします。彼を失う事は非常に痛手ではありましたが、彼にとっては出世人事ですので、今後の活躍を祈るばかりです。田村の代わりに 1 月に当院に赴任してくれたのが、松下です。彼の特殊能力に関しては来年の年報で詳細を報告しようと思います。

最近、主に若者がつかう言葉に「させていただく」というフレーズがあります。私は常々このフレーズに違和感を持っていたのですが、2016 年に国民的アイドル、SMAP が解散するときに少しだけこのフレーズが世間の話題になりました。彼らが同年 8 月に発表した声明で「SMAP は 2016 年 12 月 31 日をもちまして解散させていただくことになりました。」と表明したのです。若い世代には何の抵

抗もなく受け入れられたこのフレーズも私、そして少なからずの年配者にはどうしても受け入れられないものがありました。どうして、「解散します」と言わないのか？「させていただく」のは誰かの許可が前提にある言葉です。「息子の入学式があるので、今日は休ませていただきます。」これは、正しい日本語です。上司の許可を得て休ませていただこうと言っているのです。関係ない話ですが私は息子の学校行事はすべて参加した、というのがちょっとした自慢です。しかし、SMAPはこの時点で、声明を発表した対象者の許可をまだ得ていません。声明文を目にするであろうファンの大多数がSMAPの解散を快く、許可するという確信があったのでしょうか。私は、SMAPファンの大多数が許可を与えてくれることを前提としたこの一方通行の宣言に、ある種の「身勝手」を感じたのです。

翻って、「手術をさせていただきます。」と患者さんに伝える外科医がいます。もちろん、手術は同意なくして行われることはありません。その意味では手術は、させていただくものです。しかし、自他認める手術が下手な外科医が、「私より上手い外科医はたくさんいます。あなたには病院を変える自由があります。でもあなたが同意したので、手術を私がします」、という意味を患者さんに伝えたいと思ったら、どういう言葉になるのでしょうか。「私が手術をさせていただきます。」ではないでしょうか。

もちろん、SMAPのメンバーに「ファンは絶対に許可してくれるはず」という確信があったわけでもなく、前出の外科医も、「私は自他ともに認めるへたくそな外科医です」という意思があるわけではないことは承知しています。

かつて江戸の遊廓では「わちきはいやでありんす」といった、花魁言葉が使われていました。これは花魁たちがお国言葉を隠すために、誰にも正しい使い方がわからない、新たな言葉を作ったとの説が有力です。その結果、見事にブランディングに成功し、高い報酬を得ることが出来るようになったと言われています。SMAPも誰か芸能界の先輩が「～させていただきます」と言っているのを聞いて、自分たちのブランディングの一環として「解散させていただいた」のでしょう。

私は人の感情をやたらと面倒くさく邪推するという特殊能力があります。なので私は今まで、そして今後も絶対にこういいます。「手術は私がいたします。」

NTT 東日本関東病院心臓血管外科

田村 智紀

2023年12月まではNTT東日本関東病院で勤務、2024年1月からは国立国際医療研究センター病院に勤務しています。NTTでは今回は2年3か月お世話になりました。NTTでは循環器内科、麻酔科、コメディカルの方々が強力にサポートしてくれたおかげで、手術の症例数を増やすことに邁進することができて非常に充実していました。華山先生、後藤先生との3人のおじさんチームは完全に熟していて良い完熟チームでした。華山先生、ボディビル優勝おめでとうございました。次のステージでも優勝してください。ご指導ありがとうございました。後藤先生、減量成功おめでとうございました。「わたくし」も減量がんばろうかと思えます。国立国際医療研究センター病院でも症例数を増やすべく邁進します。

なので今年も症例数の増加が目標です。現在の状況からは少し難しそうですが開心術・TEVAR100

例を、また手術成績の向上を目標とします。施設の集約化の第一歩が進み始めてしまったので高い危機感をもって日々の診療を行っています。手術手技では変わらず左開胸大血管, MICS 手術手技の向上, NCGM での MICS CABG の定着を目指します。

個人的な目標では、昨年は修練指導医を取得, NISA 開始, 車の買い替えを達成しました。今年は学位取得(もう少し, 後は個人戦です。鹿田先生・古平先生ありがとうございました), iDeCo 開始, こすった車の修理となります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

NTT 東日本関東病院心臓血管外科 後藤 博志

NTT 東日本関東病院での一年を振り返って

NTT 東日本関東病院での 1 年を終え、新たな 1 年が始まります。

昨年を振り返るに、華山部長や田村先生、この 1 月からは、松下先生の指導を受けながら、様々な経験を得ることができました。この場を借りて深く感謝を申し上げます。また、この一年の成長と老化を実感しつつ、新たな 1 年を迎えたいと思います。

具体的に振り返れば、昨年は自らの執刀した症例でも、手痛い経験もあり、今年はそのような経験がないよう、日々己を磨いていきたいと思います。

毎年毎年、今年こそが人生の大きな分岐点となるであろうと意気込みながら臨みますが、大きな代わり映えのない 1 年を過ごしているここ数年です。キャリアや人生を考える上でも、日々の悩みは尽きないわけですが、何はともあれ、日々の健康に感謝しながら、理想を追い求め 1 日 1 日を過ごしていく所存です。

今後とも、よろしくお願いいたします。

6. 独立行政法人労働者保険安全機構 関東労災病院



関東労災病院手術成績 2023

開心術 (total 43 例)

CABG: 14 例 (OPCAB 4 例)

AVR: 9 例 (+MVP 3 例, +CABG 1 例)

MVR: 5 例 (Re-MVR 2 例, +Maze 1 例, +AVR 1 例)

MVP: 9(+TAP 6 例, +CABG 1 例)

その他: ASD closure+MVP+TAP 1 例

Bentall+MVP 1 例

左室内血栓摘除 1 例

心筋梗塞後心破裂修復 1 例

心臓腫瘍摘出術 1 例

収縮性心膜炎手術 1 例

大血管手術 (Total 25 例)

TEVAR: 4 例 (1-Debranch 1 例)

EVAR: 16 例

開腹 AAA: 5 例

末梢血管 (Total 45 例)

Axillo-bifemoral bypass: 1 例

F-F bypass: 2 例

F-P bypass: 3 例

血栓内膜剥離術: 3 例

血栓摘除術: 4 例

仮性動脈瘤, 動脈形成術: 6 例

静脈瘤手術: 26 例

その他: 5 例 (デブリドマン、試験開胸)

総括: 2023 年は目標としていた開心術 40 例 / 年を達成する事ができましたがステントグラフト 30 例 / 年は達成できませんでした。ステントグラフトに限らず大血管症例が少ない状況が続いています。大動脈解離を含む大血管症例が他病院へ流れてしまっている状態です。末梢血管疾患は循環器内科による血管内治療と棲み分けができおり毎年一定数の症例確保ができおり今後も継続していきたいと思います。全体として手術死亡なく 1 年を終える事ができました。

関東労災病院 心臓血管外科部長 田中 佑貴

関東労災病院に赴任して2年が経ちました。少しずつ症例も増え、土田先生も2年目になったため非常に安定した1年であったと思います。今年は土田先生が研究留学で渡米するため交代となりますが引き続き症例を増やしながらトラブルなく診療を行っていきたいと思います。

私生活では子供も大きくなり長男は高校生、次男は中学生、長女は小学校高学年になりました。大きくなってくると親とどこかへ出かけたがらず少し寂しさを感じています。留学中に以前好きだった釣りを再開しましたが、どうやら子供たちも釣りは楽しいようで私が釣りに行く際に誘うとついてきます。大きくなっても一緒にできる趣味があるのは嬉しい限りです。今までは川、湖で淡水系の釣りをやってきてブラックバス、マスを中心にしてきました。しかしアメリカと違って日本ではブラックバスを釣る場所が限られています。また、ブラックバスは食べる事ができずマスも好み分かれます。そこで釣って楽しく、食べて美味しい海釣りを始めることにしました。船は酔いやすいためもっぱら堤防、サーフでの釣りになりますが、個人的は餌釣りよりもよりスポーツ性の高いルアーでの釣りをやっています。まだブリ、ヒラマサ、カンパチなどの大物を釣り上げたことはありませんが、今年こそは大物を釣って捌きたいと思っています。結構な頻度でアニサキスがいるので注意したいところですが、魚が活着しているうちは内臓にいて、死ぬと身に移るため釣って早めに捌けば比較的安全です。今年の目標はブリ、大きめのヒラメ、アオリイカを釣って食べることです。結果は来年また報告できればと思います。

関東労災病院 心臓血管外科 土田 勇太

近況報告、留学準備と少しカブトムシ

4月よりシカゴ大学の日比野先生の研究室で働くこととなりました。それに伴い2022年10月から勤務していた関東労災病院を退職することになりました。後任には中村先生が来られるということで、期待したいと思います。また、留学の機会をいただき、法人の方々や留学を繋いでくださった先輩方に大変感謝しています。

渡米へ向けた準備ですが、購入した自宅と車を売ってアメリカ生活の費用に当てようと思います。給料も出ますが家族も来るとなると物価高のアメリカでは不足することが多いようです。いざ準備を進めるとどんどん分からないことや必要な申請と書類が噴出してきて大変でした。しかし私のような英語中級者でもシカゴ大学と連絡を取り合い準備ができています。

7月に2番目の子供が生まれます。アメリカで出産すると国籍がもらえると色々考えましたが、家族で話し合い、日本で出産して落ち着いて(半年くらい)から妻と子供は渡米することにしました。

個人的には初めの時期を研究に没頭できる、とりあえず一人での生活を準備するという点ではいいことかなと思います。この点において留学は独身の時に行く方が準備など比較的簡単だと思います。

しかし専門医をとる時期などなかなか全てがタイミングよく行くことはないとも思います。1 番目の子供はちょうど小学校に入るタイミングなのですが、バリバリの日本人のため子供がホームシックにならないか少し心配しています。

今年は去年失敗した心臓血管外科専門医を取ることを最終目標としてそれまでに取れる資格を取ろうと考えました。8 月頃にある脈管専門医試験を受験、合格することができました。末梢血管、大血管の勉強ができて資格も取れて一石二鳥でした。また、この歳になってペーパー試験自体受ける機会が減っていたので試験慣れするのにもいい機会でした。

日常的にも常に取れる資格を模索していました。関東労災病院は静脈瘤症例もあり、以前取っていたレーザー実施医を指導医にすることができました。下肢静脈瘤治療は出向先によって血管外科でやっていたり、皮膚科や形成外科がやっているところもあるのでブランクがありましたが割とすぐに慣れて、穿刺の速さは業者さんに褒めてもらえるまで成長しました。特にトラブルもなく症例も増えつつあったので満足しています。若手の先生で興味があれば比較的すぐに取れる資格なので相談した方がいいです。後任の中村先生にも赴任後に早速取得してもらい、次の後任のためにも指導医になってもらいたいです。

腹部ステントグラフトも新しい機種を積極的に使用して指導医機種を増やせました。胸部は適応も難しく症例も多くないので実施医まででした。弾性ストッキングコンダクターというマイナーな資格も静脈瘤治療の理解を深めるため取りました。関東労災病院で取りやすかった資格は労災病院の機構本部が横にあるので臨床研修指導医講習が簡単に受けられ臨床研修指導医が気軽に取ることができました。詳しくは知りませんが開催できる施設が限られているので大体が2泊3日遠方に出向いて受けるという大変な講習なのですが、これを病院敷地内で、なんなら業務の後でも受けることが可能でした。

この講習は、初日は昼から18時くらいまでやって、2日目は9時から17時まで、3日目は9時から昼まででワークショップや集団討論など休みなくかなりハードな内容となっています。私も講習中は体調を崩しながらなんとか最後まで受けました。途中でやめるともらえないので根性で受けて講習が終わる頃には体調も良くなってきました。その頃に妻が熱発、検査でコロナが発覚、まさかと思い私も検査したところコロナ陽性！2年連続コロナ感染となりました。しかも私から妻にうつしてしまい、幸い子供はかからなかったですが2年連続で私から家族へコロナをうつしてしまい申し訳なく思っています。コロナにかかりながらも完結した講習の証書は紙一枚かと思いきや、たいそうな額に入って渡されたのでやった甲斐がありました。関東労災病院出向中に臨床研修指導医を取るのいいかも知れません。

関東労災病院は周囲に末梢血管治療に取り組む施設がほとんどなく、さらに近隣の某私大附属病院の閉院にともなって末梢血管の症例はさらに増えてきそうです。また静脈瘤治療も周囲の病院はやっていないのでこちらも定期的に相談があり、治療を始めると口コミなのか紹介が増えるようになりました。大血管症例は競合する病院が多くなかなか症例が増えませんが、末梢血管症例は地道にやればある程度は増えていくように思います。

あとは恒例のカブトムシですが日本のカブトムシ以外は今年の冬に大量に死んでしまいました。留学準備などで世話がおろそかとなったことが原因でした。実家に置かせてもらっていて空き部屋の大部分のスペースを占領していたので親はたいそう喜んでいました。カブトムシの育成はここで一旦区切りをつけたいと思いますが、子供がやりたがってるとか何かしら理由をつけて再開するかも知れません。

7. 特定医療法人沖縄徳洲会 湘南厚木病院



湘南厚木病院手術実績 2023

総括

2023 年は、開心術は 42 例で、心臓血管外科専門医認定症例は 119 例と前年度より多い手術件数でした。地域の近隣医療機関と連携し、さらなる症例数の増加を目指していききたいと思います。

文責 榎 健司朗

年次症例数の推移

	2022 年	2023 年
開心術 + TEVAR	28	45
開心術	25	42
心膜開窓術	0	1
周術期死亡	1	0
腹部・末梢血管	6	73
腹部大動脈瘤 + EVAR	3	7
末梢血管	3	66
心臓血管外科専門医認定症例	34	119
ペースメーカー関連手術	28	15

2023 年の手術内容

CABG 単独 9 例（全例 Off pump うち 6 例 MIDCAB）

心臓弁膜症 27 例

AVR 15 例（うち 3 例 CABG との同時手術）

MVR 5 例（うち 1 例 CABG との同時手術）

MVR + TAP 3 例

MVP + TAP 2 例

AVR + MVP 1 例

AVR + MVP + TAP 1 例

胸部大血管手術 9 例

AAR 2 例

Redo-TAR 2 例

TAR + CABG 1 例

TEVAR 3 例

腹部・末梢血管 73 例

腹部大動脈瘤 OSR 3 例

EVAR 4 例

A-F / F-F bypass など 46 例

下肢静脈血管内焼灼術 20 例

近況報告

湘南厚木病院 心臓血管外科部長
榑 健司朗

近況報告

昨年4月より豊田先生と2人で当院に赴任させていただきました。厚木市内に心臓血管外科専門施設が当院のみであることや近隣医療機関との積極的な交流、日々の豊田先生の頑張りもあり、順調に症例数も増えていっております。赴任当初目標としていた下肢静脈瘤のためのレーザー導入やCABG適応患者への積極的なMIDCABも行うことができました。赴任前に、研修医時代からお世話になっている外科医の大先輩に、これからは知識や技術、指導力が大事ですと言われました。前者2つは今更急にどうしようがないのですが、最後の指導力についてはどうするべきかと思いました。こちらについても以前、ある先生に言われた、自分が先輩にされて嬉しかったことを後輩にして、嫌だったことはしないということを大切にしようと思いました。結果として、いま一緒に働いている豊田先生が少しでも外科医として前進したと思っていてくれれば幸いです。今年も1年、コメディカル含めた1つのチームとして、去年の成績を超えられるように頑張っていきたいです。

湘南厚木病院 心臓血管外科
豊田 真寿

近況報告

充実した1年でした。4月から榑先生と湘南厚木病院で勤務をさせて頂き、成人の開心術、ステントグラフト、末梢血管などを学び直し、自身で出来る手技や判断の幅が増えていくのを日々実感することが出来ました。榑先生が日々私の指導に対しての具体的な目標を持って下さっていた為、何が出来れば次のステップに進めるかが常に明確で、仕事に対してのモチベーションを高く保つ事が出来たように思います。

また、心臓血管外科専門医も取得し、客観的にも求められる医療の質を上げなければならないと、より責任を感じるようになりました。専門医取得の際には、これまで私に指導や手術経験をさせて下さった先生方の御助力を改めて感じました。この場をお借りして感謝申し上げます。

仕事以外の面では、家に帰れば家族が居てくれることの幸せを改めて感じられる日々でした。まだ小さい子供を含め、家族の体調が優れない時に短い時間でも一緒に居られることは、家族皆の安心に繋がりました。こちらから言わずとも、榑先生が常に私の家族の事も考え、気にかけて下さっていた事も大変ありがたい環境でした。

2024年度は、学術活動にも専念したいと思います。研究の為のミーティングを定期的を開いて頂ける恵まれた環境を活かして参りたいと思います。

8. 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 (NCGM)



2023 年 国立国際医療研究センター病院 心臓血管外科 年間手術報告

心臓血管手術総数	214 例
①人工心肺 +OPCAB	66 例
②腹部大動脈手術	21 例
③心臓血管外科専門医手術	115 例
その他の手術	22 例
総手術数	246 例

●弁膜症

手術数	24 例（弁膜症を主とする手術 22 例）
大動脈弁単独	10 例：AVR 10 例 (+CABG 1 例、+PVI 1 例、+Maze 1 例)
僧帽弁単独	4 例：MVR 2 例、MVP 2 例（+Maze 2 例）
複合弁	8 例：DVR 3 例（+TAP 2 例、+CABG 1 例） AVR+MVP 2 例、AVR+TAP+VSD closure 1 例 MVP+TAP 2 例（+Maze 1 例）
併設	1 例：Rout 1 例、Tumor+TAP 1 例

●虚血性心疾患

手術数	15 例
単独冠動脈バイパス手術	8 例
OPCAB	2 例（25%）
Endo RA	1 例
心室中隔穿孔閉鎖	1 例

併施の冠動脈バイパス手術 6 例（+AVR 2 例、+DVR 1 例、+Aorta 3 例）

●胸部大動脈

手術数	42 例
大動脈解離	24 例（急性解離 21 例）
：上行置換	16 例
弓部置換+オープンステント	7 例
基部置換	1 例
非解離性大動脈瘤	18 例

：上行置換	2 例
弓部置換	4 例（+ オープンステント 3 例）
：TEVAR	12 例

●その他の心臓手術

手術数	5 例
心臓腫瘍摘除	2 例
左室内血栓摘除	1 例
収縮性心膜炎手術	1 例
心室中隔仮性瘤閉鎖	1 例

併施	5 例
肺動脈隔離術	1 例
Maze 手術	4 例

●腹部大動脈

手術数	21 例
開腹人工血管置換術	6 例（破裂性 3 例）
EVAR	15 例（破裂性 7 例）

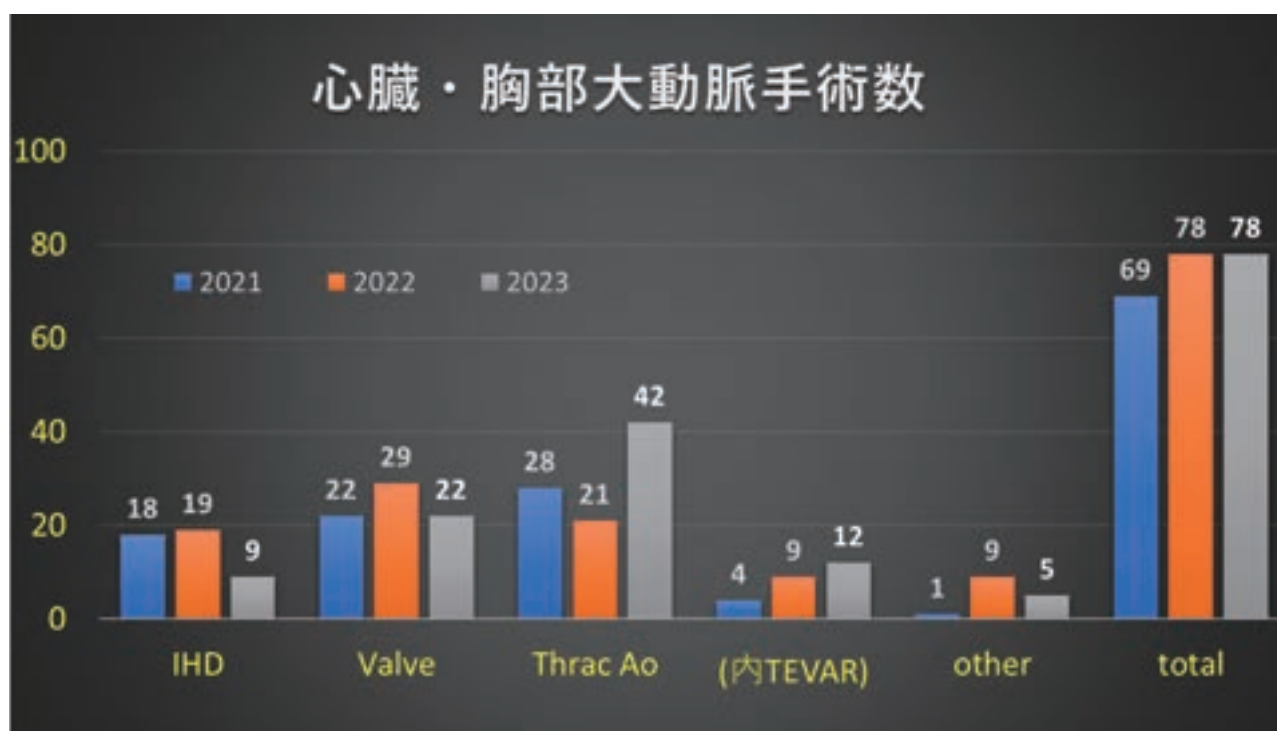
●末梢血管手術

手術数	111 例
EVAR（腸骨動脈）	3 例（破裂性 2 例）
末梢血管バイパス	7 例
	：F-F 4 例、F-P 1 例、Ax-F 1 例、Ax-Ax 1 例
血管形成	11 例
内膜剥離	3 例
バスキュラーアクセス手術	55 例
	：内シャント 33 例、人工血管 2 例、PTA 16 例
静脈瘤手術	25 例
血栓摘除	7 例

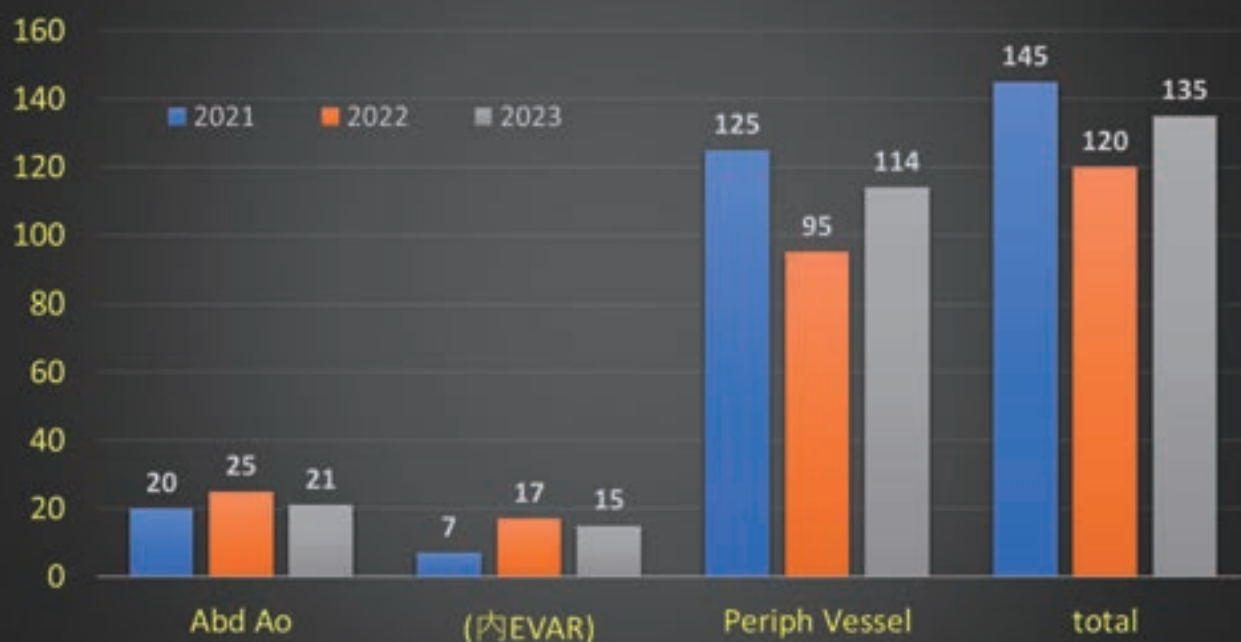
●その他の手術

手術数	22 例
-----	------

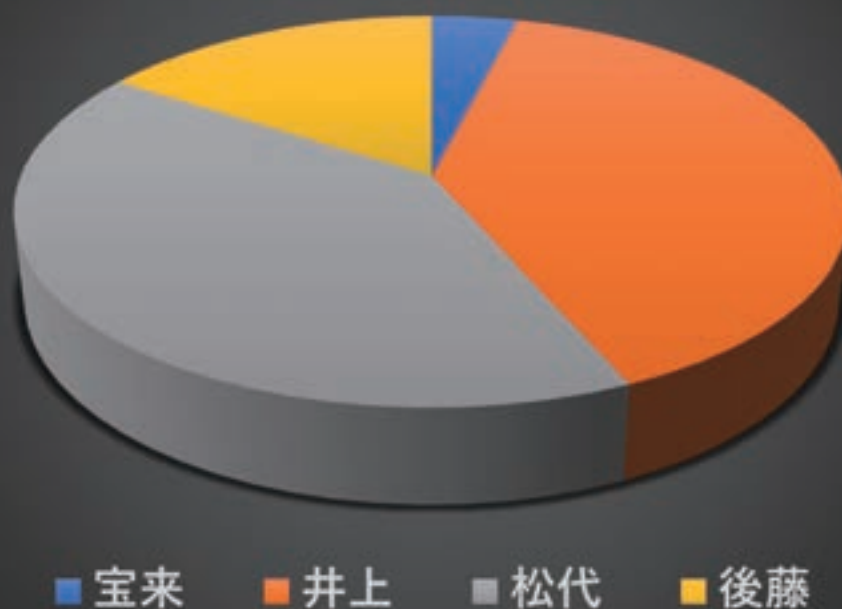
末梢動脈血管内治療（塞栓）	2 例
IVC フィルター	1 例
心膜開窓	1 例
ポート造設	5 例
その他	17 例



腹部・末梢血管手術数



心臓・胸部大動脈 術者



業績（学会・論文）

●国際学会発表

Nobuyuki Inoue, Yuki Ohtomo, Yurie Ohtomo, Takuma Fukunishi,

Takuya Matsushiro, Tetsuya Horai

Inhaled nitric oxide reduces duration of mechanical ventilation after cardiac surgery with perioperative pulmonary hypertension

ASCVTS (Busan)

●国内学会発表

井上信幸、山野 祐市、大友 勇樹、大友 有理恵、松代 卓也

開心術後の呼吸不全に対する運動療法 移動式ハイフローセラピーを用いた早期離床の試み

第 45 回呼吸療法医学会（名古屋）

●研究会・講演会

井上 信幸 iNO 循環動態管理を考える会（仙台）

井上 信幸 神奈川ろうあ者大会（横浜）

●論文

1. 宝来 哲也

感染性心内膜炎を診る, 治す 感染性心内膜炎の外科手術とタイミング, 再発予防, フォローアップの
ありかた

診断と治療 111(10): 1387-1391, 2023

2. 田村 智紀、大友 有理恵、宝来 哲也

腹部大血管手術後に臀部コンパートメント症候群を発症した 1 例

日本胸部外科学会雑誌 52(4): 274-277, 2023

3. 田村 智紀、大友 有理恵、宝来 哲也

脊髄虚血を合併した Stanford A 型急性大動脈解離に対する治療経験

日本胸部外科学会雑誌 52(2): 103-108, 2023

4. 田村 智紀、村井 佑太、竹谷 剛、宝来 哲也

粟粒結核に伴った結核性腹部大動脈瘤と胸部大動脈瘤の同時発生の 1 手術例

日本胸部外科学会雑誌 52(1): 50-54, 2023

総括

心臓血管外科 診療科長 井上 信幸

6年間当院の心臓血管外科の為にご尽力いただいた宝来 哲也先生が、2023年3月末で退職され、1か月間のオーバーラップの後に4月から科長を引き継ぐ形となりました。松代先生とともに、何とかコロナ明けの1年間を乗り切りました。3月末まで後藤 博志先生に、4月から9月まで金田 咲良先生に、10月から横塚 洸先生に手厚いサポート頂き、忙しい職場でも明るい雰囲気の仕事が出来たことに感謝しています。2024年1月からは田村 智紀先生に来て頂き、更なる当科の発展につながると信じています。

2023年は定時手術、特に虚血性心疾患手術が減少していましたが、その分、大動脈を中心とした緊急手術症例が2倍に増加（心臓・胸部大動脈は全体の43%、腹部大動脈は52%が緊急手術）、開心術全体では件数は横ばいを保ちました。しかしながら勿論手術が増加しない限り、安定した症例をもつハイボリュームセンターになれないため、内科および地域病院との連携をさらに強めていきたいと考えております。ハイブリッド手術室はついに着工しました。TAVIの施設認定要件をまだ満たしていない項目を補えるよう、病院全体で取り組んでいきたいと考えております。

国立国際医療研究センター心臓血管外科

松代 卓也

まずは施設更新にあたり私の無知・不真面目さ故に審査が通らず、当院におけるステントグラフトの実施が1年間不可能となったことに関して、関係各位、特に科長の井上先生に多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。恥ずべき事ながら、これまで今ひとつ事の重大さに気づいておらず、今年になり実際にステントグラフトを実施できない現状になって初めてそれを認識した始末です。今後は各種申請の期限など十分注意をすべく反省しております。

さて、今年でNCGMでの勤務も2年が経過しました。引っ越し後すぐに産まれた我が子は二足歩行のホモサピエンスとなり、日本語を話し始めました。

私は今年40の年になりました。しかしながら不惑は適いそうにありません。

曰く人の世は住みにいそうですが、時に流されるほど情に棹させることや、角を立てるほど智に働くこともありそうです。

前述の如く己の不出来を猛省し、本年も身を粉にして働きたく存じます。

（夏目坂の自宅にて）

国立国際医療研究センター心臓血管外科 横塚 洸

はじめに、本年度入局いたしました、1年経たず心臓外科を辞める事といたしました。宮地教授、国立国際医療センターの井上先生には多大なご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

右も左も分からない状態で始まった北里大学病院の成人チーム、鹿田先生に付きっきりでご指導いただいた小児チーム、そうした生活の中で自身の適性を考えるとほかの道で努力した方が良いという考えに至りました。

9月一杯で退職するつもりでしたが、酒の勢いで年度末まで続けることとなり10月に国立国際医療センターへ異動しました。辞める人間に指導するメリットは無いと思いますが、井上先生、田村先生、松代先生には大変丁寧にご指導頂き、また多くの経験をさせて頂きました。楽しく、充実した半年間を過ごすことが出来ました。

来年度から放射線科専攻医として修練を開始します。進む道は変わりますが、ご指導いただいた先生方のマインドや技術を忘れず今後も励んでいきたいと思っております。

短い期間でしたが大変お世話になりました。心臓血管外科振興会の益々のご発展を祈念しております。

医療系 YouTuber を目指して

国立国際医療研究センター病院 井上 信幸

～インターネットで病院や医師を検索する時代である～

2023年2月まで約4年間北斗病院にお世話になった。北斗病院は脳神経外科の医師らが立ち上げた経緯と、地域で脳卒中の緊急患者を最も受け入れていることから、「脳」のイメージが強く、「心臓」に関する知名度は他施設らに圧倒的に劣っていた。赴任当時、挨拶回りをして手術症例数が伸びず、ただ指をくわえているのはとても悔しかったので、どこかに付け入る隙がないものか探求した。まず相手を知ることからと、帯広のすべての総合病院のホームページ（HP）をチェックしてみた。HPに力を注いでいる病院は少なく、中でも特に心臓血管外科を標榜している施設のHPは「残念ながら見応えの無い」ものであった。医師の名前はあるが写真もなく、科の紹介文も10年間くらい変わっていない情調であった。ここから差別化を図ってみようと思ったのが科の特設HPによる宣伝だった。病院幹部にHP作成について熱くプレゼンテーションしたところ、即決で〇万円も支出してくれることとなった。流石！北斗病院。HPの「ハードの構成」作製を業者さんに依頼すると、お金をかければかけるほど豪華なものが出るが、その後の「コンテンツ作り」を自発的に行わないと、逆に味気ないHPに見えてしまう。豪華な高層マンションに入居者がわずかであると、夜灯の部屋の明かりが少なさに残念な気分になるのと同じだ。医療コンテンツで最も大事なことは、「理解しやすいこと」と誰もが当たり前に思うが、なかなかそうはいかない。医学的なことを表現しようとすると、どうしても複雑になってしまう。そこで視覚的に訴えるものが良いと考え、イラストレーターと二人三脚でオリジナル画像を毎回作り、画像を多めに添付したコラムを毎週更新した。また広報担当者と病気の説明動画を作った。動画はそうYouTube上でも視聴できるものである。



はじめ動画さえ作ればいいと安易に考えが、そのうち「再生回数」という魔物の存在に気付いた。再生回数は思っているより伸びないのだ。まして「バズる」などは神の領域である。インタビュー形式、塾講師風（写真）、解説者っぽくなど、いろいろ試してみた。息子には動画の中でのしゃべり口調をモノマネされ恥ずかしかった。再生回数は伸びない時期は、この期間でこの人数しか観てくれないのかと落ち込み、次の動画を作る気がなくなる。北里大学の一つ先輩の品川弥人先生が、しながわ内科・循環器クリニックから up している動画の再生回数が自分よりはるかに多く、気になってしょうがない時期もあった。それでも恐怖心を拭い工夫しながら作っていくと、再生回数が伸びる動画が出てきた。少しずつアルゴリズムが分かってきた。そして大事なことに気づいた。一度おすすめ動画の上位にあがると、その位置がキープできる。つまりあまり新しい動画を作る医療者、特に医者 of YouTuber がいないのだ。外来で「YouTube を観たら先生だった」と言ってくれる患者さんもまああまある。これはチャンスでしかない。病院の宣伝にも、各疾患でかかる医者を選択する題材にもなる。3 月から現病院に異動し、すぐに YouTuber として（笑）動画作成の許可を得た。しかし前例が少ないため予算がつかず、編集に協力してくれる職員はほぼいない。まずはデジタルサイネージ用に動画を作り流してみても手ごたえは掴んだ。何とか念願のハイスペックパソコンと動画編集ソフトは手に入れたので、今年は自力で動画を作ってみたい。仕事以外ではもっと穴場な、ろう者向けの病気の解説動画を作ろうと考えている。

医療系 YouTuber への道のりはまだ遠い。



9. 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター

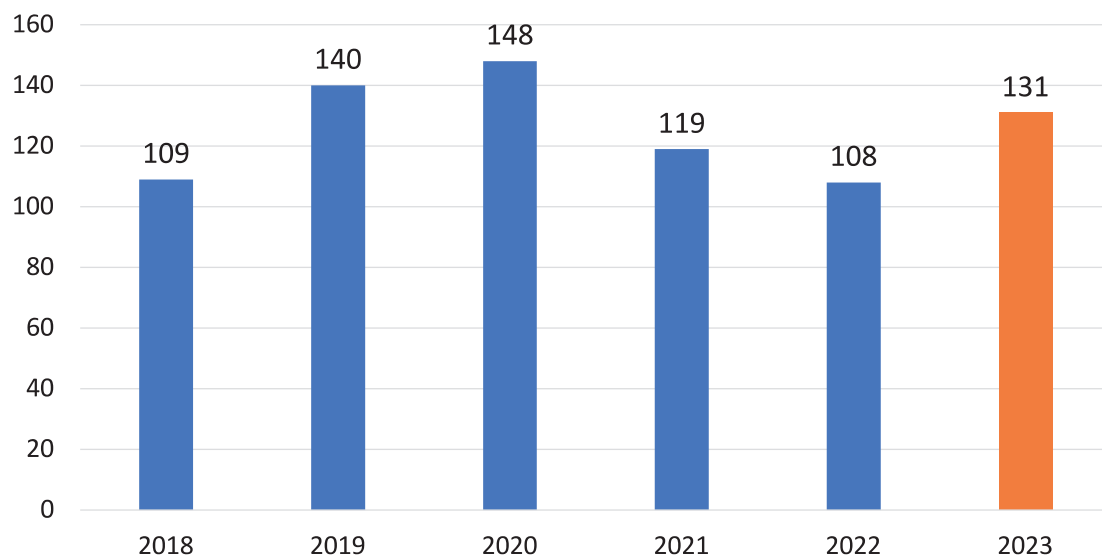


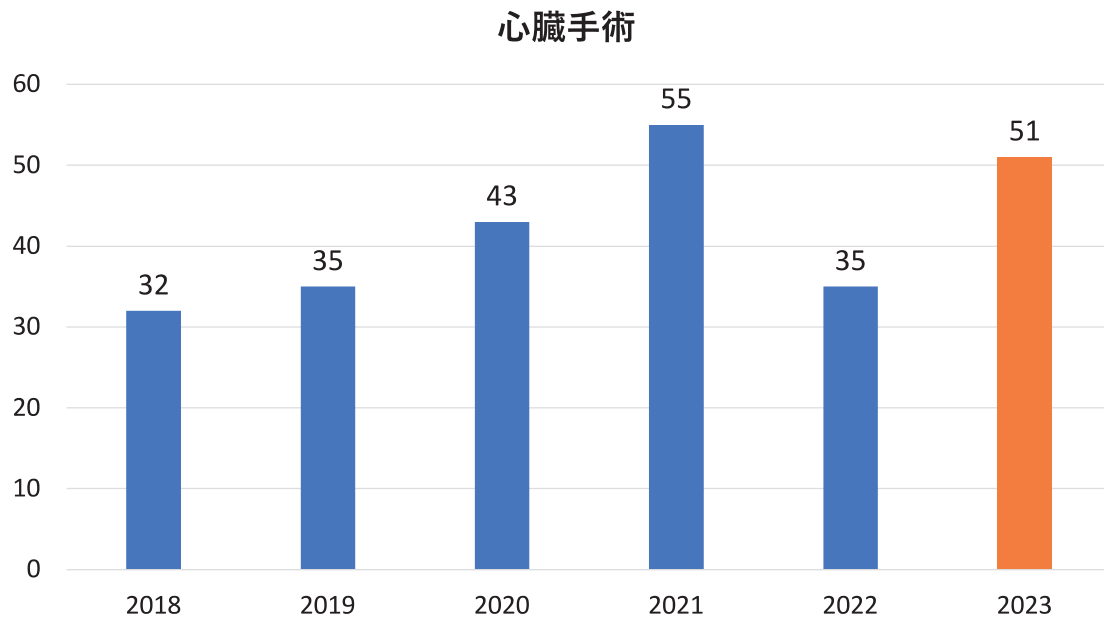
2023 年静岡医療センター手術実績

<概要>

(1) 人工心肺＋ OPCAB	88 件
1) 心臓手術	51 件
2) 胸部大動脈手術	37 件
(2) 心大血管手術	179 件
1) 人工心肺＋ OPCAB	88 件
2) TEVAR	43 件
3) EVAR)	48 件
(3) 心臓血管外科専門医制度上の手術（動脈塞栓・PTA 等を除く）	187 件

心臓・胸部大動脈手術 (含・TEVAR)

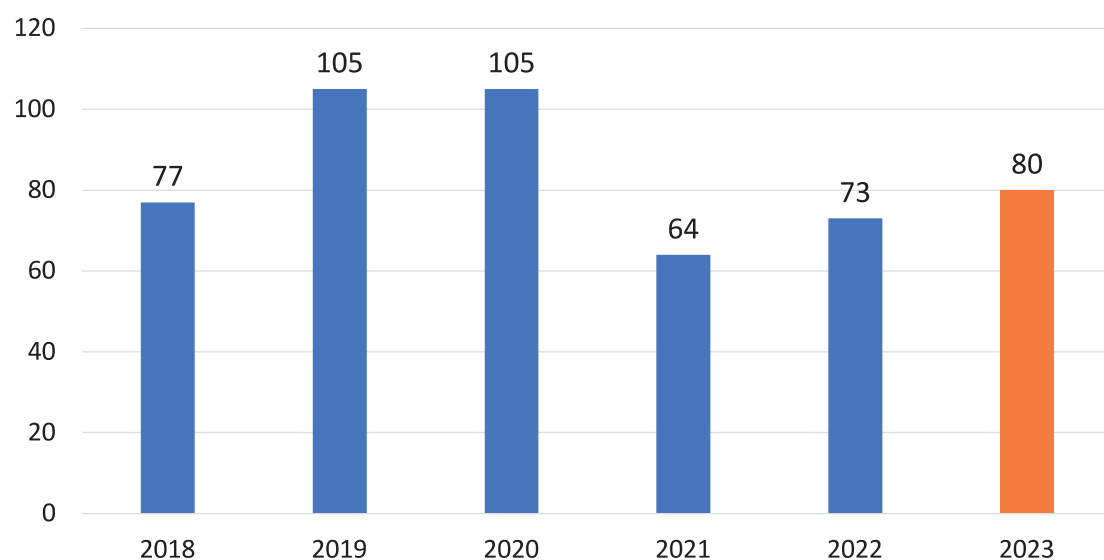




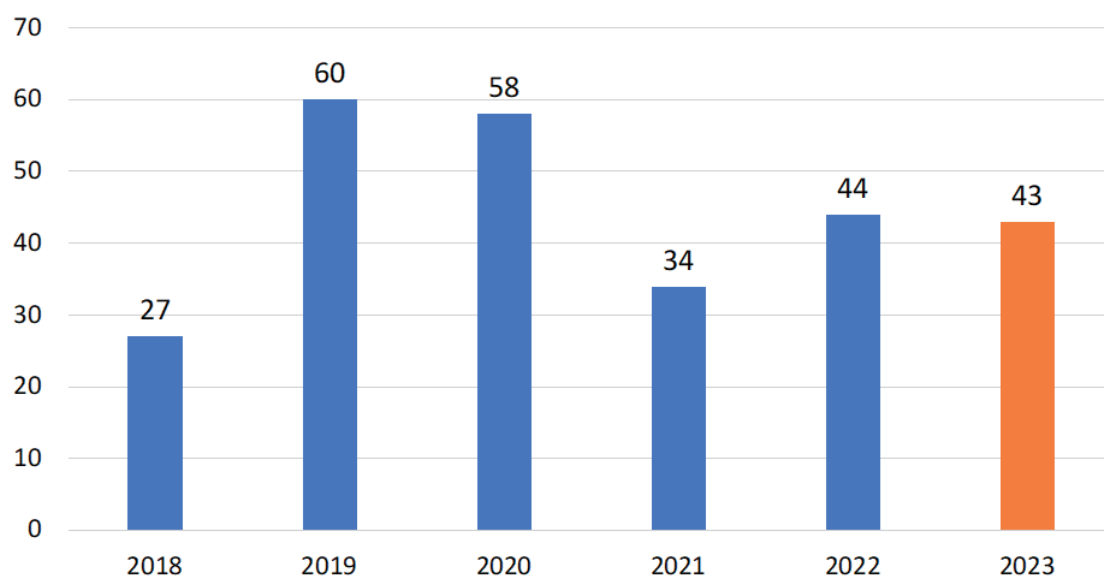
心臓手術：51 (←2022年 35) 件

- 冠動脈手術 12 (←13) 件
- 弁膜症手術 35 (←19) 件
 - 大動脈弁手術 16 (←7) 件
 - 僧帽弁手術 15 (←7) 件
 - 大動脈弁 + 僧帽弁手術 3 (←5) 件
 - 肺動脈弁手術 1 (←0) 件
- その他 4 (←3) 件
- [MICS/mini-sternotomy 4/1 (←0) 件]

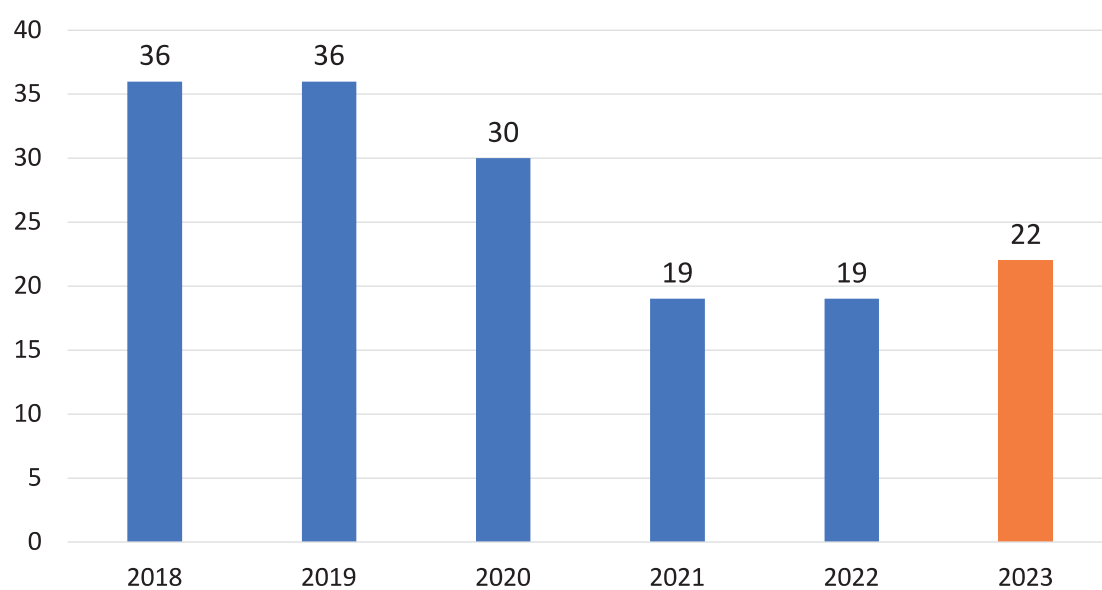
胸部大動脈手術 (含・TEVAR)



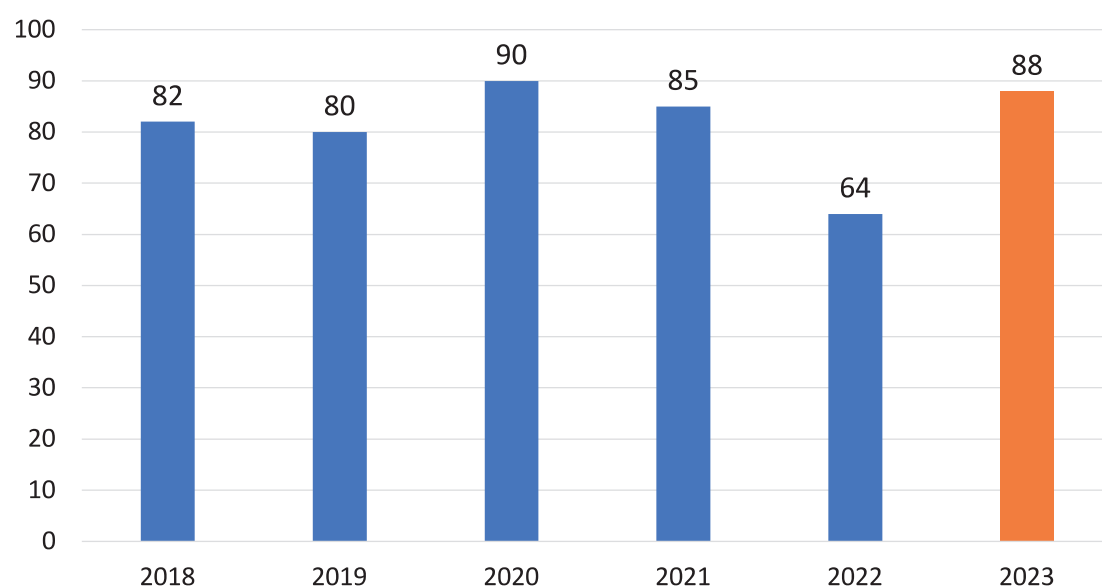
TEVAR



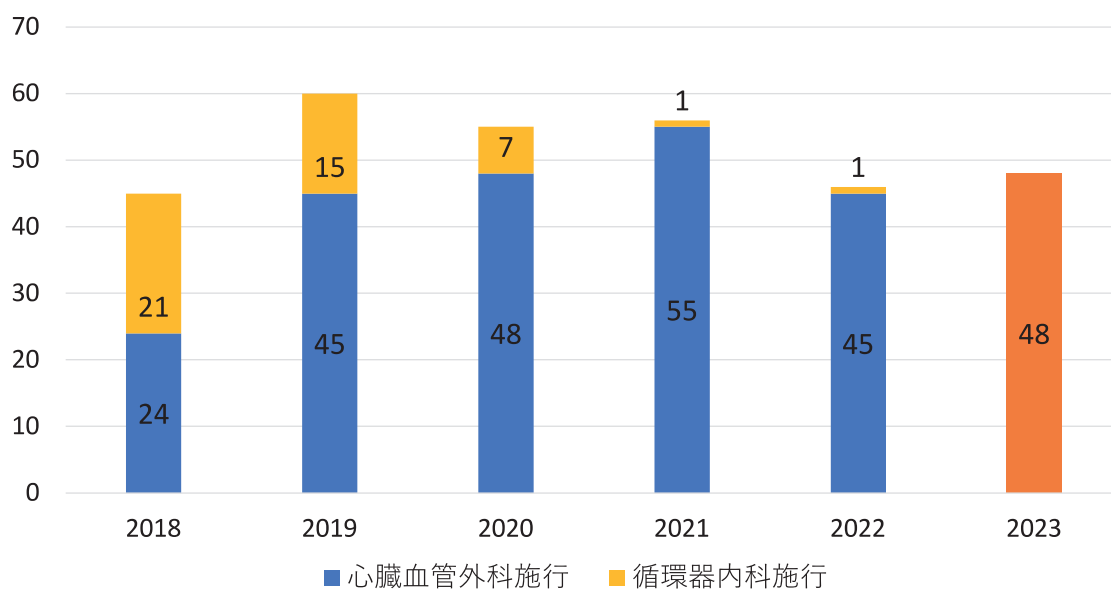
急性大動脈解離手術



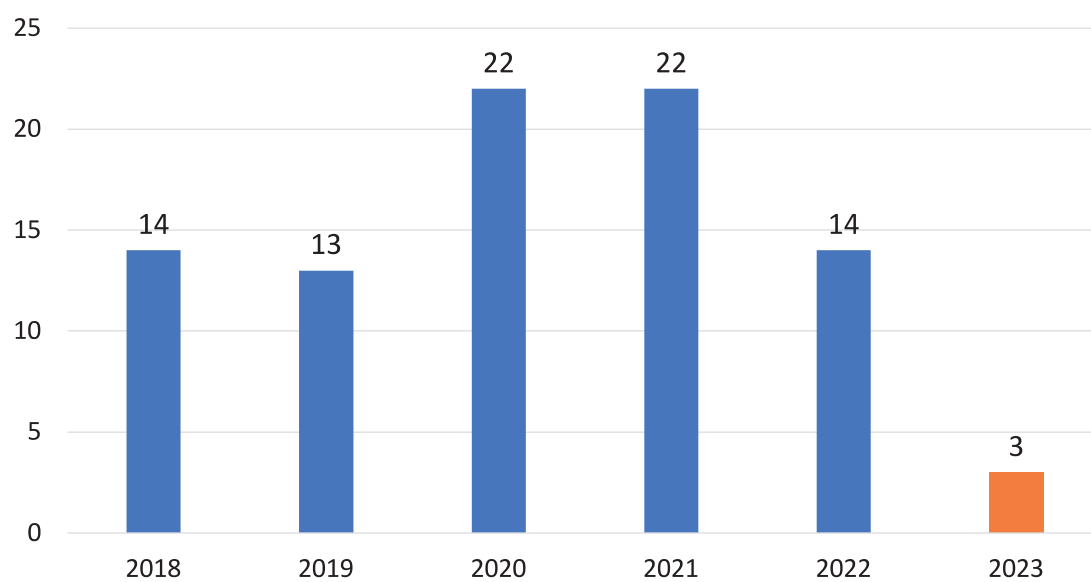
人工心肺手術



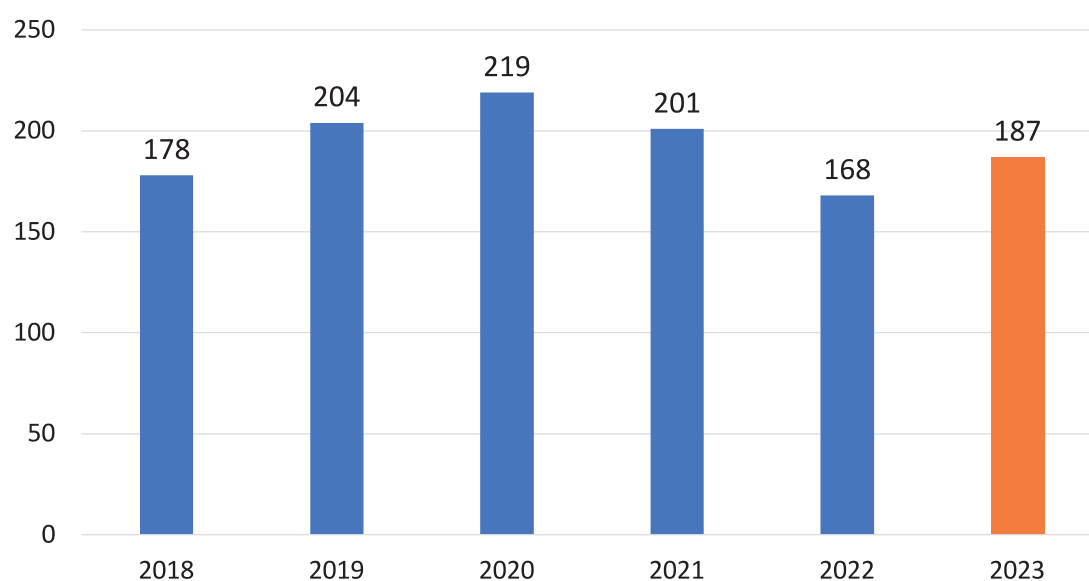
EVAR



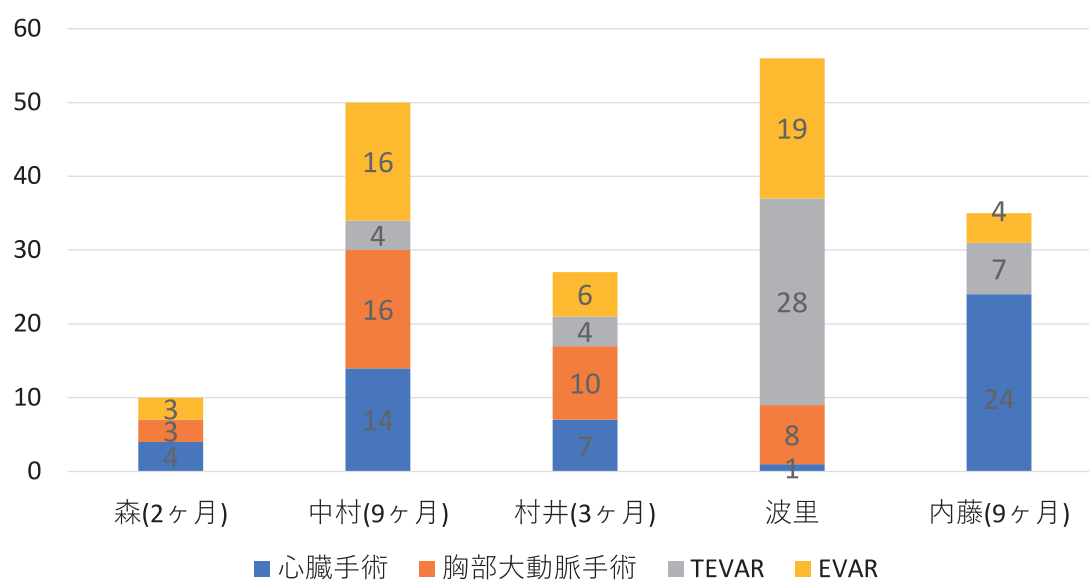
末梢動脈再建手術



心臓血管外科専門医更新要件手術



主要手術・術者別件数



手術死亡

- 心臓胸部大動脈手術(TEVARを含む) 4/131 (3.1%)
 - 緊急手術 3例
 - 心室中隔穿孔修復(術前IABP+PCPS)
 - 下肢灌流異常を伴う急性A型解離に対する上行置換→下肢コンパートメント症候群→筋膜切開(整形外科医)→大量出血
 - TEVAR(2年前)術後の大動脈-食道瘻に対する再TEVAR→2日後食道抜去→敗血症性ショック→PCPS
 - 待機手術 1例
 - 急性A型解離に対する上行置換(10年前)術後の弓部真性瘤に対する再手術オープンステント併用弓部置換(JapanSCORE 10.7%)→PCPSでCPB離脱
- 腹部大動脈手術(EVARを含む) 3/51 (5.9%)
 - 緊急手術 2例
 - 腹部大動脈瘤破裂に対するEVAR (術前pH 7.1, Hb 5.0)
 - 腹部大動脈瘤破裂に対するEVAR→ベッド移動時破裂
 - 待機手術 1例
 - EVAR(外腸骨動脈穿孔で施行せず)→残存動脈瘤破裂

2024年目標

- 心臓胸部大動脈手術 131→150
 - 人工心肺手術 88→100
 - 心臓手術 51→60
 - 胸部大動脈手術 37→40
 - TEVAR 43→50
- EVAR 48→50
- 心臓血管外科専門医更新要件手術 187→200
- 2025～2026年ロボット手術施設認定に向けて
 - 人工心肺手術 88→100
 - MICS 4→10

近況報告

静岡医療センター 心臓血管外科部長

高木 寿人

昨年 2023 年 3 月で村井佑太先生が退職（同 4 月に相模原協同病院へ赴任）、同 4 月に中村優飛先生が NTT 東日本関東病院から赴任、ニューヨーク大学ランゴン病院に勤務していた内藤敬嗣先生が帰国し、心臓血管外科振興会に入会（入局）の上で同 4 月に赴任、当院外科での研修を終えた森 久弥先生が同 11 月に当科に配属されました。現在は私（高木）・内藤先生・（2018 年 4 月に赴任した）波里陽介先生・中村先生・森先生の 5 人で診療に当たっていますが、本年 2024 年 3 月で中村先生が退職（同 4 月に関東労災病院へ赴任）し、同 4 月以降は 4 人体制となる予定です。多くの振興会員（医局員）を派遣して頂いていることに、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

一昨年 2022 年は COVID-19 クラスターの複数回発生のため手術件数が減少してしまい、ご心配をおかけしましたが、上記のように昨年 2023 年は 2021 年以前とほぼ同じまでに回復しました。本年 2024 年 1 月 20 日の相模心臓血管外科懇話会でも提示しましたので、詳細は省略させていただきます。特記すべきこととしては、卒後わずか 4 年目の森先生が大動脈弁置換後再手術（AAE 合併急性解離の破裂に対する）基部置換という（術中上行後壁の破裂部から大出血を来した）難手術を、中村先生がわずか 1 年間の勤務で（上行置換後再手術基部弓部置換というこれまた超難手術を含む）弓部置換 8 件を、それぞれ立派に執刀しました。またハイブリッド手術室竣工は本年 12 月の予定で、当院でも TAVI が開始できることになります。私も定年まで残すところわずか 3 年となりましたので、今後は内藤・波里両先生の「二枚看板」で頑張っていこうと思っています。

2023 年の論文発表（誌上掲載・オンライン掲載・印刷中を含む）は 47 編で、筆頭著者論文は高木 1 編・内藤 3 編・波里 3 編（和文）、共著論文は高木 40 編でした。現在、内藤先生の英文原著論文 3 編、波里先生の英文原著論文 1 編・和文症例報告 1 編、森先生の和文症例報告 4 編が投稿中です。後輩諸君が多くの論文を執筆・投稿してくれ、それをほんの少しですが手助けできたことを、望外の幸せと喜んでいます。

最後になりましたが、心臓血管外科振興会（同門）の皆様方には、今後とも当科の運営に対するご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023 年業績

<和文論文>

1. 波里陽介、内藤敬嗣、中村優飛、森 久弥、高木寿人。

心外膜から発生し心タンポナーデを合併した原発性心膜滑膜肉腫の 1 例。

日心臓血管外会誌。印刷中。

2. 波里陽介、内藤敬嗣、中村優飛、森 久弥、高木寿人。

外腸骨動脈破裂を合併した A 型急性大動脈解離。

日心臓血管外会誌。印刷中。

3. 波里陽介、内藤敬嗣、中村優飛、森 久弥、高木寿人。

偽腔開存型逆行性 A 型急性大動脈解離に対してステントグラフト内挿術が有効であった 1 例.
日心臓血管外会誌. 印刷中.

<英文論文>

4. Naito N, Takagi H
Meta-analysis of Central and Peripheral Cannulation for Type A Aortic Dissection.
Perfusion. In press. <2022 IF: 1.2>
5. Naito N, Takagi H.
Meta-analysis: Bilateral and Unilateral Cerebral Perfusion in Type A Dissection.
Thorac Cardiovasc Surg. In press. doi: 10.1055/s-0044-1779263. <2022 IF: 1.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38290540/>
6. Naito N, Shigemura N.
Artificial Lungs for Lung Failure in the Era of COVID-19 Pandemic: Contemporary Review.
Transplantation. 2023 Jun 1;107(6):1278-1285. <2022 IF: 6.2>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37046381/>
7. Takagi H.
Air aortogram.
J Vasc Surg. 2023 Nov 11. doi: 10.1016/j.jvs.2023.11.006. <2022 IF: 4.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37952780/>
8. Fukuhara S, Shimoda T, Yokoyama Y, Takagi H, Kuno T.
Treatment Strategies and Outcomes following Acute Type A Aortic Dissection Repair in Patients with Bicuspid and Tricuspid Aortic Valves: Meta-Analysis.
JTCVS Open. In press. <2022 IF: none>
9. Kani R, Watanabe A, Miyamoto Y, Ejiri K, Iwagami M, Takagi H, Slipczuk L, Tsugawa Y, Aikawa T, Kuno T.
Comparison of Effectiveness Among Different Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitors According to Underlying Conditions: A Network Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials.
J Am Heart Assoc. In press. doi: 10.1161/JAHA.123.031805. <2022 IF: 5.4>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38293914/>
10. Saito T, Kuno T, Ueyama HA, Kampaktsis PN, Kolte D, Misumida N, Takagi H, Aikawa T, Latib A.
Transcatheter edge-to-edge mitral valve repair for mitral regurgitation in patients with cardiogenic shock: A systematic review and meta-analysis.
Catheter Cardiovasc Interv. 2023 Dec 29. doi: 10.1002/ccd.30944. <2022 IF: 2.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38156508/>
11. Kuno T, Kiyohara Y, Maehara A, Ueyama HA, Kampaktsis PN, Takagi H, Mehran R, Stone GW, Bhatt DL, Mintz GS, Bangalore S.
Comparison of Intravascular Imaging, Functional, or Angiographically Guided Coronary Intervention.
J Am Coll Cardiol. 2023 Dec 5;82(23):2167-2176. <2022 IF: 24.0>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37995152/>
12. Shimamura J, Takemoto S, Fukuhara S, Miyamoto Y, Yokoyama Y, Takagi H, Kampaktsis PN, Kolte D, Grubb KJ, Kuno T, Latib A.
Long-term outcomes after transcatheter aortic valve replacement: Meta-analysis of Kaplan-Meier-derived data.
Catheter Cardiovasc Interv. 2023 Dec;102(7):1291-1300. <2022 IF: 2.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37890015/>
13. Shimamura J, Miyamoto Y, Hibino M, Fukuhara S, Takayama H, Itagaki S, Takagi H, Kuno T.
Long-Term Outcomes After Hybrid Coronary Revascularization Versus Coronary Artery Bypass Grafting: Meta-Analysis of Kaplan-Meier-Derived Data.
Am J Cardiol. 2023 Nov 24. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.11.026. <2022 IF: 2.8>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38008347/>
14. Kiyohara Y, Aikawa T, Kayanuma K, Takagi H, Kampaktsis PN, Wiley J, Kuno T.
Comparison of Clinical Outcomes Among Various Percutaneous Coronary Intervention Strategies for Small Coronary Artery Disease.

- Am J Cardiol.* 2023 Nov 19. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.11.043. <2022 IF: 2.8>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37984638/>
15. Horiuchi K, Kuno T, **Takagi H**, Egorova NN, Afezoli D.
Predictive value of the G8 screening tool for postoperative complications in older adults undergoing cancer surgery: A systematic review and meta-analysis.
J Geriatr Oncol. 2023 Nov 6. doi: 10.1016/j.jgo.2023.101656. <2022 IF: 3.0>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37940482/>
16. Ishisaka Y, Watanabe A, **Takagi H**, Steiger D, Kuno T.
Anticoagulation in chronic thromboembolic pulmonary hypertension: A systematic review and meta-analysis.
Thromb Res. 2023 Nov;231:91-98. <2022 IF: 7.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37839150/>
17. Fujisaki T, Kuno T, Iwagami M, Miyamoto Y, **Takagi H**, Deharo P, Cuisset T, Briasoulis A, Panaich S, Latib A, Kohsaka S.
Net clinical benefit of dual antiplatelet therapy in elderly patients with acute coronary syndrome: A systematic review and meta-analysis.
Catheter Cardiovasc Interv. 2023 Nov;102(5):788-802. <2022 IF: 2.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37675959/>
18. Yasuhara J, Watanabe K, Watanabe A, Shirasu T, Matsuzaki Y, Watanabe H, **Takagi H**, Sumitomo N, Kuno T.
Pulmonary vasodilator therapies in pulmonary arterial hypertension associated with CHD: a systematic review and network meta-analysis.
Cardiol Young. 2023 Nov;33(11):2297-2311. <2022 IF: 1.0>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36721907/>
19. Kiyohara Y, Kishino Y, Ueyama HA, Takahashi T, Kobayashi Y, **Takagi H**, Wiley J, Kuno T.
Comparison among various physiology and angiography-guided strategies for deferring percutaneous coronary intervention: A network meta-analysis.
Cardiovasc Revasc Med. 2023 Oct 23. doi: 10.1016/j.carrev.2023.10.015. <2022 IF: 1.7>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37891055/>
20. Saito T, Fujisaki T, Aikawa T, Kampaktsis PN, Malik A, Briasoulis A, **Takagi H**, Wiley J, Slipczuk L, Kuno T.
Strategy of dual antiplatelet therapy for patients with ST-elevation myocardial infarction and non-ST-elevation acute coronary syndromes: A systematic review and network meta-analysis.
Int J Cardiol. 2023 Oct 15;389:131157. <2022 IF: 3.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37433404/>
21. Hamada S, Ueyama H, Aikawa T, Kampaktsis PN, Misumida N, **Takagi H**, Kuno T, Latib A.
Outcomes of transcatheter edge-to-edge repair for atrial functional mitral regurgitation: A meta-analysis of observational studies.
Catheter Cardiovasc Interv. 2023 Oct;102(4):751-760. <2022 IF: 2.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37579199/>
22. Tsukagoshi J, Yokoyama Y, Fujisaki T, **Takagi H**, Shirasu T, Kuno T.
Systematic review and meta-analysis of the treatment strategies for coronary artery bypass graft patients with concomitant carotid artery atherosclerotic disease.
J Vasc Surg. 2023 Oct;78(4):1083-1094.e8. <2022 IF: 4.3>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37257673/>
23. Yokoyama Y, Sakata T, Mikami T, Misumida N, Scotti A, **Takagi H**, Sugiura T, Kuno T, Latib A.
Vascular access for transcatheter aortic valve replacement: A network meta-analysis.
J Cardiol. 2023 Oct;82(4):227-233. <2022 IF: 2.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37116649/>
24. Shimamura J, Fukuhara S, Yokoyama Y, **Takagi H**, Ouzounian M, Kuno T.
Systematic review and meta-analysis of time-to-event long-term outcomes following the Ross procedure.
J Thorac Dis. 2023 Sep 28;15(9):4693-4702. <2022 IF: 2.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37868903/>
25. Ishisaka Y, Watanabe A, Aikawa T, Kanaoka K, **Takagi H**, Wiley J, Yasuhara J, Kuno T.
Overview of SARS-CoV-2 infection and vaccine associated myocarditis compared to non-COVID-19-associated

myocarditis: A systematic review and meta-analysis.

Int J Cardiol. 2023 Sep 28. doi: 10.1016/j.ijcard.2023.131401. <2022 IF: 3.5>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37774926/>

26. Tsukagoshi J, Shimoda T, Yokoyama Y, Secemsky EA, Shirasu T, Nakama T, Jujo K, Wiley J, **Takagi H**, Aikawa T, Kuno T.

The mid-term effect of intravascular ultrasound on endovascular interventions for lower extremity peripheral arterial disease: a systematic review and meta-analysis.

J Vasc Surg. 2023 Sep 9. doi: 10.1016/j.jvs.2023.08.128. <2022 IF: 4.3>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37678642/>

27. Kuno T, Watanabe A, Shoji S, Fujisaki T, Ueyama H, **Takagi H**, Deharo P, Cuisset T, Bangalore S, Mehran R, Stone GW, Kohsaka S, Bhatt DL.

Short-Term DAPT and DAPT De-Escalation Strategies for Patients With Acute Coronary Syndromes: A Systematic Review and Network Meta-Analysis.

Circ Cardiovasc Interv. 2023 Sep;16(9):e013242. <2022 IF: 5.6>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37609850/>

28. Ishisaka Y, Watanabe A, **Takagi H**, Takayama H, Wiley J, Kuno T.

Use of Perioperative Extracorporeal Membranous Oxygenation in Pulmonary Endarterectomy Cases: A Systematic Review and Meta-Analysis.

J Intensive Care Med. 2023 Sep;38(9):785-796. <2022 IF: 3.1>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37226426/>

29. Suzuki Y, Zhou S, Ota Y, Harrington M, Miyagi E, **Takagi H**, Kuno T, Wright JD.

Toxicity profiles of antibody drug conjugates for anticancer treatment: a systematic review and meta-analysis.

JNCI Cancer Spectr. 2023 Aug 31;7(5):pkad069. <2022 IF: 4.4>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37756687/>

30. Shoji S, Kuno T, Ueyama H, **Takagi H**, Briasoulis A, Kim HS, Koo BK, Kang J, Watanabe H, Kimura T, Kohsaka S.

Preferred monotherapy after short-term dual antiplatelet therapy: Systematic review and network meta-analysis of randomized trials.

J Cardiol. 2023 Aug 9. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.08.001. <2022 IF: 2.5>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37562542/>

31. Shirasu T, **Takagi H**, Yasuhara J, Kuno T, Kent KC, Farivar BS, Tracci MC, Clouse WD.

Long-Term Outcomes of Exercise Therapy Versus Revascularization in Patients With Intermittent Claudication.

Ann Surg. 2023 Aug 1;278(2):172-178. <2022 IF: 9.0>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36728522/>

32. Yokoyama Y, Fukuhara S, **Takagi H**, Kuno T.

Natural history of moderate aortic stenosis and predictors for mortality: Systematic review and meta-analysis.

J Cardiol. 2023 Jul;82(1):1-7. <2022 IF: 2.5>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36963660/>

33. Yokoyama Y, Kuno T, **Takagi H**, Burfeind W.

Choice of intrapleural fibrinolytic agents in the treatment of adult complicated parapneumonic effusion and empyema: Network meta-analysis.

Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2023 Jun;31(5):451-458. <2022 IF: 0.7>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37287257/>

34. Yokoyama Y, Briasoulis A, Ueyama H, Mori M, Iwagami M, Misumida N, **Takagi H**, Kuno T.

Direct oral anticoagulants versus vitamin K antagonists in patients with atrial fibrillation and bioprosthetic valves: A meta-analysis.

J Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Jun;165(6):2052-2059.e4. <2022 IF: 6.0>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/34417050/>

35. Yokoyama Y, Shimoda T, Sloan B, **Takagi H**, Fukuhara S, Kuno T.

Meta-analysis of phase-specific survival after transcatheter versus surgical aortic valve replacement from randomized control trials.

J Thorac Cardiovasc Surg. 2023 May 5. doi: 10.1016/j.jtcvs.2023.04.041. <2022 IF: 6.0>

- <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37149212/>
36. Fujisaki T, Kuno T, Briassoulis A, Misumida N, **Takagi H**, Latib A.
P2Y12 Inhibitors for Non-ST-Segment Elevation Acute Coronary Syndrome: A Systematic Review and Network Meta-Analysis.
Tex Heart Inst J. 2023 May 1;50(3):e227916. <2022 IF: 0.9>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37302149/>
37. Watanabe A, Yasuhara J, Karube T, Watanabe K, Shirasu T, **Takagi H**, Sumitomo N, Lee S, Kuno T.
Extracorporeal Membrane Oxygenation in Children With COVID-19: A Systematic Review and Meta-Analysis.
Pediatr Crit Care Med. 2023 May 1;24(5):406-416. <2022 IF: 4.1>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36516348/>
38. Watanabe A, Kani R, Iwagami M, **Takagi H**, Yasuhara J, Kuno T.
Assessment of Efficacy and Safety of mRNA COVID-19 Vaccines in Children Aged 5 to 11 Years: A Systematic Review and Meta-analysis.
JAMA Pediatr. 2023 Apr 1;177(4):384-394. <2022 IF: 26.1>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36689319/>
39. Yokoyama Y, Sakurai Y, Kuno T, **Takagi H**, Fukuhara S.
Externally mounted versus internally mounted leaflet aortic bovine pericardial bioprosthesis: meta-analysis.
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Apr;71(4):207-215. <2022 IF: 1.2>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36598643/>
40. Yasuhara J, Masuda K, Watanabe K, Shirasu T, **Takagi H**, Sumitomo N, Lee S, Kuno T.
Longitudinal Cardiac Outcomes of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children: A Systematic Review and Meta-Analysis.
Pediatr Cardiol. 2023 Apr;44(4):892-907. <2022 IF: 1.6>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36416893/>
41. Watanabe A, Iwagami M, Yasuhara J, **Takagi H**, Kuno T.
Protective effect of COVID-19 vaccination against long COVID syndrome: A systematic review and meta-analysis.
Vaccine. 2023 Mar 10;41(11):1783-1790. <2022 IF: 5.5>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36774332/>
42. Ueyama H, Kuno T, **Takagi H**, Krishnamoorthy P, Prandi FR, Palazzuoli A, Sharma SK, Kini A, Lerakis S.
Prognostic value of left ventricular global longitudinal strain in mitral regurgitation: a systematic review.
Heart Fail Rev. 2023 Mar;28(2):465-483. <2022 IF: 4.6>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35900680/>
43. Obata S, Miyamoto Y, Slipczuk L, **Takagi H**, Kuno T.
Effects of glucagon-like peptide-1 receptor agonists on patients with heart failure: a meta-analysis of randomized controlled trials.
J Cardiovasc Med (Hagerstown). 2023 Feb 1;24(2):132-137. <2022 IF: 3.0>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36583981/>
44. Matsumoto S, Kuno T, Mikami T, **Takagi H**, Ikeda T, Briassoulis A, Bortnick AE, Sims D, Katz JN, Jentzer J, Bangalore S, Alviar CL.
Effect of cooling methods and target temperature on outcomes in comatose patients resuscitated from cardiac arrest: Systematic review and network meta-analysis of randomized trials.
Am Heart J. 2023 Feb;256:73-84. <2022 IF: 4.8>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36372248/>
45. Yokoyama Y, Tsukagoshi J, Hamlin S, **Takagi H**, Kuno T, Takayama H.
Endovascular therapy for Stanford B aortic dissection for patients with Marfan Syndrome: systematic review and meta-analysis.
J Cardiovasc Surg (Torino). 2023 Feb;64(1):41-47. <2022 IF: 1.4>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36239929/>
46. Yokoyama Y, Kuno T, Toyoda N, Fujisaki T, **Takagi H**, Itagaki S, Ibrahim M, Ouzounian M, El-Hamamsy I, Fukuhara S.
Ross Procedure Versus Mechanical Versus Bioprosthetic Aortic Valve Replacement: A Network Meta-Analysis.
J Am Heart Assoc. 2023 Jan 3;12(1):e8066. <2022 IF: 5.4>

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36565200/>

47. Yasuhara J, Masuda K, Aikawa T, Shirasu T, **Takagi H**, Lee S, Kuno T.
Myopericarditis After COVID-19 mRNA Vaccination Among Adolescents and Young Adults: A Systematic Review and Meta-analysis.
JAMA Pediatr. 2023 Jan 1;177(1):42-52. <2022 IF: 26.1>
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36469338/>

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター 心臓血管外科 医長
内藤 敬嗣

近況報告

2023年4月から静岡医療センターに赴任しました。久しぶりの日本での勤務ということで不安もありましたが、高木部長、波里先生を始め皆さんに支えられてなんとかやっています。ニューヨークで新型コロナウイルス感染症が始まった際に家族が帰国したので、約3年ぶりに家族と住んで私生活も充実しています。

2024年度は更に開心術症例数を増やすことを目標とし、TAVRの導入、将来的なロボット手術の導入に向けた準備をしていきます。至らないことも多々あると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター 心臓血管外科 医長
波里 陽介

近況報告

静岡県に来てから早6年が経ちました。ついに40歳になりました。薄暗いところだと小さい字が読みづらくなってきました…。明るくないと子供の学校の集合写真の顔識別が難しいです。

2023年になり covid-19 の影響も緩和され、徐々に日常生活が戻ってきた年でした。静岡県は観光地でもあり、少しずつ賑わいが出てきました。休日の御殿場・沼津港など大賑わいです。毎年目標に掲げていますが、そろそろ富士山登頂を目指します。静岡県に転居してきた時、1歳だった次男が年長さんまで大きくなりました。

2023年3月まで村井先生と一緒に頑張ってくれました。血管大好き村井先生はとても働き者でバリバリ頑張ってくれました。せっかく静岡に来てもらったので、たくさん執刀してもらい、協同病院へ旅立ちました。

そして、4月から内藤先生、中村先生が赴任されました。NYからスーパースター内藤先生が赴任し、心臓症例の紹介も増え、病院も盛り上がっております。You tube 撮影もしていただき、さらに症例を増やすように頑張りたいと思います。ムードメーカー中村先生も頑張ってくれました。おっちょこちょいなところはありますが、頑張り屋さんで仕事に真面目に向き合ってくれます。せっかく静岡に来て

もらったので、たくさん術者を経験していただきたいと思っています。そして、11月から外科出向を終えた森先生が参戦しました。2024年も当院で頑張ってくれるので森先生にもたくさん術者を執刀していただきたいと思っています

毎年感じるのですが、とても素晴らしい上司の先生・後輩・環境に囲まれて働いております。2024年の課題としては昨年度同様に症例数を増やしていきたいと考えております。ハイブリッド手術室の設置が決定いたし、そろそろ具体的に話が進みそうです。2024年も高木先生・内藤先生・森先生、一致団結してみんなで静岡医療センターを盛り上げていきます。

充実した日々を送れているのは指導してくださる諸先生方のおかげであり、心より感謝申し上げます。まだまだ未熟であり、様々な場面でご迷惑をおかけしますが今後とも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター 心臓血管外科 医員
中村 優飛

近況報告

2023年4月は土日から始まりました。4月2日に波里先生にお花見にお誘い頂きました。日向は暖かかったですが、日が陰るとまだちょっと肌寒い季節でした。会場を公園から国道沿いの焼き鳥チェーンに移り、波里先生がメガハイボールを飲みだすタイミングで一緒に会に参加していたICUのナースの一人が、もうその状態の波里先生には記憶がないと教えてくれました。まさかと思いました。翌日確認すると本当に覚えていなくて当時は驚きました。今は僕も記憶がない時がわかるようになりました。内藤先生は入職者説明会の時に名札で内藤先生だと気づきましたが、スーツを着ていて少し怖そうでしたので、波里先生と合流するまで気づかないふりをしていました。申し訳ありませんでした。内藤先生とは森君と3人で心臓外科ラーメン部をつくり、内藤先生が部長をされています。森君は奥さんに隠れてラーメンを食べに行ったことが2度バレて怒られてしまいました。部活優先なので仕方ない側面もあります。静岡医療センターは沼津と三島の間くらいにあり、沼津のほうがやや近い。食事会などはそちらで開かれることが多いです。沼津あたりはララポートやドンキ・ホーテなどがあり買い物には基本的に困りません。また、長く暮らされている波里先生や研修医として勤務していた森君がお店を教えてください。森君の髪型をマネしたくて何をモデルにしたか教えてもらった。韓国ドラマの「梨泰院クラス」の主人公でした。僕の行きつけの美容院は波里家の行きつけの美容院なのでそこで森君の髪型にしてもらっています。また、森君は眼鏡をいくつも持っており、沼津にある森君の行きつけの眼鏡専門店で森君に選んでもらって眼鏡を新調しました。服も沼津のララポートで森君夫妻に選んでもらいました。ゆるめのシルエットが良いようです。内藤先生も森君の眼鏡屋さんで眼鏡を新調されるようです。静岡医療センターで過ごした1年で多くの手術をご指導いただきました。何度も男にいただきました。高木先生をはじめとして、波里先生、内藤先生、森君には僕が人生でこんなに素晴らしい時間を（病院の中でも外でも）頂いて、とても感謝をしております。今の僕はアグモンです。デヤァ。

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター 心臓血管外科 医員
森 久弥

外科ローテーションを終えて、心臓血管外科へ

2022 年より入局し、本年度 4 月より入局 3 年目を迎えようとしております。

入局 1 年目は北里大学で 1 年間、多くの先生方にご指導頂きながら心臓血管外科手術に携わることが出来ました。入局初期はなかなか仕事に慣れずご迷惑ばかりお掛けしていましたが、荒記先生、田村先生、松井先生、大西先生に支えていただき、早く自分も先生方の様に仕事をこなせるようになりたいと思っていたのを鮮明に覚えています。大学病院を離れた今でも時折、親切にもご連絡頂き、喜ばしく思います。

入局 2 年目は、初期臨床研修病院でもある静岡医療センターへ外科出向させて頂きました（4 月～10 月）。静岡医療センターの外科は後期レジデントの先生方も多く、臨床面でも学術面でも非常に多くの刺激をもらいました。また、手術では癒着剥離の熱いご指導がとても印象に残っております。6 か月間、温かく迎えて頂き、ご指導頂きました外科の先生方に感謝申し上げます。北里大学心臓血管外科も入局者が多く、自分たちも負けていけないと感じました。

2023 年 11 月から高木先生・内藤先生・波里先生・中村先生の下で心臓血管外科医として、修練再開させて頂きました。大血管・弁膜症・狭心症・ステントグラフト・末梢動脈疾患とさまざまな手術に触れ、非常に多くの執刀・助手の機会をいただいております。また、高木先生より学術活動のご指導もいただいております。先生方に感謝申し上げます。大学病院を離れても年 2 回の懇親会や Off-the-job トレーニング、納涼会などで多くのご指導いただいた先生方とお会いでき、充実した 1 年間を過ごすことが出来ました。本年度の目標は普段の臨床面に加えて、継続した学術活動を行う様、努力して参ります。まだまだ未熟者ではありますが、医局員の先生方を含め、関係者皆さまに感謝申し上げます。

最後に私事ではありますが、2023 年 12 月吉日に入籍いたしました。クリスマス会でご報告させて頂きましたが、この場を借りてご報告いたします。今度とも引き続きご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

10. 社会医療法人北斗 北斗病院



2023 年手術成績

総括

2023 年 4 月から井上信幸先生と交代で、山本が赴任し、新しい体制となりました。2022 年と比較すると、手術症例数は減少しており、私の力不足が露呈しました。

2023 年初めにコロナによる入院制限や部長交代に伴う空白時期があったことも多少影響したかもしれませんが、何よりも患者数が増えない状況が一番問題でした。当院は、二次救急の当番病院に割り当てられていません。そのためか、救急隊の方々と話をすると、緊急の心臓カテーテル検査や心臓手術ができないと認識されている人が多いことがわかりました。また、当院に心臓外科が立ち上がる前から、心臓手術を行っていた帯広厚生病院や国立帯広病院の知名度が住民の間では高く、また、開業されている先生方もそのどちらかの病院出身の先生が多いため、手術するならそのどちらかの病院でという傾向が強い状況でした。2023 年の 8 ヶ月で取り組んだことは、開業医の先生や十勝管内のすべての消防署に挨拶に行くのはもちろん、救急隊の症例検討会を各署まで赴いて行ったり、住民向けの教育講演をして、当院の活動を知ってもらうようにしました。また、手術に結びつかない患者様でも一切断ることなく受入れをしてきました。2023 年 6 月からホットライン運用し、循環器内科と一緒に心血管・不整脈センターとして、初診外来を行っています。様々な活動をこれからも行って、北斗病院の認知度をあげていき、それが当科の手術増加に繋がるようにしていきたいと思います。

2023 年の手術内容

虚血性心疾患

冠動脈バイパス術 5 例（2 例 on-pump beating、その他は on pump arrest）

弁膜症疾患

大動脈弁置換術 3 例

僧帽弁形成術 2 例

大動脈疾患

上行大動脈人工血管置換術 2 例（すべて急性解離）

弓部大動脈人工血管置換術 1 例

その他

左房内血栓除去術、左心耳閉鎖術 1 例

腹部・末梢血管

EVAR 4 例

腹部大動脈人工血管置換術 5 例（腎動脈上遮断 2 例）

上腸間膜動脈瘤切除術 1 例

腸骨動脈瘤手術 1 例

大腿動脈内膜剥離、パッチ形成術 3 例

FP バイパス術 1 例

下肢血栓除去術	2 例
シャント造設術	18 例
シャント関連手術	6 例
透析カテーテル関連手術	3 例
仮性動脈瘤手術	2 例
下肢静脈瘤手術	48 例
その他（カテーテル室での手技）	
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	30 例
四肢の血管拡張術・血栓除去術	31 例
その他	
ペースメーカー交換術	3 例
CRTP upgrade	1 例
創部処置	2 例
閉胸術	1 例

近況報告

社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科
山本 信行

はじめての雪国での冬

今まで、東京・神奈川を離れたことのない私にとって、今回の異動は正直不安よりも興味の方が強かったです。実際に帯広に来てみると、食事はどれも美味しく、暑がりの私にとって夏は快適な気候でした。冬は大変だと聞いていましたが、今年は積雪が例年よりも少なかったようで、雪道で困難を感じたこともありませんでした。寒さも思った以上に耐性があったのか、地元の人が寒いと感じるときでも、結構平気で、逆にびっくりされるぐらいでした。車社会の帯広において、ペーパー歴 30 年で車がない私は、生活できるのかと周りの人に言われていました。しかし、ネットスーパーを活用したり、徒歩とバスを駆使すればどうにかなることもわかり、このまま、車のない生活をしていこうと思っています。

「住めば都」といわれるように、その土地の風習や文化、環境に溶けこんでいけば、快適な暮らしはできるものだなと実感した一年でした。あとは、健康にだけ気をつけて、仕事に没頭した生活をしていこうと思います。

北里大学心臓血管外科助教（病棟医）

社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科

大友 勇樹

早いもので医師になってからあっという間に 11 年が経ちました。

昨年 1 年間も北海道帯広市の北斗病院で働かせていただきました。北斗病院は 2 回目なので合計すると 4 年 6 か月と今まで勤務した病院の中で最長を更新しています。

この 1 年は新しく山本先生に部長としてお越しいただき、ご厚意でしばしば開心術の執刀や多数の血管外科手術の執刀機会をいただくことができました。特に今年はほとんどの CABG 症例をはじめ、下肢 BK バイパス等を執刀させていただき、大好きなバイパスづくしの一年でした。ご指導を賜りました先生方には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

プライベートではおかげさまで今年 6 月によりやく結婚式を行うことができました。足元が悪い中でご出席いただき、改めて感謝申し上げます。打ち合わせのたびに帯広と東京を往復するのは大変でしたが、たまにそうやって関東の空気も吸えたことは良い気分転換になりました。結婚式やその準備、学会等に参加するため、帯広と羽田を何度も往復し、(ラスト少々修行しましたが・・・)とうとう JAL の上級会員となりラウンジのビールが飲み放題になりました。

そして大変大変ありがたいことに娘が誕生し父親になりました。一番頑張ってくれた妻への感謝はもちろん、たくさんのことを肩代わりしてくださった山本先生なしでは娘は生まれてくることができませんでした。元気に育ってほしいと思います。

また、先日医師国家試験に次いで人生 2 度目の国家試験に合格してようやく機長になれました。まだ自家用の単発エンジン機限定ですが。夏にマーク式の学科試験に合格した後、3 月に国交省航空局の試験官により 2 日間みっちり口頭試問と操縦をチェックされてかなりしんどい試験でした。全部合わせると個人的には医師国家試験よりきつかったです。大変な状況の中、ちよくちよく地に足のついていない私を暖かく見守ってくれた妻、山本先生、井上先生には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

ホンダジェットの機長になるにはさらに多発エンジンの限定解除と計器飛行証明の試験に合格しないといけませんのでまだまだ先は長いですが(笑)

遠いところに来ましたが、あいかわらず多くの方々に支えられて公私共々充実した日々を送らせていただいております。来年度も引き続き北斗病院でお世話になる予定です。

夫婦(+娘)共々引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

北里大学心臓血管外科助教（病棟医）

社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科

大友 有理恵

帯広での生活もあっという間に 3 年がたちました。3 年生活してみてもやはり大きく広がる青空や至る所に流れる小川などの自然に触れるたびに日々感動しています。そして冬はやっぱり寒いです。

はじめに、昨年はお忙しい中、多くの先生方に私たちの結婚式へご出席いただき本当にありがとうございました。終始緊張しておりましたが、先生方がたくさん盛り上げてくださり、本当に楽しい披露宴となりました。一生忘れない素敵な思い出となりました。

仕事面では今年度から山本先生が新しく部長となりました。山本先生は程よい距離感で私たちのことを見守ってくださり、手術手技についてもたくさんのことを教えてくださいました。また、仕事以外の時間についても大切にと言ってください、結婚式の準備もすべての打ち合わせを東京へ夫と2人で行くこともできました。本当にありがとうございました。

また、今年度一番の出来事として、念願の赤ちゃんを妊娠出産することができました。女の子です。悪阻の時期は夫に当直を代わってもらったり、終始夫にはたくさん心配をかけてしまいました。少し早めからお休みをいただいたため、山本先生にもたくさんご迷惑をおかけしてしまいました。無事出産までできたのも二人がたくさん助けて支えてくださったからだと思います。本当にありがとうございました。

今は眠気と疲労と無気力と時々女性ホルモンの変動と戦いながら日々を過ごしておりますが、今後自分の働き方についても考えていかないとと思っております。私は決して家事も育児も仕事もすべてを完璧にこなせるようなスーパーウーマンではありません。むしろその逆で、一つのことに専念したとしても人より時間がかかるどんくさい人間です。ただ、この科に入ると決めて、結婚出産をしたからには、少しでもこんなやり方があるんだよと今後後輩の先生方に参考にしてもらえるように自分なりに頑張っていくとと思っております。

2人体制になってしまうことで、山本先生、大友勇樹先生には本当にご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございません。また手術の際に来ていただいた先生方、今後來ていただく先生方にもお忙しい中での日程調整でご迷惑をおかけしてしまい本当に申し訳ございません。よろしくお願い致します。

自分でも今後どうなるかわかりませんが、血管と血管をつなぎたいという情熱はまだありますので、今年はい旦お仕事は休憩して育児に専念させていただこうと思います。今後ともよろしくお願い致します。



11. JA 神奈川厚生連 相模原協同病院



相模原協同病院 施設症例数

総数 429 症例

心臓外科

血管外科

開心術（OPCAB 症例含む）

TEVAR

EVAR

開心術＋TEVAR＋EVAR

90 症例（末梢血管含む）

339 症例

48 症例（AVR 関連 15 症例）

11 症例

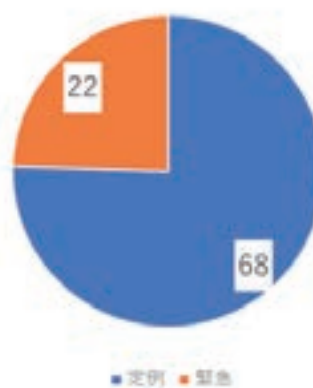
37 症例（心臓外科 7 症例）

96 症例（心臓外科 66 症例）

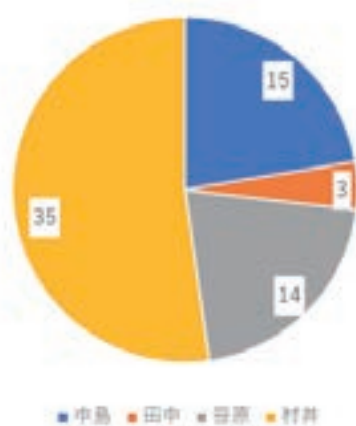
手術内容内訳



定例・緊急手術区分

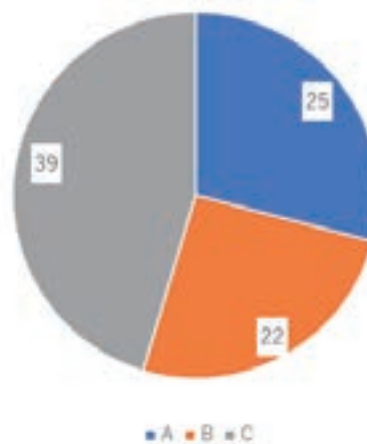


術者別手術件数

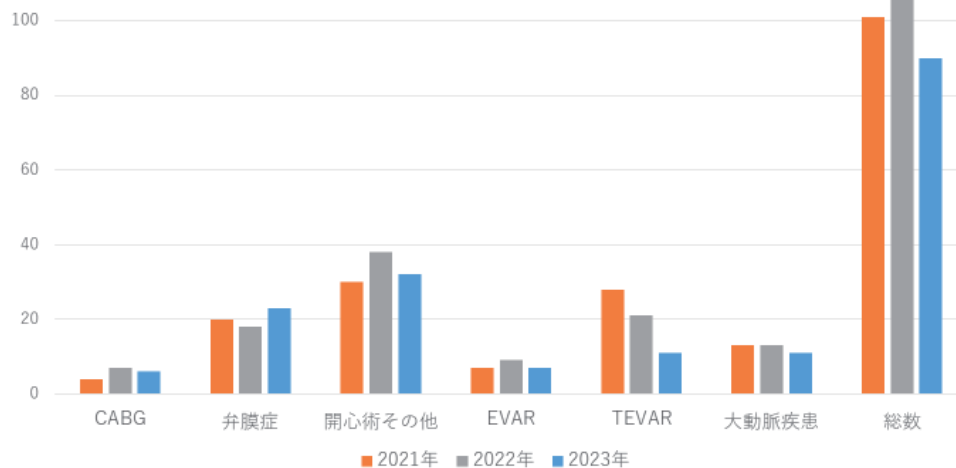


心臓外科専門医難易度別件数

ただし、末梢血管症例は含まず



手術内容内訳（心臓外科）



JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院 心臓外科部長 中島 光貴 近況報告

2023 年はコロナ感染症に対しては 5 月から行動規制が緩和された影響で社会活動が急激に活性化し、インバウンドも増えました。同時に日本の株式市場に至ってはバブル経済時期以上に株価が好調でした。しかし個人的には社会全体として浮足立っていた印象がしました。

当院は 2023 年になり、手術件数が伸び、病院全体の収入は過去最高となりましたが、全体の収支バランスはマイナスでした。このような状況から 2023 年 6 月から新院長として北里大学から渋谷明隆先生を院長に迎えて経営状態改善に乗り出しました。渋谷院長は病院経営学を学び MBA も所得しているためにその手腕を買われたと考えます。その影響は院内会議においてすぐに反映し、変化をもたらしています。当科としては 2022 年と比較し、全体の手術件数が減少しました。その主な原因は TEVAR 症例が前年に比べて約 50% 前後減少したためです。また 5 月から 10 月にかけて手術が減少した事も大きく影響しました。しかし良かった事もあります。それは大動脈弁関連手術件数が 15 例となり増加しました。目標としては 20 例以上で、TAVI 施設認定を獲得という事です。2024 年は更に精進していきます。また難易度の高い手術に関しては北村先生や高木先生に助けて頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

当科に携わる皆様には非常に助けて頂きました。特に 4 月から村井先生に来ていただき、手術もさることながら洗練された周術期管理が確立されました。また、ICU 及び病棟看護師とコミュニケーションを密にとっていただき、重症な患者さんも救命できたと思います。2023 年の当科の「外保連指数」と「複雑性指数」においては大学病院並みの「手術レベル」です。この状況下において DPC II 群内での入院期間達成率が 70% 前後と非常に高い水準を維持できたのは心臓外科医師以外の職員の努力が多分に影響していると考えます。この場を借りて皆様には感謝申し上げます。

2024 年は当科メンバーは変更しません。このため更なる安定した手術及び周術期管理を確立し、若い先生方が当院で仕事したいと希望して頂けるような組織作りを目指したいと考えます。個人的に

は院内委員会の仕事が多く、更に6月から渋谷院長体制となりTQM活動にも参加しています。この活動により他病院見学にも随行させて頂いています。年齢的に臨床だけすればよいとは言えなくなりつつありますが、どうか「二刀流（！？）」を維持したいと考えます。組織が衰退しないためにも常に「新しい取り組み」を継続して行う事は重要です。私たち自身も、そしてそれに携わるコメディカルの皆様にも常に「向上心」と「好奇心」が持てる心臓外科チームを作っていきたいと考えています。今年もよろしくお願いいたします。

手術目標

- 1) 開心術症例件数；50件以上／年
- 2) ハイブリッド手術室使用の血管内治療（TEVAR 及び EVAR 手術）件数；30件／年以上
- 3) 低侵襲僧帽弁手術（MICS-MVP）件数；3件／年以上

臨床全体として

- 1) DPC II群以内での退院比率；80%以上維持
- 2) 外保連指数；35点以上

相模原協同病院

北里大学医学部心臓血管外科学助教（病棟医）

村井 佑太

近況報告

2年ぶりに相模原に戻ってきました。相模原協同病院も2年ぶりです。手術部、集中治療部の方々も顔馴染みの方が多く、懐かしい気持ちでした。部長の中島先生にも支えられながら、手術を頑張っております。まだまだ頑張りたいと思います。

禁煙しました。食欲旺盛になり、静岡で15kg痩せたものが見事にリバウンドしました。顔も浮腫んでお腹も出ました。

少しでも痩せなきゃと思い、最近の流行りのサウナに行きました。いわゆる「サ活」です。整いましたが、全然痩せませんでした。

このままではいけないと思い、ジムに通い出しました。半年前に家の目の前にチョコザップができたのです。ジム通い続くか分からなかったので、チョコザップにしました。24時間開放しており、緊急手術で夜遅くに帰ってもチョコザップに行けます。少し痩せました。

やっぱり努力と継続が必要だな、と思いました。

今年の目標は痩せる、ではなく、いい身体になる、にします。

相模原協同病院 循環器センター 血管外科

田村 幸穂

相模原協同病院で4年間経ちました。最初にきた時は2020年4月でコロナ禍の中でその時はまだ橋本駅近くの旧病院であった。人も少なく渋滞はなく閑散としていたときだった。その後2021年1月から新病院へ移転となった。

業務としては

月：局所麻酔手術（レーザー焼灼術、内シャント造設術）

火：全身麻酔手術（ステントグラフト内挿術、バイパス術など）

水：外来

木：血管内治療（VAIVT、EVT、TAE など）

	2020	2021	2022	2023
Arteriovenous fistula (AVF)	20	55	66	72
Arteriovenous Graft (AVG)	7	1	0	1
Subcutaneously fixed surificial artery	1	0	0	0
Shunt Graft 抜去	0	0	5	1
VAIVT	84	126	108	133
EVAR	31	22	23	30
Open	3	2	0	1
Bypass	4	6	6	4
末梢動脈瘤	0	0	2	0
Endoarterectomy	2	10	2	5
血栓除去術	0	0	3	6
EVT	52	62	49	47
TAE	3	8	9	7
EVLA	17	16	12	9
CAC	0	0	4	14
硬化療法	0	0	3	0

アクセス関連の治療が増加傾向であり特に去年より腎臓内科のが AVF の術者を任せられるようにな

り特に症例が増加したと考えられた。シャント関連は今後も増加傾向になると思われるし高齢化が進めば EVAR 術後瘤拡大に対しても追加治療が増える可能性もある思われた。

12. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター



自治医科大学年間業績

手術数 127 例

- ・心臓血管外科専門医機構でカウント可能な手術 105 例
人工心肺使用症例 71 例
人工心肺非使用症例 34 例
- ・その他（ペースメーカー、二期的閉胸など）22 例

手術死亡 1 例 Asplenia, SV, CAVVR, Congenital AVB
病院死亡 1 例 TAPVC, critical PVO 術後

競争的資金獲得

金子 政弘 2023 年度日本心臓血管外科学会臨床研究助成 500,000 円

「胎児心エコーによる出生前診断が、娩出直後に外科的介入を要する最重症先天性心疾患の手術成績に及ぼす影響」

寄稿

岡 徳彦「先天性心疾患分野の 2022 年の進歩」

Volume 52, No.6, 455 – 456 (2023) 日本心臓血管外科学会雑誌

学会発表

- ・岡 徳彦

「左心低形成症候群に対する外科治療

肺動脈発育からみた右室肺動脈導管と体肺動脈短絡の比較検討」

第 76 回日本胸部外科学会 定期学術集会 一般口演

- ・友保 貴博

「肺動脈弁狭窄に対して PTPV 施行後右室流出路再建を行った 4 例の検討」

第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 ポスター

- ・金子 政弘

「体循環流出路閉塞性病変を有する先天性心疾患に対する両側肺動脈絞扼術の成績」

第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会 ミニオーラル

- ・松井 謙太

「体循環流出路閉塞性病変を有する複雑心奇形に対する両側肺動脈絞扼術の当院の成績」

第 76 回日本胸部外科学会 定期学術集会 ポスター

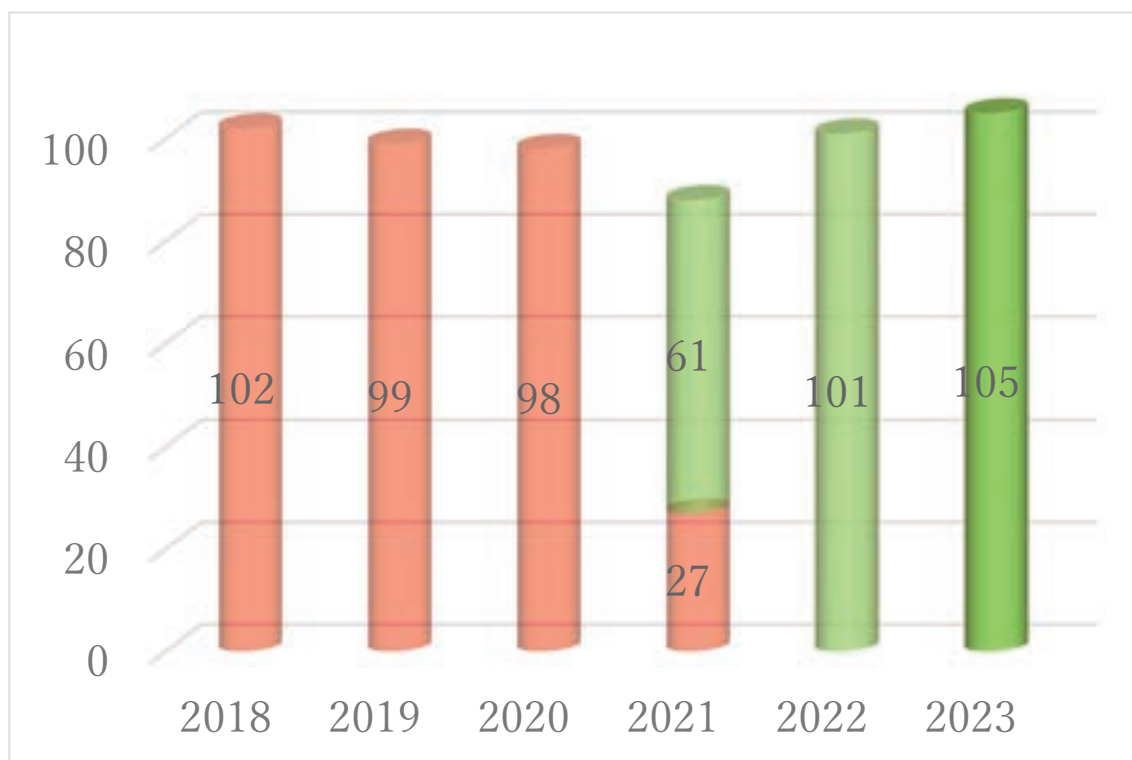
手術内訳

	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓使用	4		25	1	42	0	71	1
心房中隔欠損閉鎖術					5		5	
部分肺静脈還流異常症修復術					1		1	
ラステリ手術					2		2	
心室中隔欠損閉鎖術（含DCRV）			14		16		30	
ファロー四徴症修復術			1		1		2	
右室流出路形成術					1		1	
総肺静脈還流異常症	3		1				4	
僧帽弁置換術					1		1	
肺動脈弁置換術					2		2	
大動脈基部置換術					1		1	

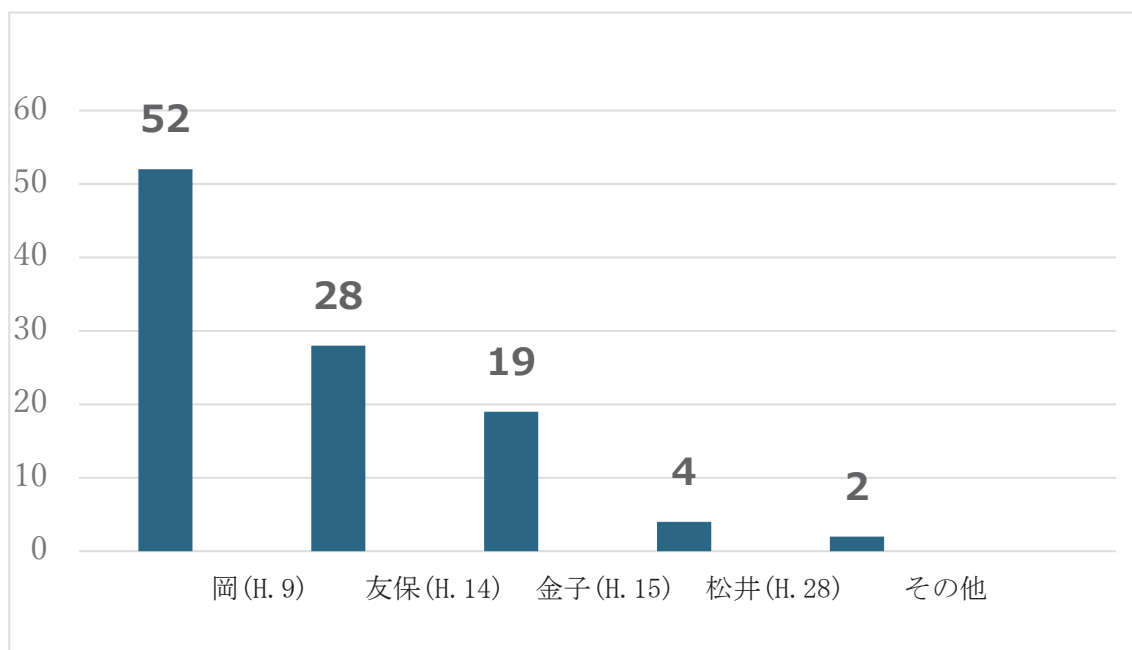
	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓使用	4		25	1	42	0	71	1
完全大血管転位症手術（+Arch repair）			1				1	
ノーウッド手術			2				2	
グレン手術			3	1	1		4	1
フォンタン手術					2		2	
大動脈縮窄修復術					1		1	
完全型房室中隔欠損症					1		1	
体肺動脈短絡手術（+PA plasty）	1		3		1		5	
肺動脈形成術					1		1	
導管交換術					2		2	
その他					3		3	

	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓非使用	8	0	11	0	15	0	34	0
動脈管閉鎖術	1		1				2	
肺動脈絞扼術・両側肺動脈絞扼術	7		8				15	
ECMO装着・離脱			1		3		4	
ECMO装着・離脱（非心臓術後）					10		10	
心臓切開術（非心臓術後）					1		1	
血栓除去術					1		1	
肺血流調整術			1				1	
その他	5	0	10	0	7	0	22	0
PMI					1		1	
二期的胸骨閉鎖・その他	5		10		6		21	

手術数推移



執刀数内訳



自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児・先天性心臓血管外科
教授 岡 徳彦
近況報告

自治医大に赴任して3年が経とうとしている。昨年は総手術数127例、心臓手術105例、人工心肺症例71例と増加し、手術数増加の目標は赴任以来3年連続で達成できている。残念ながら無脾症、単心室、先天性完全房室ブロックの症例をグレン術後に消化管出血で失った。3月中旬の本原稿執筆時点で自治医大赴任以来の心臓手術数は290例、手術死亡率は0.69%となっている。今年はなんとか手術死亡なく終えたいと思っている。私事といえば、単身赴任生活も9年目となった。その間週末の楽しみといえば横浜に帰宅し、子供たちのサッカーを観戦することであった。北里大学を離れ和歌山県立医大に赴任した頃、7歳だった長男は高校に入学し、5歳だった次男も中学2年生となった。次男は高校受験の準備のために所属していたジュニアユースのチームを辞めることになった。時々Jリーガーも輩出するような強いチームに属していて、本人はサッカーの強豪校に推薦で入学することをひそかにねらっていたようだ。しかしチームメートとの実力差が徐々に明らかになり、サッカー推薦では希望する高校に進めそうにもなく勉強に専念した方がいいと本人も感じたようだ。将来サッカーで食べていけるわけもなく、以前からどこかで勉強に切り替えさせなければ、と考えていた親としてはホッとしている反面ぽっかりと大穴のあいたような寂しさもある。ほとんどの週末をサッカー観戦で過ごしてきた私に差し迫った問題は、今後週末に何をするのか、夫婦で何を話題に会話するのか、である。週末横浜に帰るモチベーションも薄れ、栃木でゴルフでも始めようかと考える今日この頃である。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児・先天性心臓血管外科
講師 友保 貴博
近況報告

2022年1月からとちぎ子ども医療センターで働き2年になりました。

群馬小児医療センターにも勤務していた時もそうでしたが、栃木群馬エリアは自然が多く小旅行するにはとても良い環境のように思えます。観光地でいうと那須、日光などメジャーなところから大谷資料館や足利フラワーパークのような観光スポットなどもありドライブなども楽しめます。温泉はおすすめで、以前働いていた群馬でも近くに色々な温泉がありましたが、とちぎは鬼怒川温泉や塩原温泉などのメジャーな温泉地と、さらにその奥地に秘境と呼ばれるような温泉もあり、行くには時間がかかりますがなかなか経験できないような秘湯に巡り合えます。温泉が好きな方は日本秘湯を守る会というサイトがおすすめです。

昨年松井先生がチームに加わり安定した一年が過ごせたと思います。秋から山本先生が加わり5人態勢の時期もありました。働き方改革にも取り組めるように柔軟な働き方の推進や過度な残業を

防ぐような工夫をしながら地域拠点化にも対応できるようなハートチームを有することができるように医療を行っていきたいと思います。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター

小児・先天性心臓血管外科

助教 金子 政弘

近況報告

栃木に来て丸2年が経ちました。それはそのまま単身赴任の年数になります。今回の単身赴任は2度目ですが、初めての単身赴任は、まだ家族が妻・長女二人だけの時で1年半でした。今は次女・長男と子どもが2人増えて5人家族からの単身赴任で、前回の年数も超えてしまいました。

ただ当然のことながら子どもたちは父親がいなくても着実に成長しているわけでありまして、先日次女が小学校の卒業式を迎えました。小学校1年生の入学時には手をつないで小学校へ連れて行ったことを思い返せば、卒業式で壇上に登って姿勢正しく校長先生から卒業証書を受け取っている姿や、お別れと感謝の辞をはっきりと述べている次女の姿を目の当たりにすると、とても感慨深かったです。来年、再来年と長女、長男の卒業式が続きます。ここしばらくは、父親がいなくても着実に成長する子どもの姿にうれしいながらも一抹の寂しさを感じる春を毎年迎えそうです。

次女の卒業前の最後の課題で、「父親が仕事をしている姿」の写真を頼まれましたので、病院で働いている姿を当たり障りのない範囲での写真を数枚送りました。次女からは特別何の反応も帰ってきませんでした。しかし、数か月前までは「大きくなったら何になりたい？」と質問したら「カラスになりたい!! (?)」と本気で答えていた一風変わった長男が、その写真を見てどういった心境に至ったのか、突然「お医者さんになりたい」と言い出したみたいです。自分の職業に、子どもが少しでも憧れてくれたのが少しこそばゆいのと、次女だけではなく、長男の少しだけの成長を感じたこの3月でした。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター

小児・先天性心臓血管外科

病院助教 松井 謙太

近況報告

2023年1月から3月まで北里大学病院の小児チームで勤務させていただき、4月から自治医科大学とちぎ子ども医療センターに異動させていただきました。前立ち強化月間から始まり、執刀、前立ち、術後管理と、小児心臓手術の周術期に関して集中的に学ぶことができたと思います。まだまだ、学ぶこと、考えることが多く、力不足で多くの先生方にご迷惑をおかけしていますが、岡教授には根気強く御指導いただき、感謝の念に堪えません。また、友保先生、金子先生にも、様々御指導いただき、本当にありがとうございました。来年度も自治医科大学とちぎ子ども医療センターで勤務させていた

だけるので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

今年は、心臓血管外科専門医試験を受験する予定でしたが、北里大学で執筆していた論文が間に合わず、受験資格を満たすことができませんでした。北村先生にご助力いただいたにも関わらず大変申し訳ありませんでした。論文は無事に Journal of Cardiology Cases に掲載されましたので、今年度はしっかり勉強して、心臓血管外科専門医試験に臨む所存です。

また、プライベートでも大変な1年でした。第二子を妊娠していた妻が切迫流産で入院してしまい、長期入院となりました。さらに、第二子は早期に生まれてしまい、超低出生体重児のため長期にNICUでの管理となりました。出生後は挿管管理となり、合併症が心配されましたが、少しずつでも着実に成長することができ、4ヶ月の入院期間を経て、無事に我が家に帰ってくることができました。現在は定期的に通院していますが、大きな合併症もなく、すくすく育っています。家族に支えられて、何とか乗り越えることができ、妻や義父母には本当に感謝しています。今後も家族のために頑張っていこうと思います。

この一年、多くの先生方のご指導のもと、たくさんの経験を積ませていただきました。まだまだ、至らない点が多いですが、一步一步着実に成長できるよう邁進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、家族共々よろしくお願い申し上げます。

13. 独立行政法人労働者保険安全機構関 横浜労災病院



総手術件数

2023 年 4 月～ 12 月

開心術	34
末梢血管	44
ステント	11
その他	1

内訳－開心術

Conventional CABG	12
On-pumpbeating CABG	1
AVR	6
+ CABG	1
+ AAR	2
+ PVI, LAAC	1
MV repair	2
+ MAZE (including LAAC)	1
Bentall	1
Myxoma	1
LV rupture	1
AAR	1
TAR	1
+ CABG	2
TAAA	1

内訳－末梢血管，ステント

AAA (including juxtarenal type)	2
+ RAs reconstruction	1
Thrombectomy	5
ECMO removal	4
Repair of AV fistula	1
Lower limb bypass	2
Catheter removal	1
SFSA	1
EVLA	26
Deep venous reconstruction	1
TEVAR	2
EVAR	9
その他	1

横浜労災病院 心臓血管外科 部長
成田 卓也
近況報告

2022年の年末が近づく中、当時千葉西総合病院にいた私のもとに2023年4月から横浜労災病院心臓血管外科の部長職の話が飛び込んできました。それから環境が目まぐるしく変化し、この原稿を書いている2024年2月末日は一般社団法人心臓血管外科振興会の社員となってからはや一年、横浜労災病院着任からももう少しで一年になろうとしております。

過去の年報を拝読すると他の施設でもみなさんおやりになられておりますが、私自身も2024年に着任して最初のうちはマニュアルを整備し、また手術機器をふくめこれまでのやり方、体制を私なりの方法にあらためさせていただきながら、本格的な手術の開始に向けて毎週院内スタッフとシュミレーションに明け暮れておりました。

5月15日いよいよ新チーム発足後の初回症例となるのですが、やはり緊張はものすごいものでした。症例自体は特に問題なく終わって順調に退院となり、以後もゆっくりですが循環器内科よりご紹介いただく症例はふえていきました。わかってはいたことですが往々にしてとにかく前のチームと比較されることが多いのでどうしても意識する部分は出てきますが、それでもこれまでやってきたことを淡々とやっていくよう努めるようにしております。

周りからは「もともと年間100例の開心術をやっていた病院、すぐにそのくらい取り戻せるでしょう」と言われますが、北に聖マ、東に済生会横浜市東部と川崎幸、西に昭和大北部、南に横浜市立市民病院と神奈川県でも有数の開心術症例数を誇る病院ならびにTAVIの認定施設に囲まれており、もはや当院は建物自体も古く院内設備も時代に取り残されている部分が目立ってきております。また2024年4月からの働き方改革も当院のような公務員病院では症例数を増やしづらくさせていくことになるでしょう。こういった条件の中、如何に症例を増やしていくか？悩みは尽きませんが、とにかくアイデアを出しながらやれることを着実に積み重ねていきたいと思っております。

最後に、私にお声掛けくださった宮地先生、鹿田先生、この一年間診療援助でお越しいただいた北村先生、美島先生、福岡先生、横浜労災病院でサポートしてくれている岡田先生および石井先生、またその他多くの振興会の皆様にむけまして厚く御礼を申し上げ本稿を閉じさせていただきたいと思っております。

横浜労災病院 心臓血管外科 副部長
岡田 拓
自己紹介

初めて心臓血管外科振興会の年報に寄稿するにあたり、自己紹介をさせていただきます。神奈川県秦野市出身で都内の高校、その後三重大学に進学しました。自分がVSDであったことが影響してか小児科医を目指して医師になりましたが、卒後研修を終えた時に魅力を感じずしばらく心臓血管外科と救急科を並列して研鑽しておりました。

救急専門医を取得してからは心臓血管外科に専従し医局に属さず長く横浜労災病院に勤務しておりましたが、竹田前部長が退職される際に宮地教授よりお声をかけていただき心臓血管外科振興会に入会させていただきました。

これまで横浜労災病院で培った狭い成人心臓血管外科の知識しか持ち合わせておりませんでした。が、部長に就任された成田先生のみならず大学からお力添えして下さる北村先生、美島先生、福隅先生からも手術を学ばせていただく機会もありとても新鮮な一年となりました。

最後になりますが、心臓血管外科振興会に入会の機会を与えて頂いた宮地教授にはこの場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。また、振興会の会員の皆様におかれましても、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

14. 医療法人社団 一成会 たちばな台病院



2023 年 たちばな台病院 年間手術件数 (2023 年 1 月 1 日—12 月 31 日)

	1-9 月	10-12 月	合計
バスキュラーアクセス			
• シェント造設 自己静脈	10	6	16
静脈変位を伴う		1	1
人工血管	11	3	14
• シェント PTA	187	76	263
• シェント血栓除去	7	1	8
• 長期留置カテーテル	5	3	8
静脈			
• 下肢静脈瘤焼灼術		22 (29)	22 (29)
末梢動脈			
• 下肢 動脈血栓除去術		3	3
• 血栓内膜摘除、パッチ形成		5	5
• 四肢の血管拡張術	2	15	17
• Distal bypass		3	3
合計	215	145	360

たちばな台病院 血管外科部長
藤岡 俊一郎

近況報告

2018年4月から2023年9月まで、5年と半年の間勤務させて頂いた北里大学病院を離れ、2023年10月よりたちばな台病院に血管外科を開設させて頂きました。北里に来た年に生まれた次男も今年で6歳になります。月日の過ぎるのは早いものです。

血管外科の立ち上げに当たっては、美島先生、サンライフの熊谷さんをはじめ多くの人にお力添えを頂き、お陰様で順調なスタートを切ることが出来ました。初めての小規模病院での勤務となりますが、小規模病院のメリットを生かし、フットワークを軽くして、患者さんや近隣施設からの信頼を勝ち取ることが出来るように精進していく所存です。

プライベートでは高校生以来20年ぶりに硬式テニスを始めました。隣のクリニックの院長に付き合ってもらって、診療後にナイターのテニスコートを借りて、練習しています。外で運動することがこんなに気持ちの良いものだったと久しぶりに思い出しました。

ややをすると無理をしがちな自分の癖を十分に理解して、安全運転で1年間完走することを目標にやってまいります。

その他の施設

社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院



社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院長 宮本 隆司

<https://www.kodamakyodo-hp.jp/>

院長3年目の活動を報告いたします。

- ① 入院病床稼働率；春に120床へ増床しましたが、2022年秋に新型コロナ感染による院内クラスターが発生した影響で、病床稼働率が80%以下の日々が続きました。秋頃によりやく回復しましたが、今後は入院患者さんの増加を目的にした取り組みが必要と感じ、在宅診療チームからのレスパイト入院、往診診療、地域包括ケア病棟の開設準備など更なる診療システムの強化に取り組んでいきます。
- ② スタッフ確保；高齢化に伴う退職者が毎月のように複数名出現したため、新規採用者の確保に難渋した1年間でした。人材派遣業者への依頼で新たな展望が得られ新規就職希望者が増加したため、今後もリクルート活動の強化を進めてまいります。皆さんからのご紹介もお待ちしております。
- ③ 休日診療開始；毎月第1日曜日を外来診療日に設定すると同時に世田谷区の 休日当番医療機関（3ヶ月毎）も開始しました。当番日には、発熱患者さんや小児科、整形外科の患者さんも多数受診され、地域医療への貢献実践となりました。更なる外来診療の充実を目指したいと思います。
- ④ 地域医療連携強化；地域医療連携推進病院を目指して、東京都からいただいた補助金をもとに在宅医療、かかりつけ医、訪問看護ステーション、リハビリテーション、老健施設などとのネットワーク作りを強化しています。
- ⑤ 市民公開講座；地域に親しまれた病院作りと生涯教育の場を提供する事を目的として、地域市民の参加者を対象に医療講座を開催しました。今後も継続的に開催していきます。（12/6 開催写真紹介）
- ⑥ 看護学校講師；世田谷区医師会立看護高等専修学校の病理学講師を勤めました。病理学総論および循環器病理学を中心に講義しながら自らも日々勉強中です。
- ⑦ 個人的活動；
 - ① 学会活動；第13回日本小児禁煙研究会学術集会会長を拝命しました。
2024年9月22日に児玉経堂病院にて開催予定です。
 - ② 麻布大学獣医学部と共同でワンヘルスチーム（獣医療と医療の合同チーム AzOH）を設立しました（7/24 神奈川新聞記事紹介）。小児心臓外科医の経験を活かして心臓病の犬猫の救命に尽力したいと思います。
 - ③ 世田谷区医師会主催の第332回 SMGA ゴルフコンペ（大利根カントリークラブ（7/23）で優勝いたしました。今後もシングル目指して練習を重ねます。

業 績

<国内学会発表>

- 1) 宮本隆司, 打田俊司 薦田烈；成人先天性心疾患の重症心不全患者の人生の最終段階における望ましい医療について - アンケート調査の最終報告 -
第24回日本成人先天性心疾患学会，会長要望セッション 4. 2023.1.14. 松山

- 2) 宮本隆司；心不全患者の木防已湯投与後の好中球／リンパ球比（NLR）変動の意義について．第 87 回日本循環器学会，ポスター．2023.3.12. 福岡
- 3) 草刈雄登，宮本隆司，青木卓磨 他；心房中隔欠損症閉鎖後に右室左室拍出量不均衡により急性左心不全を発症した猫の 1 例．第 118 回日本獣医循環器学会 一般講演 2023.7.1. 東京
- 4) 草刈雄登，宮本隆司，青木卓磨 他；フレンチ・ブルドッグの肺動脈狭窄再発例に対して人工血管を用いて外科的矯正術を 実施した 2 例．第 119 回日本獣医循環器学会 一般講演（優秀演題） 2023.12.17. 東京

<国際学会発表> 無

<誌上発表（著者及び共著者）>

- 1) Shiga T.Kamiya Y,Ohkubo M,Miyamoto T,Kakinuma Y, Kayanuma H, Aoki T, Fujii Y,Aihara N, Kamiie J. Cor triatriatum sinister with dextracardia in association with ostium secundum atrial septal defect, subpulmonary ventricular septal defect and bicuspid pulmonary valve in a pig. Journal of Comparative Pathology Volume 206, October 2023, Pages 13-16.

<座長>

- 1) 第 12 回日本小児禁煙研究会 会長講演 2023.4.2 名古屋
- 2) 第 24 回日本小児循環器学会 一般口演 術後遠隔期・合併症 2023.7.7 愛媛

<コメンテーター / 指定討論者> 無

<学会企画展示>

田原アショフの会 企画展示 第 71 回日本心臓病学会 (2023.9.8 ～ 9.10 東京)

<学会長・研究会長>

予定；第 13 回日本小児禁煙研究会学術集会 会長 2024 年 9 月 22 日 開催予定

<研究費・助成金> 無

<特許申請> 無

<著 書> 無

<教育・学生講義>

- ① 大分大学医学部心臓血管外科学生講義 「先天性心疾患」
- ② 世田谷区医師会立看護高等専修学校病理学講義 「総論・循環器」

<Azabu One Health Team 活動> 犬猫 開心術 合計 8 例（9 月～ 12 月病院改築のため休診）

Dogs;(8)	Mitral valve plasty	5 例
	Pulmonic stenosis 解除	2 例
	Double chambered RV	1 例



人工血管を用いた犬肺動脈形成術



田原・アショフの会 企画展示
心臓病学会小野会長と記念撮影



市民医療講座

医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック



医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック 理事長 / 院長 大久保 博世

休みは重要

早いもので開業して4年目になりました。

クリニック経営は軌道に乗り、3年目の下肢静脈瘤血管内焼灼術は652件966肢(下肢静脈瘤関連手術748件)、経皮的シャント血管内拡張術は712件(透析シャント関連手術788件)、粉瘤は12件を治療することができ、血管外科の日帰り手術の1548件を安全に治療することができました。静脈瘤は昨年よりは減ったものの、シャント関連手術が昨年より200件ほど増えています。昨年度はたくさん粉瘤手術を行っており、google検索で相模原、粉瘤で検索すると一番上に表示されていましたが、血管外科手術に影響が出てしまうため、やめることにしました。相模原に粉瘤難民が少し出ています。

最近働き過ぎてしまうため、1か月に22日以上は働かないようにしています。前もって日程をチェックし、働く日が多い月は強制的に休みを入れるようにしています。コロナも落ち着いたので、今年度から学会に参加することとしました。4月は外科学会で名古屋、5月は血管外科学会で大分の別府、6月は静脈学会で軽井沢、12月には国際学会に参加する予定にしています。また、血管外科の開業医仲間の会が2か月おきに定期的であり、ミシュランガイドに出てくるような都内の有名レストランを食べ歩いていて、情報交換をしています。私は最年少であり、クリニック経営について教わることばかりです。

医者として働くことができるのはあと20年位であるため、最近クリニックをどのように繁栄させていくかを常に考えています。分院計画もしていましたが、予定していた医師の技術力がかなり厳しかったため、断念しました。静脈瘤も透析シャントも簡単な手術ですが、治療戦略と技術力が上手くないと再発しますし、閉塞もするため、クオリティが求められます。もちろん開業という形態でもあるため、知的能力的要素であったり社会・対人関係的要素、自己制御的要素などの人間力が大前提です。最近、人間力のある後輩が立候補してきており、3年後くらいに分院化を考えています。

現在も、藤岡俊一郎先生に手伝っていただいておりますが、その他にも慶應義塾大学病院の専任講師の松原健太郎先生や、済生会横浜市東部病院血管外科部長の下河原達也先生、私自身が下肢静脈瘤レーザー焼灼術を指導した桜井祐加先生にも相変わらず手伝っていただいております。

今後も微力ではございますが、引き続き母校大学病院の血管外科をサポートできるようにしていきたいと思っております。

以 上

入澤クリニック



入澤クリニック

院長 入澤 友輔

続コロナ後遺症 不幸の連鎖

昨年（2023年）2月7日にインフルエンザに罹患しました。その後、おそらくコロナ後遺症になってしまったようです。以降一年以上体調がいい日が一日たりともありません。あまりにも体調が悪いので昨年7月に人生で初めて人間ドックに行ってきました。結果は特に異常所見無くコロナ後遺症かなと思っています。昨年は厄年だったのですが、その後も不幸なことが続きました。左上奥歯の虫歯が再発し、根管治療なるものを受けました。その後、右眼の一過性視力低下が起きました。最後の極めつけが12月下旬に自転車で転倒し負傷をしました。その際コンビニで買っていた一升瓶の焼酎を割ってしまいました。体は強かったのか幸い骨折などなく打撲ですみましたが、自転車で転倒したのは小学生以来です。数十年に一度の悪い事が一遍にやってきたようです。あと、メカニズムは不明ですが、コーヒーとお酒を飲むとコロナ後遺症が悪化します。後頸部～上腕、背中のだるさ・筋肉痛が悪化し仕事ができなくなります。最初のうちはアルコールは気のせいということにして飲んでいたいのですが、やはり日常生活にも支障を来すようになってきたため最近では禁酒しています。1ヶ月以上禁酒したのは22歳以来初めてで、いつもお酒とコーヒーを飲みたい欲にかられています。医師3年目の時に、小児心臓を回っていたときにECMOが2台回っていたため1ヶ月のうち、20日ほど当直をしていた時期がありました。現在は働き方改革でそのような事はないと思うのですが、そのときの勤務より今のコロナ後遺症の方がずっとつらいです。また緊急手術のためほぼ3日間寝ずにオペ室にいたこともありましたが今思えば心地よい倦怠感だったかもしれません。今は得体の知れない倦怠感と闘っています。

同時に私を悩ましていたのが職員問題です。当院には父の代から雇用している問題職員がいました。父もその職員には手を焼いていたようです。患者さんに対する接遇が著しく悪く、受付窓口で患者さんを泣かせてしまったこともあります。私もその都度注意をしていたのですが、困ったことに本人の自覚が無く全く改善が見られませんでした。私は基本的に勤務中に怒ることほとんどないのですが、医者人生で初めて怒った医療事務が自分のクリニックの問題職員でした。これは自分としてもとてもショックでした。また、ある日先輩職員がその問題職員に仕事を頼んだことがあったのですが、その業務内容が気に食わなかったのか、先輩職員のロッカーがボコボコにされるという事件もあったようです。本人曰く転んでぶつかってしまったと、先輩職員に言ったようですが、当院の職員休憩室は整理整頓され床に物が散乱している状態ではありません。また普通に考えても転んでぶつかってロッカーがへこむ訳はありません。その後のある日のことです。当院のかかりつけの患者さんが酔っ払って電話をしてきました。私も実際に電話対応をしました。『先生、俺ち○ぽがたたないんだよ』等のセクハラ発言もしていました。その問題職員はその患者さんに、受付事務から隣の診察室に聞こえるまでの大声で怒鳴り返していました。待合室には少ないながらも患者さんもいました。それを聞いていた私は、いくら相手が酔っ払ってセクハラ発言をしたとはいえ、その対応はしてはいけなくてその問題職員を諭し反省文を書くように促しました。しかしその問題職員は、『患者さんからクレームが来ましたか？来てないのであれば私は書きません。』と言い返してきました。これまでも色々

と問題を起こしていた職員であったため、もはや救いようがないと私は思い、解雇をしようと考えました。しかし、現代の労働基準法では、こんなモンスター職員でも雇われる側は強い力で守られています。解雇に関して色々調べたのですが、裁判をすると雇用主が負けることがほとんどのようです。そのため、モンスター職員に関して以前から相談していた社会保険労務士の先生に相談し、退職勧奨にもっていくように話を進めました。ちなみに反省文を書かないということは退職勧奨の立派な理由になるようです。モンスター職員はそれでも当院で働きたかったため、お互いICレコーダーを持参しての面談が行われました。いわゆる修羅場です。コロナ後遺症で体調もすこぶる悪いのに新しい問題が次々に起こります。勤務医とは違って雇用主だとかこういったストレスも多いのだと実感しました。今回の件はなんとか退職勧奨で落ち着きましたが、今後何を言ってくるかわからない怖さもあります。最近では良くも悪くも色々な情報がネットに飛び交っています。今回の件も雇用される側が大きく守られているということを相手側が知っていて、このような大きな態度にでているということが感じられました。このように一回雇ってしまうと辞めてもらうのに大変苦労するということを身をもって体験しました。また雇用される側が大きく守られている現代の労働基準法に関しては大きく改善しなくてはいけない部分があると強く感じました。皆さんも雇用主になり、問題職員が生じた場合は、都度注意し、メモ（〇年〇月〇日〇時に何をして、どういう注意をした等）を残すことをお勧めします。

今回は暗い年報になってしまいましたが皆さんも健康には気をつけて下さい。早くコロナ後遺症とストレスから解放されて浴びるようにお酒が飲みたいです。

みらいハートクリニック

みらいハートクリニック院長 宝来 哲也

2023年3月末をもってNCGMでは診療科長から非常勤医師となり、外来診療を継続しています。時折手術にも手洗いし、外科医仲間たちとチーム医療に参加できるのは楽しみです。邪魔にならぬよう気を付けていきます。Hybrid ORの工事がついに始まりました。ここまでの道のりは長かったので、完成が楽しみです。4月開始のクリニックは、まわりの人に助けられ、つぶれることなく1年続けることができました。仕事、生活で色々なことが変わりましたが、一度立ち止まり、現存在としてのあり方を考える機会となったかもしれません。北里大学、NCGM、法人の皆さまには助けてもらってばかりで、今度は与えることができるようになっていきたいと思っています。

著書

診断と治療 2023年 Vol.111 No.10【特集】心筋炎・心膜炎，感染性心内膜炎を診る，治す，感染性心内膜炎の外科手術とタイミング，再発予防，フォローアップのありかた

発刊によせて

年報（2023 年）に寄せて

北里大学名誉教授 同胸部外科元教授、同呼吸器外科前教授 吉村 博邦



宮地教授の誕生から今年 14 年目を迎えた。北里大学病院のホームページによる宮地教授の心臓血管外科の科長挨拶によると、「北里大学医学部心臓血管外科は、2014 年血管外科が一般外科より心臓血管外科に移り、心臓から末梢血管まで、新生児から超高齢者まですべてを網羅した心臓血管外科として日本をリードする施設の一つです。」と記されている。その時以来でも 10 年、光陰矢の如し、早いものである。2022 年の手術実績では、コロナの影響で制約のある中、成人心臓外科 263 例、小児心臓外科 79 例、血管外科 111 例となっている。これだけの手術を大過なくやり終えるには大変な苦勞であろう。更に大学では教育と研究が加わる。教室の運営とともに、学会活動では日本胸部外科学会の理事をお務めである。激務の中体調を管理され、益々のご発展を祈っている。

さて、私は昨年 11 月で 82 歳となり、毎月 1 回の練馬光ヶ丘病院の顧問会に出席し意見を述べる以外、毎日が日曜日の生活を送っている。76 歳の時、脳梗塞発症以来、左下半身の動きが十分でなく、未だに杖による歩行を余儀なくされている。普段は家の周りを散歩したり、近くの障害者スポーツセンターに行きレッグプレスやら自転車こぎなどでリハビリを続けている。時々学会の懇親会などに車椅子で参加し、教授に出会ったり、昔の仲間と懇親を深めたり、また、中学や高校の同窓会にも出来る限り出席している。昨年 5 月には長野県の御代田にある山小屋に行き思い切り緑を楽しんだり、8 月には実家のある鳥取に墓参りに行ったり、そこで 6 人の孫とその親達との大家族の中で、のんびり余生を楽しんでいる。もう少し歩きがスムーズになれば活動範囲が広がると思いつつ過ごす毎日である。

一般社団法人心臓血管外科振興会 会員紹介

役 員



代表理事（会長）
海老名総合病院顧問

小原 邦義



理事（副会長）
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス理事長

賛 正基



理事
北里大学病院主任教授

宮地 鑑



理事
北里大学病院教授

鳥井 晋三



理事
北里大学病院診療教授

北村 律



理事
自治医科大学とちぎ子ども医療センター

教授 岡 徳彦



監事
九州大学法学部教授

寺本 振透



特別会員
児玉経堂病院院長

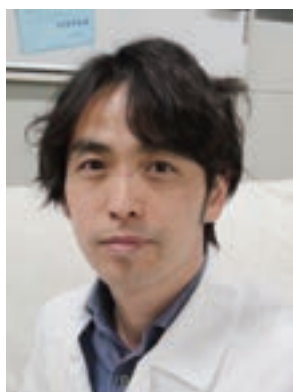
宮本 隆司



特別会員
みらいハートクリニック院長

宝来 哲也

社 員



北里大学病院診療准教授

美島 利昭



大和市立病院

部 長 町井 正人



国立病院機構静岡医療センター

部 長 高木 寿人



NTT 東日本関東病院

部 長 華山 直二



群馬県立小児医療センター

部 長 岡村 達



相模原協同病院

部 長 中島 光貴



医療社会法人北斗 北斗病院

部 長 山本 信行



横浜労災病院

部 長 成田 卓也



国立国際医療研究センター

部 長 井上 信幸



関東労災病院

部 長 田中 佑貴



沖縄徳洲会 湘南厚木病院

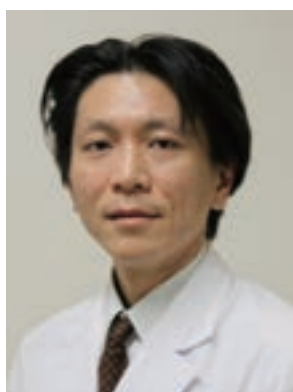
部 長 梶 健司朗



たちばな台病院血管外科

部 長 藤岡 俊一郎

会 員



海老名総合病院

医 長 柴田 講



相模原協同病院血管外科

部 長 田村 幸穂



北里大学病院講師

鹿田 文昭



オクラホマ大学小児病院

Attending surgeon 中村 祐希



北里大学病院講師

福隅 正臣



自治医科大学とちぎ子ども医療センター

講 師 友保 貴博



自治医科大学とちぎ子ども医療センター

助 教 金子 政弘



相模原町田血管外科クリニック

院 長 大久保 博世



横浜労災病院

医 員 岡田 拓



入澤クリニック

院 長 入澤 友輔



北里大学病院診療講師

松下 弘



国立病院機構静岡医療センター

医 長 内藤 敬嗣



国立病院機構静岡医療センター

医 長 波里 陽介



NTT 東日本関東病院

医 員 田村 智紀



海老名総合病院

医 長 笹原 聡豊



クイーンズランド小児病院
臨床研究員 井上 崇道



シカゴ大学研究員
林 秀憲



国立国際医療研究センター
医 員 松代 卓也



ベルン大学
荒記 春奈



北里大学病院助教（研究員）
泉二 佑輔



群馬県立小児医療センター
医 員 松永 慶廉



医療社会法人北斗 北斗病院
医 員 大友 勇樹



関東労災病院
医 員 土田 勇太



海老名総合病院
非常勤医員 堀越 理仁



相模原協同病院

医 員 村井 佑太

準会員



沖縄徳洲会 湘南厚木病院

医 員 豊田 真寿



海老名総合病院

医 員 大西 義彦



医療社会法人北斗 北斗病院

医 員 大友 有理恵



自治医科大学とちぎ子ども医療センター

助 教 松井 謙太



国立病院機構静岡医療センター

医 員 中村 優飛



北里大学病院助教（病棟医）

田村 佳美



群馬県立小児医療センター

医 員 畑岡 努



国立病院機構静岡医療センター

森 久弥



北里大学病院助教（病棟医）

石脇 大喜



北里大学病院助教（病棟医）

金田 咲良



竹田総合病院

医 員 杉本 明生



国立国際医療研究センター

医 員 横塚 洸

一般社団法人心臓血管外科振興会関係者



北里大学名誉教授

吉村 博邦



NTT 東日本関東病院

医 員 後藤 博志

秘 書



渡邊 みゆき

賛助会員（2023.12 月現在）

泉工医科工業株式会社
日本メドトロニック株式会社
マリンクロットファーマ株式会社
CTM 株式会社
株式会社サンライフ
株式会社アスト
株式会社バイタル
株式会社アルバース
株式会社イノメディックス
株式会社ジェイ・エム・エス
テルモ株式会社
エドワーズライフサイエンス合同会社
アボットメディカルジャパン株式会社
日本ライフライン株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
センチュリーメディカル株式会社
日本アビオメッド株式会社
テクノウッド株式会社
株式会社ウイン・インターナショナル
株式会社ムトウ
株式会社エムシー
株式会社ニューポートメディカル
ニプロ株式会社

廣 告

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。〕
- 2) 重度の肝障害のある患者〔使用経験がない。また、種類において重篤な肝障害の報告がある。〕
- 3) 強いCYP3A4誘導剤〔リファンシリン、セイヨウオトギリソウ含有食品、カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、リファブチン〕を投与中の患者〔「相互作用」の項参照。〕
- 4) 本剤及び本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧症

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

1. WHO機能分類クラスIにおける有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の使用にあたっては、最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討すること。

【用法・用量】

通常、成人には、マシテンタンとして10mgを1日1回経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 投与開始前の肝酵素(AST、ALT)値のいずれか又は両方が基準値上限の3倍を超える患者〔使用経験がない。〕〔「重要な基本的注意」の項参照。〕
- 2) 透析中の患者〔使用経験がない。〕
- 3) 重度の貧血のある患者〔「重要な基本的注意」の項参照。〕
- 4) 低血圧の患者〔「重要な基本的注意」の項参照。〕

2. 重要な基本的注意

- 1) 本剤の投与に際しては、以下について説明及び指導し、妊娠する可能性のある女性には本剤投与開始前及び投与中は1ヵ月に1回妊娠検査を実施すること。〔「禁忌」及び「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。〕
- (1) 妊娠中に本剤を服用した場合の胎児に及ぼす危険性
- (2) 投与中及び投与中止後1ヵ月間は確実な避妊法を用い、妊娠した場合若しくはその疑いがある場合には、医師に直ちに連絡すること
- (2) 他のエンドセリン受容体拮抗薬において肝酵素値上昇が認められているため、肝機能検査を必ず投与開始前に、投与中は、必要に応じて肝機能検査を定期的に実施すること。本剤投与中に臨床的に顕著にAST、ALT値が上昇した場合、これら肝酵素値上昇に伴いビリルビン値が基準値上限の2倍を超える場合、又はこれら肝酵素値上昇に伴い黄疸などの肝障害の徴候を伴う場合には、本剤投与を中止すること。〔「慎重投与」の項参照。〕
- 3) 本剤の投与によりヘモグロビン減少が起こる可能性があるため、本剤の投与開始前及び投与中は必要に応じてヘモグロビン濃度を定期的に測定することが望ましい。〔「慎重投与」の項参照。〕
- 4) 肺静脈閉塞性疾患患者において、血管拡張薬を使用した場合に肺水腫の発現が報告されているため、本剤を投与しないことが望ましい。また、本剤の投与により肺水腫の徴候がみられた場合は肺静脈閉塞性疾患の可能性を考慮すること。肺静脈閉塞性疾患が疑われた場合には、本剤の投与を中止すること。
- 5) 重度の腎障害のある患者では、本剤の投与により低血圧及び貧血が起こる可能性があるため、血圧及びヘモグロビンの測定を考慮すること。
- 6) 本剤は血管拡張作用を有するため、本剤の投与に際しては、血管拡張作用により患者が有害な影響を受ける可能性がある状態(降圧剤投与中、安静時低血圧、血流量減少、重度の左室流出路閉塞、自律神経機能障害等)にあるのかを十分検討すること。〔「慎重投与」の項参照。〕

3. 相互作用

本剤は主にCYP3A4及びCYP2C9により代謝される。

1) 併用禁忌(併用しないこと)

強いCYP3A4誘導剤〔リファンシリン(リファジン)、セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品、カルバマゼピン(テグレート)、フェニトイン(アレビアチン)、フェノバルビタール(フェノバル)、リファブチン(ミコブチン)〕

2) 併用注意(併用に注意すること)

強いCYP3A4阻害剤〔ケトコナゾール、HIV感染症治療薬(リトナビル等)〕
中程度のCYP3A4阻害作用かつ中程度のCYP2C9阻害作用を有する薬剤〔フルコナゾール〕
CYP3A4誘導剤〔エタビリン、モダフィニル、ルフィナミド等〕

※経口剤、注射剤は国内未発売

4. 副作用

国内臨床試験において、安全性解析対象症例30例中21例(70.0%)41件に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛9例(30.0%)、潮紅7例(23.3%)、貧血、浮腫及び末梢性浮腫が各2例(6.7%)であった(申請時)。海外臨床試験において、安全性解析対象症例⁽¹⁾⁽²⁾242例中56例(23.1%)に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛12例(5.0%)、貧血9例(3.7%)、浮動性めまい及び末梢性浮腫が各6例(2.5%)であった(申請時)。

1) 重大な副作用

- (1) 貧血(4.0%)⁽¹⁾⁽²⁾貧血、ヘモグロビン減少が起こる可能性があるため、定期的な検査及び十分な観察を行い、異常が認められた場合はその程度及び臨床症状に応じて、投与中止など適切な処置をとること。〔「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照。〕
- 注1) 海外臨床試験成績の10mg投与群より算出した。
- 注2) 海外及び国内臨床試験成績の10mg投与群より算出した。

【承認条件】

・医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

●その他の使用上の注意等につきましては、電子添文をご参照ください。



製造販売元(文献請求先・製品情報お問い合わせ先)

ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

<https://www.janssen.com/japan/>

<https://www.janssenpro.jp/> (医療関係者向けサイト)

©Janssen Pharmaceutical K.K. 2015-2023



創薬・処方箋医薬品(注意・医師等の処方箋により使用すること)

エンドセリン受容体拮抗薬

薬価基準収載

オプスミット錠10mg

Opsumit 10mg マシテンタン錠

販売提携先



日本新薬株式会社

〒801-8550 京都市南区吉原西ノ庄門口町14

2023年10月作成

血漿分画製剤

薬価基準収載

ボルヒール®組織接着用

生体組織接着剤 BOLHEAL® 献血

特定生物由来製品 処方箋医薬品 注意・医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元

KMバイオロジクス株式会社

熊本市北区大塚一丁目6番1号

販売元

JB

一般社団法人

日本血液製剤機構

東京都港区芝浦3-1-1

BOL-202007

【文献請求先及び問い合わせ先】

一般社団法人 日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>



幸せをつなぐ
パートナーでありたい

株式会社 アペックス・インターナショナル



■本 社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング二号館3階 TEL: 03-5909-5280 FAX: 03-5909-5281
 ■神奈川営業所：〒216-0005 神奈川県川崎市宮前区土橋2-11-12 向山ビル1階 TEL: 044-870-1340 FAX: 044-870-1341
 ■多摩営業所：〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘2-31-11 TEL: 03-6279-6274 FAX: 03-6279-6275
 ■新横浜営業所：〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-13 TPR新横浜ビル2階 TEL: 045-473-3201 FAX: 045-471-7090

医療・健康ニーズに応えて、
人々の健康・福祉にいっそう貢献したい。



患者さんのために、わたしたちにできることがきっとある。
これからも医療・健康ニーズをとらえ、独創的な新薬を開発してまいります。



持田製薬株式会社

<https://www.mochida.co.jp/>



信頼と実績で医療を支える
ベストパートナーを目指して。

最先端医療機器・医療器具を現場に完全サポート
株式会社 サンライフ

本社：〒252-0324 神奈川県相模原市南区相武台 3-28-11
TEL.046-254-1137 FAX.046-254-7254 E-mail:sunlife@sun-life.jp http://www.sun-life.biz/



LSI SOLUTIONS®

COR-KNOT®

COR-KNOT チタンクリップセット

製造販売元 **VITAL**
株式会社バイタル
〒140-0002 東京都品川区東品川 1丁目2番5号 リバーサイド品川港南ビル6階
TEL: 03-3458-1261 FAX: 03-3458-1263
URL: http://www.vital-j.co.jp E-mail: marketing@vital-j.co.jp

製造元 **LSI SOLUTIONS®**
LSI Solutions (米国)

医療機器承認番号: 30200BZ100038000
販売名: COR-KNOT チタンクリップセット



Technowood[®] STERILE SHEET ステリシート

術者側と器械側回路の最短化を実現し、
プライングボリュームの削減が可能

接触面積
標準面積

A病院

1912.9cm²

ステリシート付き回路

標準

5813.8cm²

標準：JaSECT標準化委員会推奨弊社回路

成人回路（人工肺を除く）

血液接触面積比 **67%減少**



<https://www.technowood.co.jp>

販売名：テクノウッドPTSNEO人工心肺回路セット 医療機器承認番号：23000BZX00290000



HT520AF/FlowXLシステム

FlowXL[®]

Advanced Model Transit Time Flowmeter
Flow-Assisted Surgery

管理医療機器 特定保守管理医療機器
一般の名称：超音波血流計
販売名：超音波血流計 FlowXL
医療機器認証番号：303ADBZX00091000



transonic
THE MEASURE OF BETTER RESULTS.

製造販売業者 株式会社ニプロ・トランソニック
〒359-0044 埼玉県所沢市松葉町11-1 マルハビル7階
TEL：04-2946-8541 FAX：04-2946-8542
ホームページ www.transonicjapan.com

(資料請求先)

NIPRO

販売 ニプロ株式会社
大阪府摂津市千里丘新町3番26号

2023年5月作成

Right for today. Ready for tomorrow.

INSPIRIS RESILIA Aortic Valve



インスピリスRESILIA大動脈弁は20年以上の長期臨床成績が報告されているPERIMOUNTをプラットフォームとし、RESILIA心膜を採用した生体弁です。RESILIA心膜とは、キャッピング処理およびグリセリン処理を施すことにより、組織から不安定なアルデヒドが減少し、保管時にアルデヒドにさらされないウシ心の膜です。

販売名：インスピリスRESILIA大動脈弁 承認番号：22900BZX00053000

※ ご使用の際には製品の添付文書を必ずお読み下さい

Edwards, エドワーズ, Edwards Lifesciences, エドワーズライフサイエンス, 定型化されたEロゴ, INSPIRIS, インスピリス, INSPIRIS RESILIA, PERI, PERIMOUNT, ペリマウント, RESILIAおよびレジリアは、Edwards Lifesciences Corporationまたはその関係会社の商標です。その他の商標はそれぞれの商標権者に帰属します。

© 2024 Edwards Lifesciences Corporation. All rights reserved. EW2020127

製造販売元 エドワーズライフサイエンス合同会社

本社：東京都新宿区北新宿2丁目21番1号 Tel.03-6895-0301 edwards.com/jp



Edwards

緊急医療に迅速に、
誠実に、的確に対応いたします

A dvanced
S cience
&
T echnology

私たちは、
常に明日を見つめています。



株式会社アスト

本社

埼玉県東松山市元宿2丁目36番地20
TEL 0493(35)1811(代) FAX 0493(35)1860

さいたま営業所

埼玉県さいたま市中央区円阿弥5丁目8番40号
TEL 048(859)0011(代) FAX 048(859)0017

群馬営業所

群馬県前橋市表町1丁目21番地9
TEL 027(220)4366(代) FAX 027(220)4367

神奈川営業所

神奈川県川崎市川崎区進町9番地1
TEL 044(221)6720(代) FAX 044(221)6725



栃木営業所

栃木県宇都宮市京町15番16号
TEL 028(639)9088(代) FAX 028(639)9035

東京営業所

東京都新宿区荒木町23番15
TEL 03(3225)3588(代) FAX 03(3225)3566

松戸営業所

千葉県松戸市稔台7丁目2番地22
TEL 047(710)3111(代) FAX 047(710)3188

千葉営業所

千葉県千葉市中央区弁天1丁目12番8号
TEL 043(290)1855(代) FAX 043(290)1066

わたくしたちは、明日の医療を
お客様とともに考える
ソリューション・パートナーを目指します



【取扱製品】

心臓ペースメーカー ICD CRT 人工心臓弁 人工血管 人工心肺回路 スtentグラフト TAVI コロナリースtent
各種カテーテル 循環器関連機器 他



循環器・心臓血管外科分野の専門商社

株式会社 エムシー

本 社

東京都渋谷区代々木 2-27-11 AS-4 ビル
Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725

本 社 分 室	Tel 03-5304-9007 / Fax 03-5304-9008
東京オフィス不整脈事業部	Tel 03-5333-2480 / Fax 03-5333-2472
東京オフィスCV事業部	Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725
東京オフィスIV事業部	Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725
千葉オフィス	Tel 043-212-7800 / Fax 043-212-5002
神奈川オフィス	Tel 045-476-3470 / Fax 045-473-7373
栃木オフィス	Tel 0285-47-1621 / Fax 0285-47-1622
群馬オフィス	Tel 027-220-5088 / Fax 027-224-8687
埼玉オフィス	Tel 048-839-8760 / Fax 048-839-8762
長野オフィス	Tel 0263-24-8050 / Fax 0263-28-1055
山梨オフィス	Tel 055-278-6520 / Fax 055-273-6540



ALVAUS

株式会社アルバース

循環器医療に、 こころ躍る未来を。

「最近の医療は大きく進歩していますよ」
ドクターのこの一言が患者様を
どれほど勇気づけることでしょう。
アルバースは循環器医療機器のエキスパートとして
その進歩を支えることで、医療現場の皆様の
患者様ひとりひとりの未来に
明るい希望を添えられます。

こころが躍る瞬間に、
アルバースも共にいます。

株式会社アルバース

本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-1 日本橋三丁目スクエア4F
TEL:03-6665-0485 FAX:03-6665-0486
URL: <https://www.alvaus.co.jp/>

オフィス: 東京・西東京・横浜・千葉・静岡・沼津・浜松・豊橋・金沢・福井・大阪
サテライト: 城南・立川・八王子・さいたま・川越・熊谷・太田・前橋

Webサイト



確かな提案力で、人と医療のために

Contribute
To
Medicine
医療業界への貢献



Customer
顧客第一主義
Technology
確かで信頼できる技術と知識
Mental
心・精神の安らぎ・笑顔

ヒトのココロの真ん中に

CTM株式会社 <http://www.c-t-m.co.jp/>

本社
〒466-0002 愛知県名古屋市昭和区吹上町1丁目201番
TEL(052)744-5550 FAX(052)744-5551

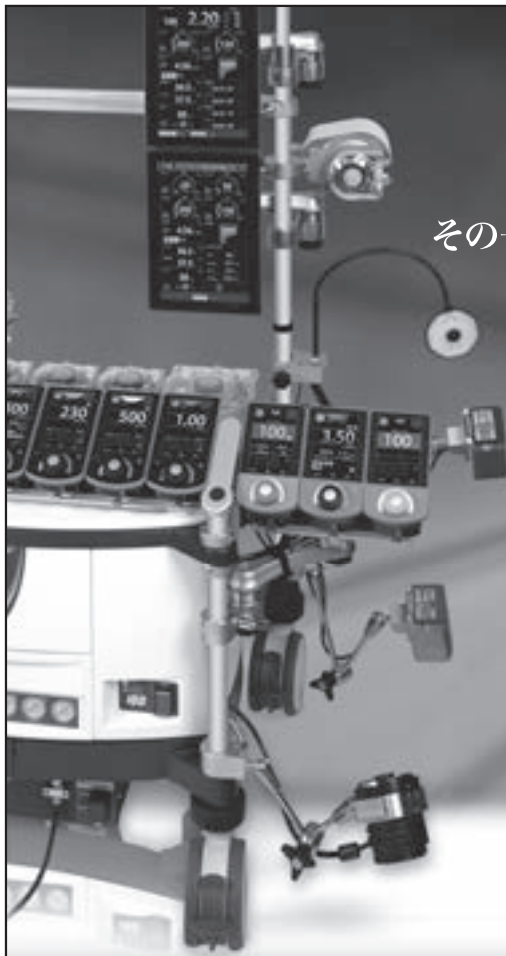
横浜営業所
〒232-0013 神奈川県横浜市南区山王町3-24-8 港横浜ビル5階
TEL(045)260-6206 FAX(045)260-6306

三重営業所
〒514-0013 三重県津市海岸町6番14号
TEL(059)213-7531 FAX(059)222-6322

埼玉営業所
〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷3-12-14 コートアベニュー1階
TEL(048)789-6770 FAX(048)789-6845

岐阜営業所
〒500-8152 岐阜県岐阜市入舟町1丁目8番地 シャンテ岐阜1階
TEL(058)216-0227 FAX(058)216-0228

安城営業所
〒446-0059 愛知県安城市三河安城本町一丁目32番地12
TEL(0566)91-2220 FAX(0566)91-2221



HASIII

未来の体外循環、
その一步目を“実績”と“進歩”が融合したHASIIIで。

販売名：メラ人工心肺装置HASIII 承認番号：23100BZX00003000

メラ遠心血液ポンプシステム HCS-CFP



UNIMO
MERA Centrifugal Blood Pump System

すべての機能（遠心ポンプ、電子ブレンダ、冷温水槽）がシステム架台に搭載しているリチウムイオンバッテリーにより運用ができ、さらなる小型で軽量ながら長時間の運用が可能です。遠心ポンプ単体にもニッケル水素バッテリーを搭載しており、単独使用の場合でも回路内圧2チャンネル、酸素飽和度1チャンネルのモニタリングが可能です。

販売名：メラ遠心血液ポンプシステム 承認番号：22700BZX00013000

従来までの高性能・高応答性、操作方法を保ちつつオペレーターを補助する機能を多数追加し、より「使い易く」を追求しました。駆動ユニット単体でも使用が可能です。小型・軽量により院内搬送を行い易く、また、ディスプレイを外した状態での使用も可能なため、多数の機器を併用する環境でも専有面積をとらずに使用が可能です。

販売名：コラートBP3 承認番号：22700BZX00095000

IABP駆動装置
corart BP3

販売業者

メラ 泉工医科工業株式会社

■問い合わせ先：本社商品企画：TEL.03-3812-3254 FAX.03-3815-7011

■営業拠点：札幌支店・東北支店・青森・盛岡・福島・関東支店・松本・新潟・東京支店・つくば・横浜・中部支店・静岡・金沢・関西支店・中四国支店・岡山・四国・九州支店・南九州





Beating Heart and Surgical Stabilization

—— フレックスシリーズ ——



サージカルアシスタントアーム



サージカルアシスタント



OFF-PUMPアシスタント



一般名称：開創器
一般名称：単回使用臓器固定用圧子
一般名称：単回使用臓器固定用圧子

販売名：サージカルアシスタントアーム
販売名：OFF-PUMP アシスタント
販売名：サージカルアシスタント

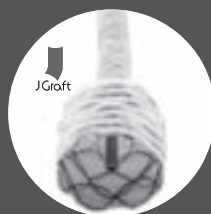
医療機器届出番号：13B1X00101000071
医療機器認証番号：228AA8ZX00131
医療機器認証番号：228AA8ZX00133

ALL in for AORTA



VASCULAR PROSTHESIS

JGraft



FOR AORTA

FROZENIX



AFX Endovascular
AAA System



Alto™ Abdominal Stent
Graft System

販売名：J Graft シールド
販売名：J Graft Openステントグラフト
販売名：AFXステントグラフトシステム
販売名：Alto腹部ステントグラフトシステム

医療機器承認番号：21100BZZ00483000
医療機器承認番号：22600BZX00033000
医療機器承認番号：22700BZX00387000
医療機器承認番号：30300BZI00016000

製造販売業者

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号 CVE 事業部 TEL.03-6711-5240
<https://www.jll.co.jp>

JLL Japan Lifeline

Medtronic

「柔」軟性がもたらす、 しなやかな追「従」性

「植え」込みの操作性は
ひとつ「上」のステージへ



SimuPlus™ シリーズ

Flexible Annuloplasty Ring and Band
for Mitral and Tricuspid Repair

日本メドトロニック株式会社
カーディアックサージェリー&アオルティック
〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

販売名: SimuPlus シリーズ
一般的名称: 弁形成リング
医療機器承認番号: 30300BZX00191000

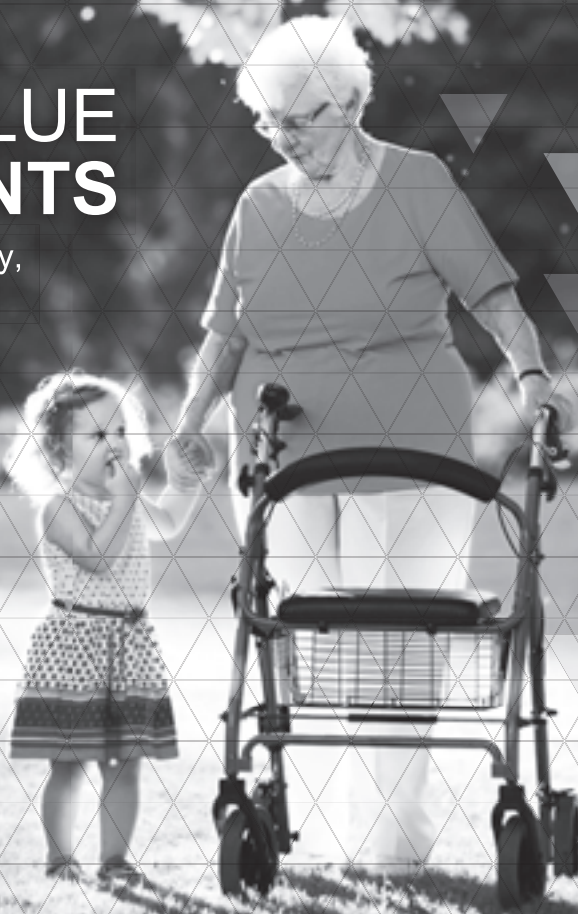
使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2022 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。
MC08337a



Mallinckrodt
Pharmaceuticals

SEEING VALUE FOR PATIENTS

Where others see complexity,
we see healthier lives



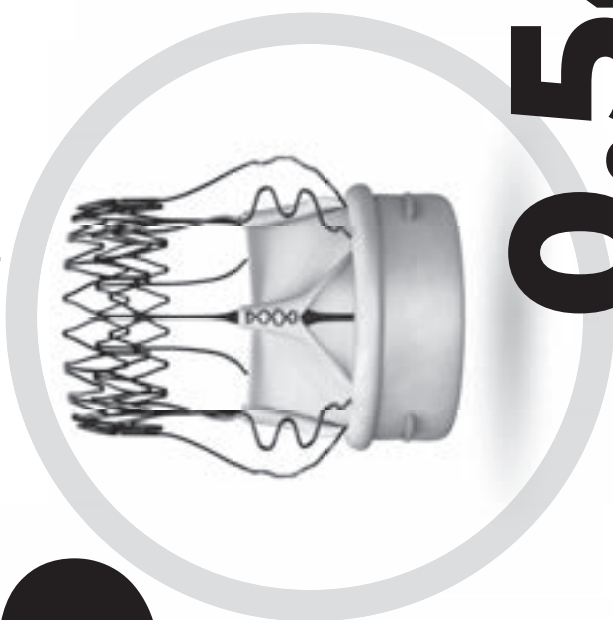
マリンクロット ファーマ株式会社

〒107-6030 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 30F
TEL 03-6234-1650 (代表)



PERCEVAL™ PLATFORM

15 Years of
Clinical Experience



0.54% p-y SVD
13 yrs max f-up¹

REFERENCE

1. Lamberigts M. et al., JTCVS (2022); doi: <https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2022.09.053>

Corcym Japan 株式会社

〒108-0075 東京都港区港南二丁目16番1号 品川イーストワンタワー7階
TEL.03-6894-4100



corcym
.com

2023 年一般社団法人心臓血管外科振興会年報 No,4

2024 年 5 月 31 日発行

編集・発行 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-2-20 神谷町 MT ビル 14 階
一般社団法人心臓血管外科振興会

